



Peregrine | AssetCenter
契約



© Copyright 2002 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

この製品はApache Software Foundation (<http://www.apache.org>) により開発されたソフトウェアを含みます。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.1.0に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



目次

はじめに (契約)	13
契約モジュールの対象ユーザ	13
契約モジュールの使用目的	14
本マニュアルの使用方法	14
1. 契約	17
契約のタイプ	17
契約の作成	18
契約が伴う資産の管理	19
資産を契約に追加する	19
契約から資産を削除する	19
追加日を変更する	19
別の方法で資産を契約にリンクする	20
契約賃貸料の計算	20
賃貸料の有効期限	20
賃貸料を配賦する	20
賃貸料の計算で使うフィールド	21
賃貸料にかかる税金	21
支払日	21
主賃貸料	22
契約に関連するローン	23

契約の詳細画面の [ローン] タブ	23
ローンに支払明細を追加する	24
ローンを資産に比例配分する	25
外部プログラムからローン返済明細をコピーする	25
契約の階層構造	25
契約に関する連絡先	26
2. リース - 概要	27
リース管理の主な用語	27
データの簡略モデル	28
一般的な手順	28
リース契約を作成する	30
リース契約特有の情報の指定	30
貸主	31
通知期限	31
リースの終了オプション	31
リース契約特有の手数料	32
貸付業者	32
損失額	32
契約上の資産	33
資産特有のリース情報	33
はじめに	33
資産1件ごとの賃貸料情報	35
マスターリースからリース明細に継承される情報	36
3. リース - 実用例	37
実用例について	37
実用例使用の必要条件	38
AssetCenterを起動する	38
AssetCenter Serverを起動する	38
手順1：リース契約を作成する	39
手順2：リース契約に関連する資産を選択する	44
手順3：賃貸料を計算する	45
手順4：資産の受領を承認し、一時金を計算する	47
手順5：契約に関連する経費を表示する	48
手順6：満了時に資産を返却する	49
手順7：処理をトラッキングする	50
4. リース - リース資産	53
リース明細に資産を追加する	53
調達サイクルから発生する資産の追加	54
資産のテーブル内で直接選択または作成された資産の追加	55

契約上の資産を表示する	58
資産の受領を承認し、一時金を計算する	58
資産の受領を承認する	59
一時金を計算する	59
契約上の資産を更新する	65
更新する資産の選択ウィンドウ	65
更新する賃貸料の選択ウィンドウ	66
新規賃貸料の定義ウィンドウ	66
更新日の定義ウィンドウ	66
資産の更新の結果	67
資産を返却する	67
返却を契約に関連付ける	67
返却する資産のリスト	68
資産を除却する	68
資産を買い取る	69
処理をトラッキングする	70
損失額の計算規則を定義する	70
損失額を計算する	72
[全期間で計算]	73
[指定した日付で計算]	73
損失額を更新する	74
5. リース - 賃貸料	77
方法1：契約賃貸料を計算し、契約上のすべての資産に配分する	78
[賃貸料x] サブタブページについて	78
賃貸料の計算を実行する前に	79
契約の「賃貸料x」を計算する	80
資産の賃貸料を計算する	80
賃貸料をすべての資産に比例配分する場合の計算規則	83
賃貸料の計算例	84
契約に資産を追加した場合	85
契約から資産を削除した場合	88
方法2：契約賃貸料を計算し、契約上の一部の資産に配分する	89
契約賃貸料を計算する	90
資産の賃貸料を計算する	90
一部の資産に賃貸料を配分する計算規則	91
契約に資産を追加した場合	92
契約から資産を削除した場合	94
方法3：契約賃貸料を計算し、契約上のすべての資産に1件当りの賃貸料を 配賦する	96
計算される値	96
契約に資産を追加した場合	97
契約から資産を削除した場合	97

方法4：契約賃貸料を計算し、契約上の一部の資産に1件当りの賃貸料を配賦する	97
計算される値	97
契約に資産を追加した場合	98
契約から資産を削除した場合	98
方法5：契約賃貸料を計算し、契約上の資産に配賦も配分もしない	98
契約賃貸料を計算する	99
契約に資産を追加した場合	99
契約から資産を削除した場合	100
計算方法を選択する	101
6. リース - 経費	103
AssetCenter Serverによる定期的な経費の作成	103
AssetCenter Serverを起動する	104
AssetCenter Serverの設定	104
定期的な賃貸料にリンクした経費明細の作成	106
契約に関連する経費を表示する	107
7. アプリケーションサービス	109
アプリケーションサービスの例	109
AssetCenterへのアプリケーションサービスの導入	110
アプリケーションサービスの詳細画面	110
基本情報	111
[全般] タブページ	112
[条件] タブページ	113
[従業員] タブページ	113
[契約] ボタン	115
アプリケーションサービス管理用のワークフローのアクション	115
このアプリケーションサービスの管理アクション	116
アプリケーションサービスに接続アクション	116
テクニカルサポートに電子メールを送信アクション	116
ユーザアカウントの管理ワークフロー	117
アプリケーションサービスの賃貸料計算ワークフロー	121
8. 用語解説 (契約)	123
承認 (Acceptance)	123
料率	123
一括発注	124
契約	124
マスターリース (SQL名: Master lease)	125
リース明細 (Lease schedule)	125
ローン (Loan)	125

支払期日	126
期間満了 (End of term)	126
配賦	127
利子	127
リース	127
賃貸料 (Rent)	128
一時金 (Interim rent)	128
主賃貸料	128
通知	129
支払回数	129
貸付業者 (Assignee)	130
比例配分	130
アプリケーションサービス	131
ローン返済明細	131
損失額 (Loss value)	131
買取額	132
市場価格	132
初回金	133
9. 参考情報 (契約)	135
メニューとタブページ (契約)	135
ツールバーのアイコン (契約)	138
インタフェースのオプション (契約)	138
テーブル (契約)	139
テーブル間の依存関係 (契約)	143
リストデータ (契約)	147
特殊フィールド (契約)	148
カウンタ (契約)	149
アクションとウィザード (契約)	149
AssetCenter Serverモジュール (契約)	151
システムデータと専門分野データ (契約)	151
レポートと書式 (契約)	152
自動アクション (契約)	152
API (契約)	153
ビュー (契約)	153
その他のマニュアル (契約)	153
ワークフローチャート (契約)	155

図の一覧表

2.1. 契約 - データモデル	28
2.2. リース - 手続きの手順	29
4.1. 損失額のタイプ - '定額法' の例	71
5.1. 賃貸料を契約上の資産に配分する - 図	83
7.1. ユーザアカウントの管理ワークフロー - 図	117

表の一覧表

9.1. メニューとタブページ (契約) - 一覧	135
9.2. テーブル (契約) - 一覧	139
9.3. テーブル間の依存関係 (契約) - 表	143
9.4. リストデータ (契約) - 一覧	147
9.5. カウンタ (契約) - 一覧	149
9.6. アクションとウィザード (契約) - 一覧	149
9.7. その他のマニュアル (契約) - 一覧	153
9.8. ワークフローチャート (契約) - 一覧	155

はじめに（契約）

契約モジュールの対象ユーザ

AssetCenterの契約モジュールは、設備や資産用に以下の契約を締結する企業向けに設計されています。

- 保険契約
- レンタル契約またはリース契約
- メンテナンス契約
- ライセンス契約
- 一括発注

契約モジュールのリース部分では、資産のリースにおける各段階を管理できるようになっています。

契約モジュールを使用するのは主に以下のユーザです。

- 財務管理者
- 購買管理者
- バイヤ
- ポートフォリオの管理者
- 法律顧問
- 資産トラッキングの管理者

契約モジュールの使用目的

契約モジュールは契約の文書化と管理に使用されます。

- 契約条件
- 利害関係者
- 賃貸料、ローンと税金
- 経費
- 契約に関連する資産と従業員
- 貸主と借主間の事務手続き
- リース契約の終了
- レポート

契約モジュール内のリース部分は、所有資産の総管理費用（TCO - Total Cost of Ownership）の管理に非常に有用です。Gartner Groupは、リース契約を適切なソフトウェアで管理することが、IT資産管理のコスト削減を図る最大の秘訣であると述べています。

本マニュアルの使用方法

「契約」の章

この章では、契約モジュールの基本的な機能の使用方法について説明します。ここでは、リース契約とアプリケーションサービス契約に関する詳細は省略します。

この章では契約モジュール機能の概要をつかむことができます。

「リース - 概要」の章

この章では、契約モジュールがリース契約の特性を管理する方法を説明します。ここでは、契約モジュールのリース部分の概要をつかむことができます。

「リース - 実用例」の章

契約モジュールのリース部分の機能を、AssetCenterのデモ用ベースで実行できる用例を使って説明します。

この用例では、契約作成から資産の返却までの段階が記述されています。

この実用的な例により、契約モジュールの大部分のテーブルと、頻繁に実行するタスク用ツールの使用方法を習得できるようになります。

契約モジュールの使用に慣れるためには、この章を通読してください。

マニュアルではこの後、各操作やテーブルの使用に必要な情報をまとめていません。

「リース - リース資産」の章

ここでは資産に直接関連するリースの管理方法を説明します。

- 追加
- 承認
- 更新
- 返却
- 購入（買い取り）
- 損失

AssetCenterでこれらの操作を実行するための手順は、この章を参照してください。

「リース - 賃貸料」の章

この章では契約賃貸料を計算する手順を紹介します。

以下の目的用にこの章を通読してください。

- 既存の計算方法の概要をつかむ
- 計算方法を導入する
- 資産の追加または削除がもたらす結果を理解する

「リース - 経費」の章

この章では、賃貸料に関連する経費計算を自動化し、計算結果を表示する方法について説明しています。

ここでは経費計算の実施方法を習得できます。

「アプリケーションサービス」の章

この章には、AssetCenterでのアプリケーションサービス管理に必要な情報が含まれています。

- 例
- 実施
- 管理される情報の説明
- 実用例

アプリケーションサービスの管理についてはこの章を参照してください。

「用語解説（契約）」の章

契約モジュールでは専門的な用語が使用されています。契約モジュールの主要用語は用語解説にまとめられています。

用語の理解にはこの用語集を通読してください。

「参考情報（契約）」の章

参考情報が記載されています。

契約モジュールに関連するAssetCenterソフトウェアの全コンポーネントについて、また補足の詳細情報については、この章を参照してください。

1 | 契約

AssetCenterでは、取引先との間で締結された契約（メンテナンス契約、保険契約など）を管理できます。

1つの契約に複数の契約を関連付けることができます。

契約は階層構造になっており、すべての契約が1つのテーブルで管理されます。

本章では、AssetCenterにおける契約の機能について説明します。

契約のリストを表示するには、**【契約】**メニューの**【契約】**を選択します。

契約の詳細画面に表示される一連のタブとその内容は、作成する契約の**【タイプ】**（SQL名：seType）によって異なります。

契約のテーブルは階層構造になっており、各契約に親契約と付属契約を関連付けることができます。

契約のタイプ

AssetCenterでは、様々なタイプの契約を管理できます。契約の詳細画面の上部の**【タイプ】**（SQL名：seType）フィールドには、契約のタイプが表示されます。このフィールドの値をリストデータから選択すると、その値に応じて契約の詳細画面に表示されるタブとその内容が決まります。

以下のタイプの契約があります。

- **マスターリース**
リース契約の全般的な条件を定義します。実際にリースする資産の明細や支払条件は定義されません。
- **リース明細**
以下の内容を定義します。
 - リース明細を定義します。
 - 契約に含まれる資産のリストと支払条件を指定します。
- **メンテナンス**
以下の内容を定義します。
 - メンテナンス契約を定義します。
 - この契約に関連する作業指示を管理します。
- **保険**
保険契約（保険証券）を定義します。
- **ライセンス**
ライセンスの同意事項を定義します。
- **一括発注**
【一括発注】タイプの契約では、購入者は指定された期間内に指定された最小の金額分の製品を購入しなければなりません。期限までに最小の金額に達しない場合は、購入者に罰則が適用されます。
- **その他**
上記のどのタイプにも該当しない契約を定義します。

契約の作成

契約を作成するには、

- 1 【契約】メニューから【契約】を選択します。
- 2 契約の編集用ウィンドウが表示されます。
- 3 【新規作成】をクリックします。
- 4 【タイプ】フィールドで契約のタイプを選択します。
- 5 本マニュアル内の説明に従い、必要に応じて各タブのフィールドに値を入力します。

契約に伴う資産の管理

1つの契約に関連するすべての資産は、契約の詳細画面の [資産] タブページで入力します。

このタブページは、次の契約タイプの場合に表示されます。


- [リース明細]
- [保険]
- [メンテナンス]
- [ライセンス]
- [その他]

資産を契約に追加する手順は、契約のタイプによって異なります。ここでは、[保険]、[メンテナンス]、および [その他] タイプの契約について説明します。


 注意:

リース明細に資産を追加する手順は、このマニュアルの「リース-リース資産」章の「リース明細に資産を追加する」の節に説明されています。


資産を契約に追加する

資産を契約に追加する（含める）には、リストの右の  ボタンをクリックします。資産を選択し、契約への追加日を入力します。



契約から資産を削除する

契約から資産を外し契約外の資産として指定するには、資産を選択して、リストの右の  ボタンをクリックします。

追加日を変更する

追加日を変更するには、 をクリックして詳細画面を表示し、[契約] タブページで変更します。

別の方法で資産を契約にリンクする

資産の詳細画面の【契約】タブページで資産を契約にリンクすることもできます。契約に資産を追加、または資産を削除するには、または~~~~ボタンを使います。

契約賃貸料の計算

賃貸料と定期的な支払についての詳細情報は、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページに入力します。このタブページは、次の2つの条件が満たされた場合にのみ表示されます。

- 契約が【マスターリース】ではない。
- 契約の【全般】タブページの【支払属性】（SQL名：sePayType）フィールドが【賃貸料】または【両方】に設定されている。

各賃貸料は、それぞれのサブタブページで指定します。


賃貸料の例：賃貸料（一般的な意味で）、保険、その他の手数料など。

賃貸料のサブタブページを追加するには、次の手順に従います。

- 1 サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックします。
- 2 【リンクレコードの追加】または【リンクレコードの複製】を選択します。
- 3 新しいサブタブページに情報を入力します。
- 4 【変更】または【作成】をクリックします。

契約の賃貸料の第3サブタブページの情報は、資産の詳細画面の【取得】タブページに追加されるサブタブページの情報と類似しています。この【取得】タブの情報は、【調達】サブタブページの【取得方法】（SQL名：seAcquMethod）フィールドが【レンタル】または【賃貸】の場合に表示されます。

賃貸料の有効期限

各賃貸料には有効期限があります。【スケジュール】枠内にある【契約期間】フィールドは、契約の賃貸料の開始日（SQL名：dStart）および終了日（SQL名：dEnd）を指します。 アイコンを使うと、期限終了時にアラームを設定できます。

賃貸料を配賦する

【賃貸料】サブタブページの【コストカテゴリ】（SQL名：CostCategory）フィールドでは、新規の経費明細を自動的に追加する賃貸料を、経費の種類ごとに分

類することができます。【コストセンタ】（SQL名：CostCenter）フィールドでは、【ファイナンス/コストセンタ】メニューで既定したコストセンタに、同一の経費明細を配賦できます。これらのフィールドは、【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドが【資産に賃貸料を配分または配賦しない】である場合のみ使用可能です。

賃貸料の計算で使うフィールド

契約賃貸料

契約単位の賃貸料の支払は、次のフィールドの値を使って計算します。

- 【賃貸料】サブタブページの【市場価格】（SQL名：mValue）フィールドの参考価格
- 【料率】（SQL名：pLRF）

【支払】（SQL名：mPayments）フィールドは、【回数】（SQL名：sePeriodicity）フィールドの値で分割した契約単位の賃貸料の支払額（税抜き）です。

資産賃貸料

【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドでは、次のフィールドで指定する条件に従って契約賃貸料を資産に配賦するかどうかを指定できません。

- 【比例配分方法】（SQL名：ProrateField）
- 【四捨五入】（SQL名：fPrecision）
- 【開始】：このフィールドは、契約単位の賃貸料の支払を各資産に配分する場合にのみ使います。賃貸料を資産の受領日より後に支払うかどうかを指定します。

賃貸料にかかる税金

【税額】（SQL名：mTaxValue）フィールドには、賃貸料の税金の計算方法を指定できます。

支払日

支払日は、賃貸料の【回数】（SQL名：sePeriodicity）フィールドで指定した賃貸料の支払回数によって決まります。

【支払】（SQL名：seAdvArrears）フィールドでは、【回数】フィールドで指定した支払間隔期間で先払いするか後払いするかを選択できます。

【支払期日】（SQL名：tsBillCycDay）フィールドには、【支払】フィールドで指定した値に基づいた支払期日（日数または月数）を設定します。負数を入力することもできます。

例えば、【回数】フィールドを【月1回】に、【支払】フィールドを【先払い】に指定して、【支払期日】フィールドに「-5日」と入力すると、支払期日は指定されている賃貸期間の開始日の5日前になります。

【猶予】（SQL名：tsGrace）フィールドには、賃貸料の支払猶予期間を指定します。

支払回数に応じて、AssetCenterは以下の方法で賃貸期間の開始を設定します。

- 毎日：期間の開始は00:00 A.M.に設定されます。
- 週1回：期間の開始は月曜日に設定されます。
- 月2回：期間の開始は月の1日と16日に設定されます。
- 月1回：期間の開始は月の1日に設定されます。
- 隔月：期間の開始は1月、3月、5月、7月、9月、11月の1日に設定されます。
- 年4回：期間の開始は1月、4月、7月、10月の1日に設定されます。
- 年2回：期間の開始は1月、7月の1日に設定されます。
- 年1回：期間の開始は1月1日に設定されます。

例

この例では、賃貸料の支払回数を月1回に設定し、賃貸料はリース期間の開始日から4日後、つまり5日までに支払わなければなりません。貸主は支払の遅れを7日間まで許容します。この結果、借主は月の12日までに支払えばいいことになります。

主賃貸料

複数の種類の賃貸料の支払がある場合は、主賃貸料と派生的な賃貸料との支払を区別する必要があります。リースタイプの契約に固有の一時金は、主賃貸料の支払がある場合のみ存在する賃貸料なので、リースではこの概念が重要になります。

主賃貸料に適用する原則は以下の通りです。

- ある賃貸料が契約上の主賃貸料である場合、この賃貸料は、この契約に関連する全資産の主賃貸料になります。
- 資産1件につき、主賃貸料の支払は1件のみです。
- 契約1件につき、主賃貸料の支払は1件のみです。

ある賃貸料の支払を主賃貸料の支払として定義するには、**[賃貸料]**サブタブページの**[主賃貸料]**オプションを選択します。

警告:

AssetCenterは、契約または資産1件につき、主賃貸料の支払が1件のみであるかどうかを検証することはありません。

契約に関連するローン

ここでは、ローンを管理する方法について説明します。内容は次の通りです。

- ローンに支払明細を追加する
- 資産に比例配分する
- 外部プログラムからローン返済明細をコピーする

契約にリンクしているローンのリストは、契約の詳細画面の**[ローン]**タブページに表示されます。このタブページは、**[マスターリース]**以外の契約で**[全般]**タブページの**[支払属性]**（SQL名：sePayType）フィールドが**[ローン]**または**[両方]**に設定されている場合のみ表示されます。

各ローンの詳細情報は、**[詳細]**（SQL名：Description）フィールドに指定した名前のサブタブページに入力します。


契約の詳細画面の**[ローン]**タブ

ローンの条件は、契約の詳細画面の**[ローン]**タブページに入力します。



ローンの詳細情報を入力するサブタブページを追加するには、次の手順に従います。

- 1 サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックします。
- 2 **[リンクレコードの追加]**または**[リンクレコードの複製]**を選択します。
- 3 新しいサブタブページの**[詳細]**フィールドに情報を入力します。
- 4 **変更(M)**または**作成(C)**をクリックします。このサブタブページのリストには、ローンの返済明細が表示されます。**[残金]**列は残りの返済残高を示します。

ローンに支払明細を追加する

- 1  ボタンをクリックし、ローンテーブルの返済明細に支払明細を追加します。支払明細には、元金または利子と手数料の情報が含まれます。次のような入力画面が表示されます。



- 2 返済する金額、利子、手数料を入力します。
- 3 必要に応じて、この支払に固有の【利率】（SQL名：pInterestRate）を指定します。ただし、このフィールドは参照用で、この値が計算に使われることはありません。
- 4  をクリックし、支払の内容を確定します。ローン返済テーブルに項目が追加されます。この支払明細のリストには、次の情報が表示されます。
 - 【元金】（SQL名：mPrincipal）：支払った元金
 - 【利子】（SQL名：mInterest）：支払った利子
 - 【手数料】（SQL名：mFees）：支払った手数料。
 - 【合計】（SQL名：mTotalPay）：支払総額。【元金】（SQL名：mPrincipal）フィールド、【利子】（SQL名：mInterest）フィールド、および【手数料】（SQL名：mFees）フィールドの値を合計した金額です。
 - 【残金】（SQL名：mBalance）：返済残額。前の明細の残金から【元金】（SQL名：mPrincipal）フィールドの金額を引いた金額です。最初の支払の場合は、ローンの総額（【金額】（SQL名：mAmount）フィールドの値）が、残金になります。
- 5  をクリックし、支払明細の追加を確定します。

ローンの支払明細を入力するたびに、AssetCenter Serverは次の明細を作成します。


- ローンを資産に配賦していない場合（契約の詳細画面の【ローン】タブページ、【貸料の比例配分】フィールドで指定）：契約の詳細画面の【コスト】タブページに表示される経費明細
- ローンをすべての資産または選択した資産に配賦した場合（契約の詳細画面の【ローン】タブページ、【貸料の比例配分】フィールドで指定）：契約と資産の詳細画面の【コスト】タブページに表示される各資産の経費明細。

ローン支払項目の合計（元金、手数料、利子）は、選択した方法に従って配賦されます。

ローンを資産に比例配分する

賃貸料と同じように、ローンのサブタブページの**【賃貸料の比例配分】**（SQL名：seProrateRule）フィールドで返済総額を契約上の資産（または選択した契約上の資産）に配賦できます。

この場合は、契約上の各資産（または選択した各資産）の詳細画面の**【コスト】**タブページに、資産のローン返済に伴う経費明細が表示されます。

システムリストデータはで、期限のローン返済金をすべての資産、または一部の選択した資産へ配賦できます。また、返済金を資産に配賦しないことも選択できます。

外部プログラムからローン返済明細をコピーする

各タブページ内のリスト情報は、切り取り、コピー、および貼り付けすることができます。この機能を利用して、外部プログラムのローン返済テーブルを**【ローン】**タブページのリストに直接コピーすることができます。

外部プログラムからコピーするデータのファイルは、**【ローン】**タブページの返済明細テーブルと同じ構造でなければなりません。データをコピーすると、各行に支払明細が作成され、各明細のフィールドはそれぞれ返済明細の個々の列に関連付けられます。

契約の階層構造

契約は、階層構造になっています。**【全般】**タブページの**【帰属先】**（SQL名：Parent）フィールドは、その契約の主契約（親契約、マスター契約）を示します。

この機能を利用して、次のように契約を関連付けることができます。

- マスターリースにリース明細を関連付ける。
- 契約に修正を関連付ける。

主契約の付属契約（子契約、明細）のリストは、契約の詳細画面の**【明細】**タブページに表示されます。このタブは、マスターリースの場合にのみ表示されます。

リース契約の場合、**【マスターリース】**では貸主と借主間の一般的な契約条件を指定しますが、リース対象の資産と賃貸条件は指定しません。**【リース明細】**

は、マスター契約に階層的にリンクした付属契約で、マスター契約の任意管理項目を継承します。

契約に関する連絡先

契約に関わる企業と担当者のリストは、契約の詳細画面の【連絡先】タブページに表示されます。


このタブページは、次のように大きく2つに分かれています。

- 【契約の担当者と連絡先】セクション（固定されています）
- 【業者の連絡先】セクション（サブタブページ）。業者の連絡先が表示されます。【リース明細】または【マスターリース】タイプの契約の場合は、【リース】タブページで「貸主」と「貸付業者」を指定すれば、これらのサブタブページが自動的に作成されます。

サブタブのラベルとして使う名前は、【タイプ】（SQL名：Description）フィールドで定義します。

契約の担当者と連絡先

このセクションのフィールドには、部署と従業員のテーブルまたは場所のテーブルから情報を選択して入力します。



契約の詳細画面の【連絡先】タブ内で従業員の名前の右にある  アイコンを使うと、この契約の担当者である従業員の詳細画面を開くことができます。

【通知先住所】（SQL名：NotifAddress）：リース契約の場合は、借主が期間満了、中途解約などを社内の担当部署に通知しなければなりません。このフィールドには、通知先部署の場所を指定します。

業者の連絡先

業者の連絡先は、複数のサブタブページで分類することができます。

連絡先のサブタブページを追加するには、次の手順に従います。

- 1 サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックします。
- 2 【リンクレコードの追加】または【リンクレコードの複製】を選択します。
- 3 新しいサブタブページに情報を入力します。
- 4  または  をクリックします。

2 | リース - 概要

リース契約では、貸主がある一定の期間、動産または不動産を賃貸料をとって貸します。借主には、収益件および使用権が与えられます。

リース契約の借主は、借りた物件を所有することなしに、使用することができます。また、借主は、その物件の法的所有者である貸主に一定の賃貸料（またはリース料）を支払います。

本章では、AssetCenterでリース契約を管理する方法について説明します。

リース管理の主な用語

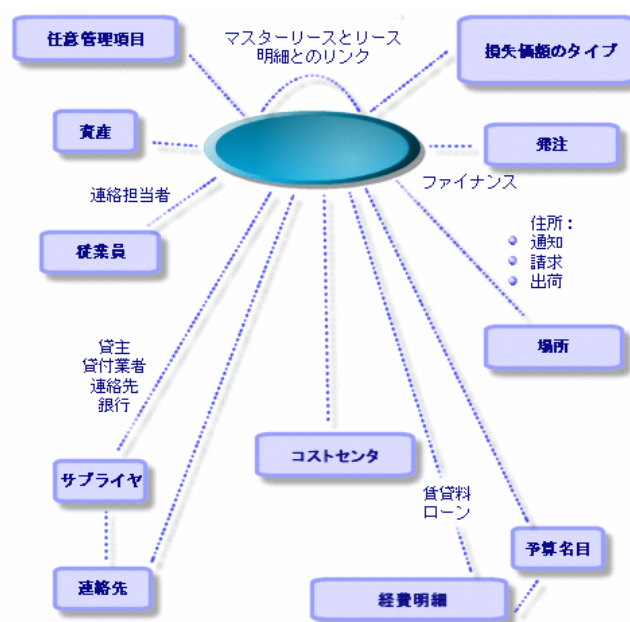
リースでは以下の概念を使用します。

- リース
- マスターリース（SQL名：Master lease）
- リース明細（Lease schedule）
- 賃貸料（Rent）
- 承認（Acceptance）
- 損失額（Loss value）
- ローン（Loan）
- 期間満了（End of term）

- 貸付業者 (Assignee)
これらの概念の定義については、本マニュアルの「用語解説 (契約)」の章を参照してください。

データの簡略モデル

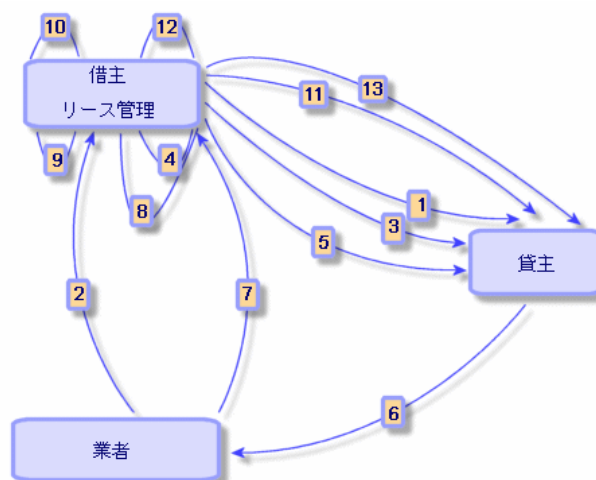
図 2.1. 契約 - データモデル



一般的な手順

リース手続きの一般的な手順の例は以下の通りです。

図 2.2. リース - 手続きの手順



- 1 マスターリースを作成します。マスターリースには、一般的な条項と条件を入力します。リース明細のテンプレートとして使います。
- 2 AssetCenterを使ってリース対象の資産の見積を作成します。これで賃貸額の評価を開始できます。
- 3 AssetCenterを使ってリース明細を作成します。リース明細はマスターリースにリンクできます。必ずしもリンクさせる必要はありません。
- 4 AssetCenterを使ってリース対象の資産の発注を作成します。
- 5 発注書を送信します（借主から貸主へ）。
- 6 貸主が業者に発注します。
- 7 業者から借主にリース物件が納品されます。
- 8 AssetCenterを使って発注に関連する資産の受領伝票を作成します。これで、資産がリース明細に加えられます。
- 9 AssetCenterを使わずに調達を管理する場合は、資産を手動でリース明細に追加する必要があります。
- 10 賃貸料の詳細情報を入力します。
- 11 資産の受領を承認します。受領証書を送付します（借主から貸主へ）。
- 12 契約上の資産のライフサイクル管理（資産の追加、資産の紛失または破損、返却、更新、購入）を行います。

- 13 期間満了の管理（契約の更新またはアップグレード、資産の返却または更新）を行います。

リース契約を作成する

リース契約を作成するには、

- 1 必要に応じてマスターリースを作成します。
- 2 マスターリースが既にある場合は、AssetCenterのデータベースにこれを入力します。**新規作成(N)** をクリックして**マスターリース**タイプの契約を作成します。**[参照番号]**（SQL名：Ref）、**[目的]**（SQL名：Purpose）を入力して**作成(C)** をクリックします。また**[全般]**、**[リース]**、**[条件]**、**[連絡先]**、**[オプション]**、および**[任意管理項目]**の各タブページに詳細情報を入力します。**[明細]**タブページにはまだ入力する必要はありません。
- 3 リース明細を作成します。
[契約/契約]メニューを使って詳細画面を表示し、**新規作成(N)** をクリックするのが一番簡単な方法です。**[参照番号]**、**[目的]**を入力し、**[帰属先]**（SQL名：Parent）フィールドにマスターリース（ある場合）を指定してから**作成(C)** をクリックします。リース明細は、マスターリースの財務および契約の条件を継承します（マスターリースがある場合）。**[全般]**、**[リース]**、**[条件]**、**[連絡先]**、**[オプション]**、および**[任意管理項目]**の各タブページにできるだけ詳細情報を入力します。
- 4 このようにして、財務および法律上の契約条件を定義します。
- 5 リース対象の資産を作成または選択します。
- 6 次の手順は、調達サイクルを適用するかどうかによって異なります。
 - 調達サイクルを使用する場合は、資産は発注から作成されます。
 - 調達サイクルを使用しない場合は、資産は資産とその資産に関連する契約のテーブルで作成または選択する必要があります。
- 7 資産の詳細画面の**[賃貸料]**タブページに詳細情報を入力します。

リース契約特有の情報の指定

契約の詳細画面の一部のフィールドは、契約のタイプが**[マスターリース]**または**[リース明細]**の場合にのみ表示されます。これらのフィールドを使って、契約タイプに特有の情報を記述できます。

貸主

サプライヤのテーブルから選択した貸主は、契約の詳細画面の【リース】タブページに表示されます。

通知期限

リース契約（リースの同意事項）では、AssetCenterを使って次の通知期限を定義できます。

- 期間満了の保留を、借主が貸主に通知しなければならない期限（契約の詳細画面の【全般】タブページにある【通知】フィールド）。AssetCenterでは、満了日（契約終了日）を事前にユーザに知らせるアラームを設定できます。
- リース終了オプションについて借主が貸主に通知しなければならない期限（【オプション】タブページの【購入】、【更新】、【返却】サブタブページの各【通知期限】フィールド）。AssetCenterでは、通知期限を事前にユーザに知らせるアラームを設定できます。
- 契約の変更について借主が貸主に通知しなければならない期限（契約の【リース】タブページの【貸主への通知】（SQL名：tsLessorNotice）フィールド）。




リースの終了オプション

適用可能なリース終了オプションは、契約の詳細画面の【オプション】タブページで指定します。

1件の契約について、次のオプションを指定できます。

- リース資産の更新
- 資産の返却
- 資産の購入（買い取り）

上記のいずれかの満了時オプションを選択すると、契約上の資産のライフサイクル管理で利用できる機能オプションに影響します。

例えば、【オプション】タブページで契約に購入オプションがないことを指定した場合は、契約の詳細画面の  ボタンが無効になります。更新と返却オプションについても同様で、それぞれ  ボタンと  ボタンが無効になります。

AssetCenterでは、契約上の資産のアップグレードなど、その他の契約オプションを指定することもできます。このオプションを指定しても、他のデータが自動的に処理されることはありません。

リース終了時に選択可能なオプションを指定するには、必ず【期間満了時の予定オプション】で適切なオプションをオンにします。

【購入】、【更新】、【返却】の各サブタブページでは、次の情報を指定できます。

- 各オプションのタイプ
- 満了時予定オプションを事前に貸主に通知する期限。この期限の日付は、【全般】タブページで指定した契約の終了日を使って自動的に計算されます。
- 更新、購入、返却の通知期限を事前にユーザに知らせるアラーム
- 更新する場合のファイナンス条件（新しい賃貸料の支払など）

リース契約特有の手数料

追加経費

【リース】タブページでは、保険、輸送、搬出のコストを貸主と借主のどちらが負担するかを指定できます。

一時金

一時金は、リース契約特有の概念です。

各契約タイプには初回金があります。AssetCenterでは、契約の詳細画面の【全般】タブページにある【初回金】（SQL名：mIntPay）フィールドで初回金を指定できます。リース明細の場合は、この初回金は一時金に相当します。

契約の詳細画面の【リース】タブページの【一時金】フィールドには、受領承認日、またはパーセントで計算するかなど、一時金の計算方法を指定します。

一般的な規則として、一時金の支払額は資産の受領承認日から計算します。

貸付業者

リース契約は、別の業者に委託される場合があります。例えば、貸主は貸付業者と呼ばれる金融業者にリース物件への資金調達を依頼する場合があります。この場合は、契約の詳細画面の【リース】タブページの【割当可能】チェックボックスをオンにするだけでサプライヤのテーブルから貸付業者を選択できます。

損失額

リース契約では、契約上の資産を紛失または破損した場合のために、次の情報を指定しておく必要があります。

契約の詳細画面の【リース】タブページで、次の方法で損失額の計算方法を指定します。

- 【規則】（SQL名：LossValRule）フィールドに、損失額の計算規則を指定します。
- 【計算】（SQL名：seLossValCalcMode）フィールドでは、損失額を、指定した日付で計算するか、または全期間で計算するかを指定します。
- 計算方法を指定したら、計算ボタンをクリックすると計算を開始します。

契約上の資産

AssetCenterでは、リース契約に資産を追加（登録）すると、契約単位または資産単位の賃貸料の計算または再計算がトリガされ、契約上の資産の詳細情報が変更されます。

この場合の計算には、リース契約の次のフィールドが使われます。

- 【資産総額】（SQL名：mMarketVal）フィールド（契約の詳細画面の【リース】タブページ）
- 【資産のデフォルトの取得方法】（SQL名：seAcquMethod）フィールド（契約の詳細画面の【全般】タブページ）。このフィールドは、契約のタイプが【マスターリース】または【リース明細】の場合のみ表示されます。資産の取得方法はリストデータから選択します。契約に資産を追加すると（契約の詳細画面の【資産（リース）】タブページまたは資産の詳細画面で追加）、この取得方法が適用されます。

資産特有のリース情報

ここでは、資産単位のリース情報について説明します。

リース契約とそのリース資産の詳細情報を表示するには、【契約/契約】メニューまたは【契約/リース明細】メニューを選択します。

リース情報を資産テーブルから直接表示するには、【ポートフォリオ/資産とロット】メニューを選択します。

資産の詳細画面の【取得】タブページで資産のリース情報を入力できます。

はじめに

資産の詳細画面の【取得】タブページには、資産特有のリース情報がまとめて表示されます。

資産の取得方法

資産の [取得] タブページの [取得方法] (SQL名: seAcquMethod) フィールドは、資産の取得方法を示します。

- 1 資産が [リース明細] タイプの契約に追加されると、このフィールドの値は契約の詳細画面の [全般] タブページにある [資産のデフォルトの取得方法] フィールドの値になります。
- 2 資産に関するリース情報を入力する場合は、[レンタル] または [リース] を選択します。
- 3 このフィールドの値によって、[取得] タブページのサブタブページに表示される情報が変わります。

資産の取得状況

[調達] サブタブページの [取得状況] (SQL名: seAcquStatus) フィールドは、資産の取得状況を示します。[未定義]、[注文中]、[受領済]、[承認済]などに設定できます。資産の受領の承認、更新、返却などを実行すると、このフィールドが自動的に更新されます。

資産の市場価格

[市場価格] (SQL名: mMarketVal) フィールド ([調達] サブタブページ) は、賃貸料の支払額を計算するデフォルトの計算式に使われます。

注意:

資産の市場価格は、資産が資産のテーブルに追加されたときの市場価格です。新品の場合は購入価格、中古の場合は買い取り価格などになります。

初回金

リースの場合、[価格と条件] サブタブページの [初回金] (SQL名: mIntPay) フィールドは、賃貸期間の最初の支払日までに支払う一時金を表します。

買取額

買取額は、[価格と条件] サブタブページに表示されます (取得方法が [リース] の場合のみ表示されます)。この値を使って、満了時の買い取り価格を見積ります。

終了オプション

【価格と条件】サブタブページの**【終了オプション】**（SQL名：TerminOpt）フィールドは、資産の満了予定オプションを示します。このフィールドには、リストデータ（貸主への資産の返却など）から値を選択して入力します。この値は、情報の提供のみを目的としています。リストデータが「オープン」でユーザが必要な権限を持っている場合は、適切な終了オプションを入力できます。

資産1件ごとの賃貸料情報

レンタルまたはリースで資産を取得したことを指定すると、賃貸料の情報を入力できるサブタブページが自動的に作成されます。このサブタブページに情報を入力しないと1件の資産ごとの賃貸料を計算できません。

資産をリース明細にリンクして（資産の詳細画面**【取得】**タブの**【調達】**サブタブページで指定）、そのリース明細の**【賃貸料】**サブタブページで契約賃貸料を全資産に比例配分することを指定すると、同名の賃貸料サブタブページが自動的に資産の詳細画面の**【取得】**タブページにも作成されます。このサブタブページは、契約賃貸料を資産に配賦しないことを指定したり、賃貸料のサブタブページを契約から削除したりすると自動的に削除されます。資産の詳細画面で直接賃貸料のサブタブページを作成した場合は、契約賃貸料の変更の影響を受けません。

このサブタブページの情報は、リースの**【賃貸料】**タブページの情報と同様です。

資産1件ごとにリース賃貸料のタブページを追加するには、サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックして、ポップアップメニューから**【リンクレコードの追加】**を選択します。

【市場価格】（SQL名：mValue）

賃貸料を計算するときの参考価格。デフォルトでは、資産の市場価格（資産の詳細画面の**【取得】**タブページの**【調達】**サブタブページ）です。

注意:

資産の市場価格は、資産が資産のテーブルに追加されたときの市場価格です。新品の場合は購入価格、中古の場合は買い取り価格などになります。

資産賃貸料の経費明細の作成

AssetCenter Serverは、資産1件ごとの賃貸料の経費明細を定期的に作成します。経費明細の作成方法は、次のフィールドの値によって変わります。

- **【受領承認日】**（SQL名：bFromAcceptDate）チェックボックス

このチェックボックスがオンになっていると、資産ごとの賃貸料がリース明細から発生する場合は、各賃貸料の支払に対応する経費明細は資産の受領承認日以降に作成されます。このチェックボックスをオンにしない場合は、経費明細は賃貸料の有効日以降に作成されます。

- **【計算開始日】** (SQL名：dRecalcul) フィールド

AssetCenter Serverは、このフィールドに表示される日付以降に支払う資産の賃貸料に対応する経費明細を再計算します。

AssetCenter Serverが賃貸料の経費明細を再計算するたびに、その計算日がこのフィールドに入ります。

賃貸料の情報を変更した場合に、賃貸料の経費明細を再計算して調整する場合は、このフィールドにAssetCenter Serverでこれらの経費明細を再計算する日付を指定します。

マスターリースからリース明細に継承される情報

リース明細を作成し、これをマスターリースにリンクすると、リース明細はマスターリースで定義された次の情報の一部をデフォルトで継承します。継承される情報は次の通りです。

- **【オプション】** タブページ：コメント以外のすべての情報。
- **【連絡先】** タブページ：連絡担当者と契約の担当者。
- **【リース】** タブページ：すべての情報。
- **【全般】** タブページ：番号、初回金、カスタマイズ可能なフィールド（**【フィールド1】** (SQL名：Field1) と **【フィールド2】** (SQL名：Field2) ）、およびコメント以外のすべての情報。

3 | リース - 実用例

本章では、実際にAssetCenterを使ってリース契約を管理する方法を、例を用いて説明します。

ここでは主に全体的な手順を紹介し、個々の機能の詳細については別の章で説明します。

AssetCenterに付属しているデモ用データベースを使って、事例を試してください。

実用例について

ここでは、Taltek Services社とInterleasing社の例について説明します。

上記の2つの企業間でリース契約が締結されています。Taltek Services社は借主、Interleasing社は貸主となります。このリースのマスターリースはありません。

Taltek Services社のリース契約責任者（西田啓介氏、管理上、財務上の管理者）は、AssetCenterを使ってIT機器を管理しています。

Interleasing社の連絡先は金田一郎氏です。

この事例では、Taltek Services社はInterleasing社から、2002年1月1日から2004年1月1日までPCをリースします。PCは、満了時に貸主に返却します。

この事例の手順は次の通りです。

- 1 手順1：リース契約を作成する
- 2 手順2：リース契約に関連する資産を選択する
- 3 手順3：賃貸料を計算する
- 4 手順4：資産の受領を承認し、一時金を計算する
- 5 手順5：契約に関連する経費を表示する
- 6 手順6：満了時に資産を返却する
- 7 手順7：処理をトラッキングする

実用例使用の必要条件

リース管理では、AssetCenter Serverを用いて期限および賃貸料を計算します。このため、サーバまたはコンピュータにAssetCenter Serverをインストールし、起動する必要があります。詳しくは、『**データベース管理**』のマニュアルを参照してください。

AssetCenterを起動する

AssetCenterを起動するには、AssetCenterプログラムグループ内の該当するアイコンをダブルクリックします。

AssetCenter管理者（Admin）として、デモ用データベースを開きます。パスワードは、ユーザが指定できるように空になっています。

AssetCenter Serverを起動する

AssetCenter Serverを起動するには、AssetCenterプログラムグループ内の該当するアイコンをダブルクリックします。

【**ファイル / 接続**】メニューでデモ用データベースに接続します。

接続が確立すると、AssetCenter Serverはデータベースをモニタし、在庫、アラーム、購入、履歴項目などを管理します。AssetCenter Serverは、リースの同意事項に関連する過去、現在、将来の賃貸料を計算します。

この例で使うリース契約に関連する賃貸料を計算するように、次の手順でAssetCenter Serverを設定します。

- 1 【**オプション / モジュールの設定**】メニューを選択します。

- 2 【Rent】オプションを選択し、以下のように値を入力します。

賃貸料は、向こう720日間について計算されます。

- 3 【変更】をクリックします。

手順1：リース契約を作成する

まず契約のテーブル内でリース契約を作成します。

- 1 【契約 / 契約】メニューを選択し、契約のリストを表示します。
- 2 【新規作成】をクリックします。
- 3 【帰属先】フィールドで DEMO-LEA2マスターリースを選択します。
- 4 【モデル】フィールドのドロップダウンリストから【サーバのファイナンス】を選択します。
モデルの作成に関しては『ポートフォリオ』のマニュアルを参照してください。
- 5 【作成】をクリックして作成内容を確認します。
- 6 選択したモデルが、【タイプ】フィールドに「リース明細」の値を自動的に入力するかどうか確認します。

契約に関する一般的な情報を入力する

- 1 【参照番号】（SQL名：Ref）フィールドおよび【全般】タブページに以下のように情報を入力します。

【全般】タブページには、契約が2年間であること、そしてTaltek Services社は借主として期間満了の3ヶ月前に貸主に通知しなければならないことを指定します。

通常、借主が貸主に事前に期間満了の通知をしない場合は、満了時にリース契約が同じ条件で自動的に更新されます。

この通知期限を忘れずに守れるようにする場合は、アラーム（🔔アイコンで表示される）機能を使うと便利です。期間満了前の日付でアラームを設定しておく、AssetCenterのモニタプログラムであるAssetCenter Serverが指定した日付にアラームをトリガして、期間満了が迫っていることを借主に知らせます。

- 2 🔔 をクリックすると、アラームの設定画面が表示されます。
- 3 【キャンセル】をクリックしてアラームの設定をキャンセルし、契約の詳細画面に戻ります。

リース条件を入力する

契約の詳細画面の【リース】タブページには、契約に関するファイナンスの条件の概要が表示されます（賃貸料に関連する情報は含まれていません）。

次のように、[リース]タブページに入力します。

[リース]タブページでは、サプライヤのテーブルから貸主の名前を選択して指定できます。

追加経費の負担会社と一時金の計算方法もこのタブページで設定します。一時金は、資産の受領日からリース期間の第1回目の支払日までの賃貸料です。

関連業者に関する情報を入力する

契約に関わる業者に関するある程度の情報（借主と貸主の連絡担当者）を指定する必要があります。

[連絡先] タブページに次のように入力します。

[リース] タブページの [貸主] (SQL名 : Lessor) フィールドに入力すると、[連絡先] タブページに [貸主] サブタブページが自動的に作成されます。

期間満了の情報を入力する

この事例では、契約上の資産は満了時に貸主に返却することになっているので、[オプション] タブページで契約内で選択できる満了時オプションを指定することが重要です。

【オプション】タブページを次のように変更して、満了時オプションを有効にします。

【オプション】タブページに示すように、通常、リースの同意事項は満了時に次の3通りに変更できます。

- 契約を更新します。
- 借主が契約上の資産を購入します。
- 契約上の資産を返却します。

Taltek Services社は、満了の3ヶ月前に貸主に通知を送り、満了時にリース資産を返却する必要があります。

返却通知期限を指定すると、AssetCenterは【全般】タブページで指定したリースの終了日を参照して逆算し、Taltek Services社が貸主へ通知しなければならない日付を自動的に生成します。

注意:

【オプション】タブページには、この契約上の資産をアップグレードするなど、他の契約オプションを指定することもできます。ただし、これらのオプションに関連する自動処理機能はありません。

契約を作成する


これで【全般】、【リース】、【連絡先】、【オプション】の各タブページに、Taltek社とInterleasing社間のリース契約の詳細情報が入力されました。

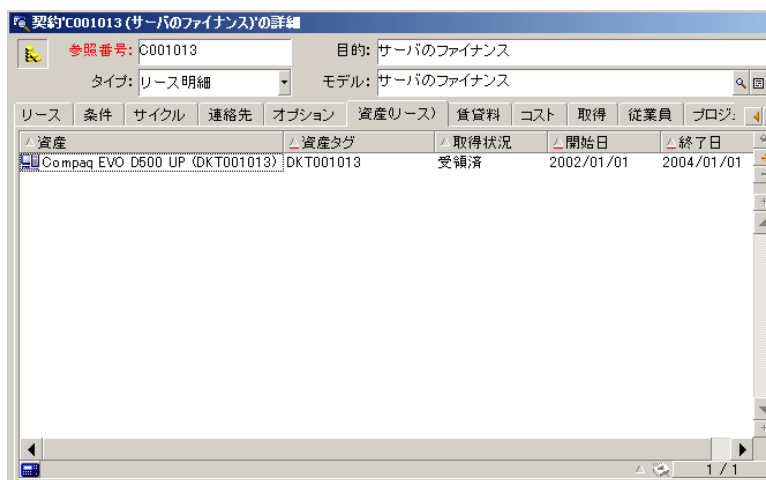
事例の説明を簡単にするために、ここでは上記のタブページの一部のフィールドに入力し、【条件】タブページと【任意管理項目】タブページには一切入力しません。


次の手順では、ここで作成した契約に資産を関連付けて、リース処理を開始します。

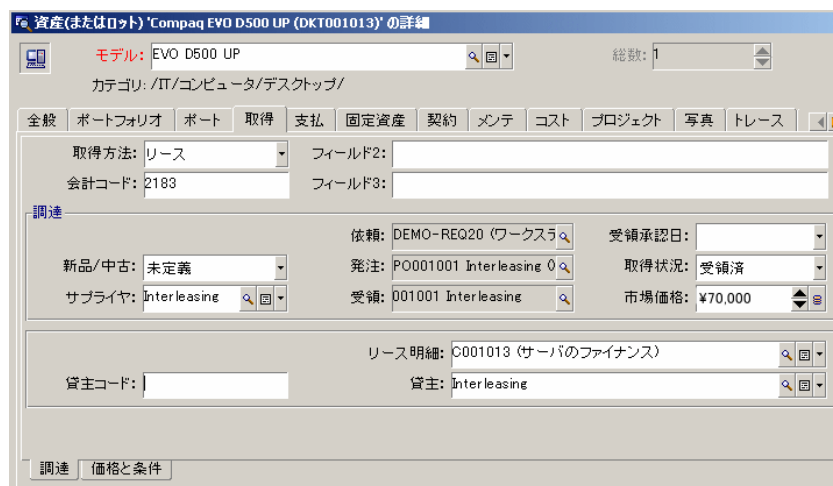
手順2：リース契約に関連する資産を選択する

Taltek Services社は、Interleasing社から資産を1件だけリースしています。ここではまず資産を作成し、次にリース契約へ関連付けます。

- 1 前述の手順で作成したリース契約の詳細画面の【資産（リース）】タブに移動します。このタブページには、契約に関連する資産のリストが表示されません。初めはリストには何も表示されません。
- 2  をクリックします。これで、Taltek Services社の資産のリストが開きます。
- 3 【新規作成】をクリックして資産を作成します。新規ウィンドウで資産をリース契約に関連付けます。
- 4 モデル「EVO D500 UP」を選択します。
- 5 【追加】をクリックしてから【選択】をクリックします。
- 6 AssetCenterでは、中間的なウィンドウが表示され、資産の詳細の期間開始日および終了日が自動的に入ります。そのままの状態です。
- 7 これで、【資産（リース）】タブページでは資産が契約に関連付けられていることが表示されます。



- 8 **【変更】**をクリックし、資産の選択を確定します。
- 9 をクリックし、資産の詳細画面を表示します。
- 10 資産の**【取得】**タブページにもリース契約に関する情報が表示されます。このタブページには、ページ上部の取得方法のほかに、**【調達】**および**【価格と条件】**サブタブページの**【リース】**セクションにそれぞれ貸主の名前と開始日および終了日が表示されます。



資産(またはロット) 'Compaq EVO D500 UP (DKT001013)' の詳細

モデル: EVO D500 UP 総数: 1

カテゴリ: /IT/コンピュータ/デスクトップ/

全般 ポートフォリオ ポート 取得 支払 固定資産 契約 メンテ コスト プロジェクト 写真 トレース

取得方法: リース フィールド2:

会計コード: 2183 フィールド3:

調達

新品/中古: 未定義 依頼: DEMO-REQ20 (ワークスラ) 受領承認日:

サプライヤ: Interleasing 発注: PO001001 Interleasing 取得状況: 受領済

受領: 001001 Interleasing 市場価格: ¥70,000

リース明細: C001013 (サーバのファイナンス)

貸主コード: 貸主: Interleasing

調達 価格と条件

- 11 これらの情報から、賃貸料などのリース契約に関連する様々なコストが契約上の資産の値に基づいて計算されることがわかります。後の手順で計算を正確に行うためにも、**【調達】**サブタブページの**【市場価格】**(SQL名: mMarketVal)フィールドが設定されていない場合はここで値を入力しておきます。資産の市場価格は、リース期間開始時の市場価格です。新品の資産の場合は、その資産を購入する場合の価格を入力します。
- 12 **【変更】**をクリックし、この値を確定します。
- 13 **【閉じる】**をクリックし、契約の詳細画面に戻ります。

手順3：賃貸料を計算する

Taltek Services社は、リース契約の条件に従ってInterleasing社に賃貸料を支払わなければなりません。

次の手順で賃貸料の計算方法を指定します。


- 1 契約の詳細画面の【賃貸料】タブに移動し、次のように入力します。

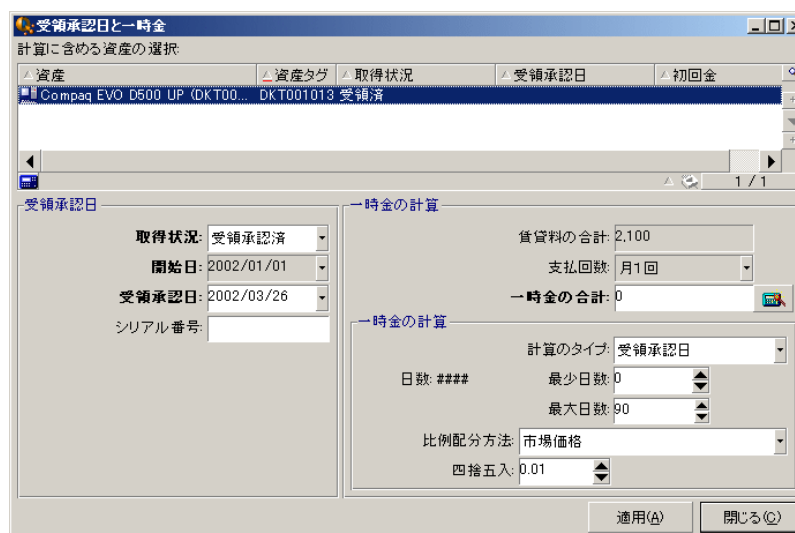
- 2 タブページ左上の各フィールドを使って賃貸料の計算方法を指定します。この場合は、契約の市場価格に料率をかけて計算します。
 - この場合、料率は2%です。
 - 賃貸料計算の基準として使う契約の市場価格は、デフォルトでは契約に含まれる全資産の市場価格を合計した値です。この例では、前述の手順で指定した契約上の全資産（この例では1件の資産）の市場価格である70000円を入力します。
 - 賃貸額は、入力した【料率】（SQL名：pLRF）によって変わり、【支払】（SQL名：mPayments）フィールドに自動的に表示されます。
- 3 【スケジュール】セクションでは、賃貸期間が2年で、月1回支払うことを指定します。【支払】、【支払期日】、【猶予】フィールドを使って、賃貸料の支払方法を指定します。この例では、その月の初日に支払い、猶予期間がないことを指定します。
- 4 【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで【すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦】オプションを選択し、契約の賃貸料を契約に含まれる全資産に比例配分することを指定します。これで契約上の各資産に、それぞれリース賃貸料が発生します。
- 5 【主賃貸料】（SQL名：bMainRent）チェックボックスをオンにして、次の手順4で一時金の計算を行います（初回金または一時金は、主賃貸料の支払がある場合のみ存在する賃貸料です）。
- 6 【変更】をクリックし、ここまで入力した情報を確定します。資産の詳細画面の【取得】タブページが自動的に更新されます。すなわち、支払情報を含

むサブタブページが作成され、このサブタブページの【支払】（SQL名：mPayments）フィールドに資産単位の賃貸料が表示されます。

これで、賃貸料の計算方法が決まりました。この事例を簡単にするために、賃貸料に関連する税金の処理についての手順は省略します。

手順4：資産の受領を承認し、一時金を計算する

契約上の資産の受領を承認し、一時金を計算するには、契約の詳細画面で  ボタンをクリックします。次のウィンドウが表示されます。



受領承認日と一時金の計算ウィンドウのスクリーンショット。ウィンドウのタイトルは「受領承認日と一時金」です。上部には「計算に含まれる資産の選択」というセクションがあり、資産リストが表示されています。リストには「Compag EVO D500 UP (DK T00... DK T001013 受領済」が選択されています。下部には「受領承認日」と「一時金の計算」の2つのパネルがあります。

受領承認日

- 取得状況: 受領承認済
- 開始日: 2002/01/01
- 受領承認日: 2002/03/26
- シリアル番号:

一時金の計算

- 賃貸料の合計: 2,100
- 支払回数: 月1回
- 一時金の合計: 0
- 計算のタイプ: 受領承認日
- 日数: ###
 - 最少日数: 0
 - 最大日数: 90
- 比例配分方法: 市場価格
- 四捨五入: 0.01

ボタン: 適用(A)、閉じる(C)

資産の受領を承認するウィンドウ

資産の受領の承認は、リース手続きにおいて重要な過程であり、借主と貸主との間で契約書類の交換が行われます。これで、契約が成立し、借主に機器の賃貸料を支払う義務が発生します。

資産の受領を承認するには【受領承認】をクリックします。【取得状況】フィールドで【受領承認済】を指定すると、【受領承認日】に日付が自動的に表示されます。必要な場合はこの日付を手動で変更できます。

一時金を計算する


一時金は、資産を受領して承認した日からリース期間の第1回目の支払日までの賃貸料を対象とします。つまり現在の月に更に支払わなければならない残金総

額を指します。契約は、複数の賃貸料の支払（保険、リース、メンテナンスなど）に関連付けることができます。ただし、一時金は契約の"主"賃貸料（契約の【主賃貸料】（SQL名：bMainRent）チェックボックスがオンになっている場合に、その契約の【賃貸料】タブページに表示される賃貸料）が存在する場合にのみ、それに付属する賃貸料です。

一時金は、資産の受領を承認したときに契約の詳細画面の【リース】タブページで定義されている条件に基づいて計算します。デフォルトでは、承認日から計算します。

この例では、月1回、月初めに賃貸料を支払う必要があります。一時金は、承認日（2002年2月7日）からリース期間の最初の主賃貸料支払日（2002年3月1日）までを対象とします。

一時金を計算するには、【承認日と一時金】画面で次の操作を行います。


- 1 資産を選択します。
- 2  ボタンをクリックします。
- 3 【一時金の合計】フィールドに一時金の額が表示されます。

受領の承認と一時金を確定する

- 1 【適用】をクリックし、資産の受領を承認し、一時金を確定します。
- 2 【閉じる】をクリックし、契約の詳細画面に戻ります。

手順5：契約に関連する経費を表示する

上記の手順では、リース契約に関連する賃貸料を定義する方法を説明しました。この賃貸料に対応する経費明細はAssetCenter Serverによって自動的に作成されません。



- 1 リース契約の賃貸料の経費明細を表示するには、契約の詳細画面の【コスト】タブに移動します。期間ごとの賃貸料の支払リストが表示されます。
- 2  をクリックし、賃貸料の総額を計算します。

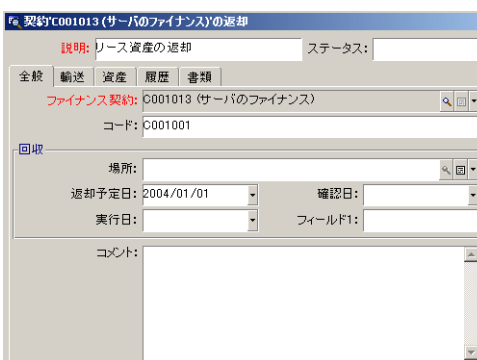
資産の詳細画面の【コスト】タブページにも、資産に関連する次の経費明細が表示されます。

- 資産の一時金に関連する経費明細
- AssetCenter Serverによって自動的に作成された、資産の定期的な賃貸料支払に対応する経費明細


手順6：満了時に資産を返却する


借主は、満了時にすべてまたは一部の資産を返却、購入、または更新します。この事例では、Talteck Services社はInterleasing社に資産を返却します。ここでは、そのための返却伝票（返却）を作成します。

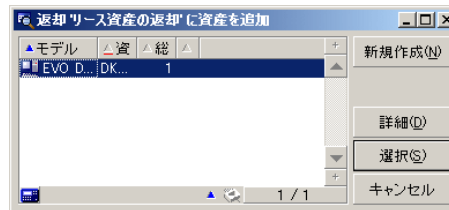
- 1  **返却** をクリックします。資産の返却を作成するウィンドウが表示されます。
- 2  **新規作成(N)** をクリックし、返却を作成します。
- 3 **【説明】**（SQL名：Description）を入力し、**【全般】** タブページに次のように入力します。返却予定日が表示されます。デフォルトは満了時の日付（2004年1月1日）です。ここで、デフォルトとは異なる実際の返却日を指定できます。







「契約C001013 (サーバのファイナンス)の返却」ウィンドウのスクリーンショット。ウィンドウのタイトルは「契約C001013 (サーバのファイナンス)の返却」です。説明欄には「リース資産の返却」と入力されています。ステータス欄には「」が選択されています。タブメニューには「全般」「輸送」「資産」「履歴」「書類」があります。現在のタブは「全般」です。フィールドには「ファイナンス契約: C001013 (サーバのファイナンス)」、「コード: C001001」が表示されています。「回収」セクションには「場所:」、「返却予定日: 2004/01/01」、「確認日:」、「実行日:」、「フィールド1:」があります。コメント欄には「コメント:」と入力されています。

- 4 **【作成】** をクリックします。
- 5 **【輸送】** タブの**【貸主】** フィールドの右にある  をクリックし、貸主 Interleasing社の連絡先を表示します。
- 6 次に、資産を返却したことを指定する必要があります。**【資産】** タブに移動します。

- 7 【資産】タブページのをクリックし、契約に含まれている資産のテーブルにアクセスします。



- 8 返却する資産を選択します。
- 9  をクリックし、返却する資産を返却に関連付けます。
- 10 返却画面の  をクリックし、入力した情報を確定します。資産の【取得状況】（SQL名：seAcquStatus）が変更され、資産が【返却予定】になります。
- 11  をクリックします。これで資産は除却されました。ただし、実際の除却日は返却画面の【全般】タブページで指定した実際の返却日になります。
- 1 資産の【取得状況】が変更され、資産が【返却済】になります。
 - 2 資産の詳細画面の【全般】タブの【割当】（SQL名：seAssignment）フィールドが変更され、【除却済】になります。
 - 3 資産の【全般】タブページの【返却理由】（SQL名：RetReason）フィールドに、返却（Interleasing社に返却）したために除却したことを示す理由が表示されます。
- 12  をクリックし、契約の詳細画面に戻ります。
これで、資産はInterleasing社に返却されました。

手順7：処理をトラッキングする

契約の詳細画面の【サイクル】タブを選択すると、この事例で行った次の処理内容が表示されます。

- 1 契約開始時または2002年1月1日に契約に資産を追加
- 2 2002年2月7日に資産の受領を承認
- 3 2004年1月1日に資産を返却

まとめ

ここまで、貸主と借主の2社間のリース契約の事例について説明してきました。借主は、AssetCenterを使って貸主への様々な賃貸料支払（一時金、および過去、現在、将来の月1回の賃貸料）を計算し、契約上の期限を考慮しながら資産を返却できました。

この事例で紹介されているAssetCenterの機能はほんの一部です。他の機能については、このマニュアルの別の章を参照してください。

4 | リース - リース資産

前章では、リース契約に含まれている資産ではなく契約全体について説明しました。

本章では、契約に含まれるリース資産のライフサイクルで実行される操作について説明します。

これらの操作を行うには、契約の詳細画面の右側に表示される5つのボタンを使います。



リース明細に資産を追加する

ここでは、リース契約に資産を追加する手順を説明します。

調達サイクルから発生する資産の追加

調達モジュールと統合する際の利点

調達サイクルを使うと、借主はリース契約に関連付けられているレンタル/リース資産の依頼や発注を作成できます。

依頼や発注とリース契約のリンク機能を利用すると、ポートフォリオ内にリース資産を自動的に作成できるため非常に便利です。資産のテーブルの情報をインポートしたり、手動で入力したりする必要はありません。注文品を受領すると、ポートフォリオ内に資産が作成され、リース契約に関連付けられます。



依頼または発注とリース契約をリンクする

依頼または発注と契約のリンクは、発注の詳細画面の【ファイナンス】タブページで行います。このタブページで依頼または発注のファイナンスを契約の一部にすることを指定して、さらにリンクする契約を指定することができます（【ファイナンス契約】（SQL名：AcquContract）フィールドで指定します）。

注意:

注文品を受領時に資産を契約に追加するには、発注の【ファイナンス】タブページで契約にリンクする必要があります。

警告:

契約の詳細画面の  ボタンを使って、発注を契約にリンクすることはできません。発注を契約にリンクするには、発注の詳細画面の【ファイナンス】タブページで指定する必要があります。発注がリンクされていないリース明細の詳細画面の  ボタンをクリックすると、「この契約による発注はありません。」というメッセージが表示されます。



資産の受領と承認

発注した資産を受領すると、後で受け取りを拒否したとしてもデータベース内に資産が作成されます。これらの資産は、【取得状況】フィールド（資産の【取得】タブページの【調達】サブタブページ）が【受領済】のステータスに設定された状態で作成されます。資産の受領を最終的に承認すると、【取得状況】フィールドが【受領承認済】に変わります。

契約上の資産をデータベース内に作成する


リース契約にリンクしている発注で資産を発注した場合は、その資産の受領時にAssetCenterデータベース内の資産のテーブル内に作成されます。これらの資産は、契約の詳細画面の【資産】タブページにも表示されます。

資産の受領には、次の2つの方法があります。


- 調達サイクルで指定：注文品を部分受領または一括受領します（【調達/受領】メニューからアクセス）。
- リース契約で直接指定
 - 1 契約の詳細画面の  をクリックし、契約に関連する発注のリストを表示します。
 - 2 受領する発注を選択します。
 - 3 発注の詳細画面の  をクリックし、受領（伝票）を作成します。

資産を受領したら、次は資産の承認に移ります。

リース契約に関連する発注を表示する

契約の詳細画面の  ボタンをクリックするだけで、関連する発注とそのステータス（発注済、受領済など）を見ることができます（発注の詳細画面の【トラッキング】タブページ）。

注意:


リース明細の詳細画面の  ボタンを使うと、契約に関連する発注のステータスをトラッキングしたり、発注明細を受領したりできます。

資産のテーブル内で直接選択または作成された資産の追加

契約上の資産が調達サイクルで作成された資産でない場合でも、資産のテーブルから直接選択できます。契約上の資産は次の方法で作成できます。

- 資産のテーブルに直接入力する。
- リース契約の詳細画面の【資産（リース）】タブページに直接入力する。
- 資産のテーブルに資産をインポートする。
- 別の画面でコピーした資産を契約の詳細画面の【資産】タブページに貼り付ける。

契約上の資産を資産のテーブルに入力またはインポートする


契約上の資産は資産のテーブルで直接作成できます。[**ポートフォリオ/資産とロット**]メニューを選択するか、またはツールバーの  アイコンをクリックします。





資産をリース契約に関連付けるには、資産の詳細画面の [**取得**] タブページで正しく情報を指定する必要があります。

[**取得方法**] (SQL名: seAcquMethod) フィールドでは取得方法 (リースまたはレンタル) を、[**調達**] サブタブページの [**リース明細**] (SQL名: AcquContract) フィールドではリンクする契約を選択します。

契約の詳細画面の [資産 (リース)] タブページで契約上の資産を入力する

契約の詳細画面の [**資産 (リース)**] タブページで契約上の資産を作成できます。

このタブページの  をクリックすると、資産のテーブルにアクセスでき、このテーブルで次の作業を実行できます。

- リース契約に含める資産の作成
 - 1  をクリックします。
 - 2 資産情報を入力します。
 - 3  をクリックし、資産のテーブルに資産を追加します。
 - 4  をクリックし、契約に資産を含めます。
- リース契約内に既に存在する資産の作成
 - 1 資産を選択します。
 - 2  をクリックして、契約に資産を関連付けます。

選択(Q) をクリックしてから、次の画面に入力します。

詳細	開始	終了	回数	支払	料率
デフォルト	2002/01/01	2003/12/31	月1回	40,000	3%

この画面には、次の情報が表示されます。

- 開始日
AssetCenterは、賃貸期間の開始日と契約の開始日のうち早い方を自動的にフィールドに入力します。
- 終了日
AssetCenterは、契約の終了日と賃貸期間の終了日のうち遅い方を自動的にフィールドに入力します。
- テーブル
AssetCenterは、選択した資産に配賦する契約賃貸料を自動的に表示します（【賃貸料】タブページのサブタブページにある【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで指定されている場合）。資産に関連付ける賃貸料を選択します。
注意：契約賃貸料をすべての資産に配賦することが指定されている場合は、AssetCenterがその契約に関連付けられている資産を自動的に追加します。
【賃貸料の比例配分】フィールドが【資産に賃貸料を配分または配賦しない】に設定されている場合は、資産を追加しません。

選択した資産の【取得】タブページの情報は、次のように自動的に入力または変更され、資産がリース契約にリンクされます。

- 【取得方法】（SQL名：seAcquMethod）フィールドには、リース明細で定義した【資産のデフォルトの取得方法】（SQL名：seAcquMethod）フィールドの値が入ります。
- 【調達】サブタブページには、貸主の名前と参照番号が入力され、【リース明細】（SQL名：AcquContract）フィールドにリンクしたリース契約が表示されます。

- **【価格と条件】**サブタブページには、リース期間の開始日と終了日が表示されます。
- 選択した賃貸料とすべての資産に配賦した契約賃貸料に関する情報を含むサブタブページが作成されます。このサブタブページには契約自体に定義された賃貸料に関する情報がコピーされます。資産の賃貸料は、契約上で定義した賃貸料の分割規則に従って計算されます。

契約上の資産を表示する

リース契約画面の**【資産（リース）】**タブページには、以下のすべての資産が契約上の資産として一覧表示されます。

- 契約のファイナンス処理時に調達管理の過程で発生した資産。これらの資産は受領済であり、ポートフォリオの一部です。
- 資産のテーブルにインポートまたは直接入力された資産。リース契約の枠組み内で取得した資産です。

これらのすべての資産は、資産の詳細画面の**【取得】**タブページで同じ契約にリンクしています。

資産の受領を承認し、一時金を計算する

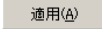
ここでは、資産の受領を承認し、一時金を計算する手順について説明します。借主は、資産を受領すると一定の時間をかけて資産を評価し、正しく機能することを確認します。その結果資産が承認されると、リースと賃貸料の支払が実際に開始されます。

承認は、リース手続きの中できわめて重要な処理手続きであり、借主と貸主との間で契約書類が交換されます。借主は貸主に受領証書を送付し、資産の承認を表明します。

契約の詳細画面の右側にある  ボタンをクリックすると、ウィンドウが表示され、次の処理を行うことができます。

- 資産の受領の承認
- 承認した資産の一時金の計算

これらの処理を行うには、必ず次の手順に従ってください。

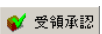
- 1 ウィンドウの左側で情報を入力し、資産の受領を承認します。
- 2 ウィンドウの右側で情報を入力し、承認した資産の一時金を計算します。
- 3  をクリックして保存します。


 **注意:**

契約上の資産のそれぞれの受領承認日を別々に指定できます。これにより、異なる日程の納品予定を組んで別々の日に資産を受領することができます。

資産の受領を承認する

資産の受領を承認するには、次の手順に従います。

- 1 契約の詳細画面の  をクリックします。そのリース契約に含まれている資産が一覧表示されます。デフォルトでAssetCenterは、まだ受領されていない資産のみを表示します。
- 2 受領を承認する資産を選択します。
- 3 **【取得状況】**（SQL名：seAcquStatus）フィールドで **【受領承認済】** を選択します。このフィールドは、資産の詳細画面の **【取得】** タブページの **【調達】** サブタブページにもあります。
- 4 該当するフィールドに承認日を入力します。
- 5 複数の資産を続けて承認する場合は、**【シリアル番号】** のフィールドにそのつどシリアル番号を入力します。このフィールドは資産の詳細画面の **【全般】** タブページの **【シリアルNo.】** フィールドに対応します。

終了するには、画面右側で資産の一時金を計算してから  をクリックします。

 **注意:**

【受領承認日と一時金】 画面の **【シリアル番号】** フィールドは、契約上の資産のシリアル番号を示します。貸主に送付する受領証書には、受領した資産、承認日、資産のシリアル番号が必要になります。そのため、このシリアル番号を必ず入力するようにしてください。

一時金を計算する

資産の受領を承認すると、支払が開始されます。同時に、借主は貸主に一時金を支払う必要があります。

一時金は、資産の受領承認日から賃貸契約期間の最初の賃貸料支払日までの賃貸料を対象とします。

 **警告:**

AssetCenterでは、契約の主賃貸料に付属する一時金だけを計算します。

AssetCenterでは、契約の詳細画面の **【賃貸料】** タブページ / 主賃貸料サブタブページ / **【賃貸料の比例配分】** (SQL名: seProrateRule) フィールドで選択できる次のオプションに応じて一時金を計算します。


- **【資産に賃貸料を配分または配賦しない】**
- **【すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦】**
- **【選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦】**
- **【すべての資産に1件当りの賃貸料を配賦】**
- **【選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦】**

【すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦】オプション

AssetCenterは、次の手順で一時金を資産に配分します。

- 1 まず、**【受領承認日と一時金】**の画面で選択したすべての資産の一時金を計算します。これは、選択した資産の賃貸料の総額と**【受領承認日と一時金】**で定義した一時金の計算タイプに基づいて計算します。契約上のすべての資産を選択する必要はありません。
- 2 この一時金を、選択した各資産に配分します。これは、資産の詳細画面の**【支払】**(SQL名: mPayments)フィールドと**【回数】**(SQL名: sePeriodicity)フィールド(**【取得】**タブページの主賃貸料サブタブページ)に基づいて計算されます。各資産の一時金は、**【価格と条件】**タブページの**【初回金】**(SQL名: mIntPay)フィールドに入力されます。
- 3 契約の全一時金を再計算します。この金額は、契約上の全資産の一時金の合計に等しくなります。契約の一時金の総額は、契約の詳細画面の**【全般】**タブページの**【初回金】**(SQL名: mIntPay)フィールドに表示されます。

すべての資産の一時金を計算する場合は、以下の手順に従います。

- 1 契約の詳細画面の  **受領承認** をクリックします。【受領承認日と一時金】画面が表示されます。



受領承認日と一時金

計算に含まれる資産の選択

資産: Compaq EVO D500 UP (DKT00... DKT001013 受領済)

取得状況: 受領承認済

開始日: 2002/01/01

受領承認日: 2002/03/26

シリアル番号:

一時金の計算

賃貸料の合計: 2,100

支払回数: 月1回

一時金の合計: 0

一時金の計算



計算のタイプ: 受領承認日

日数: ### 最少日数: 0 最大日数: 90

比例配分方法: 市場価格

四捨五入: 0.01

適用(A) 閉じる(Q)

- 2 資産を選択します。
- 3 一時金の【計算のタイプ】を選択し、選択した方法に応じて【最小日数】、【最大日数】、【パーセント】の各フィールドに値を入力します。【固定】を選択した場合は、【一時金の合計】フィールドに直接金額を入力します。
- 4  をクリックすると、すべての資産の一時金の総額が【一時金の合計】フィールドに表示されます。
- 5 次に、一時金の合計をすべての資産にどのように配分するかを指定します。
 - 1 【比例配分方法】フィールドでは、一時金を各資産に配分する方法を指定します。
 - 2 【四捨五入】フィールドでは、一時金を四捨五入する場合の桁数を指定します。
- 6  をクリックし、資産ごとの一時金と契約上の一時金の計算結果を保存します。結果は次のようになります。
 - 1 契約の詳細画面の【全般】タブページにある【初回金】（SQL名：mlntPay）フィールドが再計算され、契約上の一時金の総額が更新されます。
 - 2 各資産の詳細画面の【取得】タブページにある【価格と条件】サブタブページの【初回金】（SQL名：mlntPay）フィールドに、資産の一時金が表示されます。この一時金は、【比例配分方法】フィールドと【四捨五

入]フィールドで指定した規則によって、契約賃貸料の総額を資産に配分したものです。

- 3 各資産の詳細画面の [コスト] タブページに、一時金の経費明細が表示されます。

[選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦] オプション


受領を承認した複数の資産の一時金を計算する手順は、主賃貸料をすべての資産に比例配分する前述の方法と同様です。ただし、次の条件が異なります。

- 選択した資産それぞれにつき、受領承認時に一時金が計算されます。選択していない資産の一時金はゼロです。
- 契約上の一時金の総額は、選択した資産の一時金の合計に等しくなります。この金額は、契約の詳細画面の [全般] タブページの [初回金] (SQL名: mIntPay) フィールドに表示されます。

[資産に賃貸料を配分または配賦しない] オプション

資産ごとの一時金はありません。

契約上の一時金の総額は、契約の詳細画面の [全般] タブページ / [初回金] (SQL名: mIntPay) フィールドに借主が直接入力します。

この場合は、 ボタンを押しても、一時金は計算されません。画面左側の受領の承認にのみ使用されます。

契約の一時金の経費明細は、契約の詳細画面の [コスト] タブページに表示されます。

一時金の計算タイプ

注意:

一時金の計算タイプは、契約の主賃貸料をすべての資産または選択した資産に配分する場合 (契約の詳細画面の [賃貸料] タブページの主賃貸料サブタブページにある [賃貸料の比例配分] (SQL名: seProrateRule) フィールドで指定) にのみ使われます。

AssetCenterでは、選択した複数の資産の一時金を次の3つの方法で計算できます。

- 資産受領の承認日に基づいて計算
- 選択した資産の賃貸料に対する比率 (パーセント) で計算
- 固定値 (直接金額を入力)

契約の詳細画面の [リース] タブページ、および [受領承認日と一時金] 画面に、一時金の計算タイプが表示されます。

次の節では、選択した複数の資産の一時金を計算する方法について詳しく説明します。

[受領承認日] による計算

一時金は、資産の受領を承認した日から計算されます。つまり、一時金の期間に比例配分されます。AssetCenterでは、1ヶ月は30日と見なします。

計算パラメータは、[受領承認日と一時金] 画面で指定します。

- 計算の基準値は [賃料の合計] フィールドに指定します。これは、選択した資産の定期的に支払う賃料の総額です。ただし、選択した資産に契約賃料を配分する場合（契約の詳細画面の [賃料] タブページの [賃料の比例配分]（SQL名：seProrateRule）フィールドで指定）は、選択しない資産の定期的な賃料はゼロになります。
- 計算に使う日数は、AssetCenterで自動的に決定されます。
 - **日数**
受領承認日から賃貸期間の最初の賃料支払日までの日数（AssetCenterで自動的に計算されます。）
 - **最小日数**
一時金の計算に使う最小の日数
 - **最大日数**
一時金の計算に使う最大の日数

受領承認日による一時金の計算例

リース契約は2002年7月1日に始まります。月1回の賃料（月額30000円）を月初めに支払います。これは、契約上のすべての資産に配分されます。借主は、2002年6月17日に契約上の資産を2件を受領し、受領を承認しました。これらの資産の賃料は、それぞれ月額8000円（資産A）と4000円（資産B）です。

- これらの2件の資産の一時金は、6月17日から6月30日まで（初日と最終日を含む）の14日間です。したがって、一時金は $14/30 * (8000 + 4000) = ¥5600$ と計算されます。

これで、契約上の一時金の総額（契約の詳細画面の【全般】タブページの【初回金】（SQL名：mlntPay）フィールドに表示される金額）が、5600円増えます。

- 受領を承認した2件の資産の一時金は、それぞれの資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【価格と条件】サブタブページ / 【初回金】フィールドに表示されます。

2件の資産の一時金は、契約上の一時金総額を月額の賃貸料に比例配分し、少数点以下第二位を四捨五入して計算するものとします。

Aの一時金：5600 * 8000 / (8000 + 4000) = ¥ 3733.3

Bの一時金：5600 * 4000 / (8000 + 4000) = ¥ 1866.7

【最小日数】と【最大日数】フィールドを使う一時金の計算例

リース契約は2002年7月1日に始まります。すべての資産に配分された賃貸料は、月初めに支払う必要があります。一時金は承認日に応じて計算されます。【最小日数】は3日、【最大日数】は25日です。

- 契約上のすべての資産を2002年6月29日に受領し、承認する場合は、承認日から賃貸期間の初日までの日数が3日未満なので、一時金はゼロになります。
- 契約上のすべての資産を2002年7月2日に受領し、承認する場合は、承認日から賃貸期間の初日までの日数が25日を超えています。結果として、一時金は25日間についてのみ計算されます。

賃貸料比（パーセント）による計算

一時金は、次のように契約の【賃貸料の合計】フィールドに指定した金額に対する比率で計算します。

- 比率は、この計算方法を選択した場合に表示される【パーセント】フィールドに指定します。デフォルトでは、契約の詳細画面の【リース】タブで定義する比率に等しくなります。
- 【賃貸料の合計】は、選択した資産の定期的に支払う賃貸料の合計です。ただし、契約賃貸料を選択した資産に配分する場合（契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで指定）は、選択しない資産の定期的な賃貸料はゼロになります。

一時金は、この方法では資産の受領承認日には無関係です。

例

リース契約は2002年7月1日に始まります。月1回の賃貸料（月額30000円）を月初めに支払います。契約の詳細画面の【リース】タブページで定義した一時金

の賃貸料比は、30%です。賃貸料はすべての資産に配分され、契約上のすべての資産を2002年6月中に受領し、承認します。

- 契約の一時金は2002年6月1日から6月30日までの期間を対象とします。
一時金は、 $30000 * 30\% = ¥9000$ となります。
- 資産ごとの一時金は、選択した方法で一時金を比例配分して計算します。



固定値による計算

一時金は入力した金額そのものになります。【受領承認日と一時金】画面の【一時金の合計】フィールドに直接金額を入力してください。

契約上の資産を更新する

期間満了時に、借主はすべてまたは一部の資産についてリースを延長できます。これを資産の更新と呼びます。

資産を更新するには、次の手順に従います。

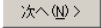
- 1 契約の詳細画面で  ボタンをクリックします。このボタンは、契約の詳細画面の【オプション】タブページで【更新】（SQL名：bRenOpt）オプションが選択されている場合にのみ有効です。
- 2 後述の各画面で詳細情報を入力します。
- 3 最後の画面で  をクリックして更新を確定します。

更新する資産の選択ウィンドウ

最初に表示されるウィンドウでは、更新する資産を選択できます。


【支払】列

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの主賃貸料サブタブページにある【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）オプションを選択すると、選択ウィンドウのこの列に各資産の主賃貸料が表示されます。オプションを選択しない場合は、賃貸料は表示されません。

資産を選択してから  をクリックします。

更新する賃貸料の選択ウィンドウ

2番目に表示されるウィンドウでは、前の手順で選択したすべての資産について更新する契約の賃貸料を選択できます。

賃貸料を選択してから、 をクリックします。

新規賃貸料の定義ウィンドウ

3番目に表示されるウィンドウでは、更新する各賃貸料の適用条件を指定できます。各賃貸料を選択し、以下のフィールドに入力します。

詳細

新しい賃貸料の名前を入力します。

新しい賃貸料を作成すると、契約の詳細画面の **[賃貸料]** タブページに、作成した賃貸料に対応する賃貸料サブタブページが作成されます。

開始


新しい賃貸料の開始日は、デフォルトでは更新する前の賃貸期間の終了日に1日加えた日付（翌日）になります。

終了

新しい賃貸料の終了日は、デフォルトでは、新しい賃貸料の開始日に契約の詳細画面の **[オプション]** タブページの **[更新]** サブタブページにある **[更新期限]**（SQL名：tsDefRenDur）フィールドに指定した期間を加算した日付になります。

支払

新しいリース賃貸料は、デフォルトでは契約の詳細画面の **[オプション]** タブページの **[更新]** サブタブページにある **[デフォルトの更新条件]** セクションに指定されている情報を使って計算されます。

新しい賃貸料を定義したら、 をクリックして処理を続行します。


更新日の定義ウィンドウ

最後のウィンドウでは、選択した資産の更新期間を定義します。

デフォルトでは次のようになります。

- 資産の更新日は、新しい賃貸料の最初の支払の初日になります。
- 更新した資産の終了日は、新しい賃貸料の最後の支払の最終日になります。


資産の更新の結果


最後の定義ウィンドウで  をクリックします。更新結果は次のようになります。

- AssetCenterは、既存の契約の **[賃貸料]** タブページにユーザが入力した新しい賃貸料の情報を使ってサブタブページを作成します。これらの新しい賃貸料は、前のリース賃貸料と同様に計算され、管理されます。
- 作成された賃貸料のサブタブページは、資産の詳細画面の **[取得]** タブページに表示されます。
- 資産を更新すると、そのステータスも自動的に更新されます。資産の詳細画面の **[取得]** タブページの **[調達]** サブタブページにある **[取得状況]** (SQL名: seAcquStatus) フィールドが **[更新済]** になります。

資産を返却する

ここでは、満了時に資産を返却する手順について説明します。


契約の詳細画面の  ボタンをクリックすると、リース明細に関連する返却が作成されます。このボタンは、契約の詳細画面の **[オプション]** タブページで **[返却]** (SQL名: bRetOpt) オプションが選択されている場合にのみ有効です。

返却は、**[契約/返却-期間満了]** メニューを使って管理することもできます。このメニューを選択すると、特定の契約だけでなくすべての契約の返却のリストを表示できます。これに対し、 ボタンは、作業中の契約に関連する返却のみを表示します。

1件の返却に、同じ契約に含まれる資産が複数リンクする場合があります。



返却を契約に関連付ける

返却の詳細画面の **[全般]** タブページの **[ファイナンス契約]** (SQL名: Schedule) フィールドで、返却をリンクする契約を指定します。

リース契約の詳細画面の  ボタンを使って返却を表示した場合は、このフィールドにはリンクしているリース契約が表示され、これを変更することはできません。**[契約/返却-期間満了]** メニューから返却を表示した場合は、契約のテーブルからリース明細を選択できます。

返却する資産のリスト

返却する資産の一覧を、返却の詳細画面の【資産】タブページで見ることができます。

- 1  をクリックすると、返却の詳細画面の【全般】タブページで指定したリース明細にリンクしている資産のリストから資産を選択できます。
- 2  をクリックすると、資産をリストから削除できます。

輸送に関する情報は、返却の詳細画面の【輸送】タブにあります。


資産が返却に入れられると、そのステータスが自動的に変更されます。資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【調達】サブタブページ / 【取得状況】（SQL名：seAcquStatus）フィールドが【返却予定】に変わります。

返却する資産のリストに資産を加えても、資産のテーブルや契約上の資産のリスト（契約の詳細画面の【資産】タブページに表示）からは削除されません。

資産を除却する

返却に入っている資産は、自動的に除却されるわけではありません。

返却に入っている資産を実際に除却する手順を次の通りです。


- 1 返却の【全般】タブページの【実行日】（SQL名：dCarriedOut）フィールドに日付を指定します。
- 2 返却の詳細画面の【資産】タブページで除却する資産を選択します。
- 3  をクリックします。

次のように変更されます。

- 資産の詳細画面の【取得】タブページの【取得状況】（SQL名：seAcquStatus）が【返却済】に設定されます。
- 資産（【ポートフォリオ】タブのサブタブ【全般】）の【割当】（SQL名：seAssignment）フィールドが、【除却済(または消費済)】に変わります。
- 資産の詳細画面の【全般】タブページの【使用終了】セクションが、次のように変更されます。
 - 【除却】（SQL名：dDispos）フィールドは、デフォルトでは返却の詳細画面の【全般】タブページ（【実行日】フィールド）で指定した実際の返却日になります。
 - 資産の詳細画面の【全般】タブページの【理由】（SQL名：DisposReason）フィールドに、除却の理由が「返却（【返却伝票の名前]）」であることが示されます。

資産を買い取る

資産を買い取る場合は、以下の手順に従います。

- 1 契約の詳細画面の  ボタンをクリックします。このボタンは、契約の詳細画面の **[オプション]** タブページで **[購入]** (SQL名: bPurchOpt) オプションが選択されている場合にのみ有効です。
- 2 買い取る資産を選択します。

AssetCenterは、選択した資産について次の金額を計算します。

- 主賃貸料 (**[取得]** タブページ) の各サブタブページに表示される **[支払]** (SQL名: mPayments) フィールドの合計金額
- 選択した資産の **[取得]** タブページ / **[調達]** サブタブページ / **[市場価格]** (SQL名: mMarketVal) フィールドの合計金額


次のように、特定の購入条件は自動的に入力されます。

- 購入価格は、選択した資産の **[取得]** タブページ / **[価格と条件]** サブタブページ / **[買取額]** (SQL名: mPurchOptVal) フィールドの合計になります。
- 購入日は、デフォルトではリース期間の満了日になります。

必要に応じて、**購入価格**を手動で入力し、購入日を変更します。**[比例配分方法]** フィールドでは、購入価格を選択した資産に配分する方法を指定します。

注意:

[賃貸料の合計]、**[市場価格の合計]**、および **[購入見積値]** のフィールドの値は、**[購入価格]** を決定するときの参考用です。

次に、 をクリックして、内容を確定します。

買い取りを確定すると、選択した資産の次のフィールドが変更されます。

- **[取得方法]** (SQL名: seAcquMethod) フィールド (**[取得]** タブページ) が **[購入]** に変更されます。
- **[購入日]** (SQL名: dAcquisition) フィールド (**[取得]** タブページの **[価格と条件]** サブタブページ) が、資産の購入画面で指定した日付になります。
- **[購入価格]** (SQL名: mPrice) フィールド (**[取得]** タブページの **[価格と条件]** サブタブページ) が、購入画面で定義したパラメータから計算した値になります。
- 資産の詳細画面の **[コスト]** タブページに経費明細が作成されます。

処理をトラッキングする

[サイクル] タブページでは、資産のライフサイクルをトラッキングできます。このタブページには、リース契約の管理で資産に対して実行した処理の一覧が表示されます。

- 契約への追加（登録）
- 承認
- 更新
- 購入（買い取り）
- 返却

このタブページは、情報の提供のみを目的としています。このタブページから契約上の資産に関する処理を行うことはできません。

※をクリックするだけで、処理を行った資産や返却明細のリストが下側に表示されます。

ダブルクリックすると、資産と返却の詳細画面にアクセスできます。

注意:

返却処理に表示される日付は返却予定日です。

損失額の計算規則を定義する

一般に、紛失または破損した資産の価値は契約に規定されています。

AssetCenterでは、損失額の計算規則を入力し、1件の資産または選択した複数の資産の損失額を参考値を使って見積ることができます。

これらの作業は、リース契約の詳細画面の [リース] タブページで行います。資産の詳細画面で直接資産の損失額を計算することはできません。

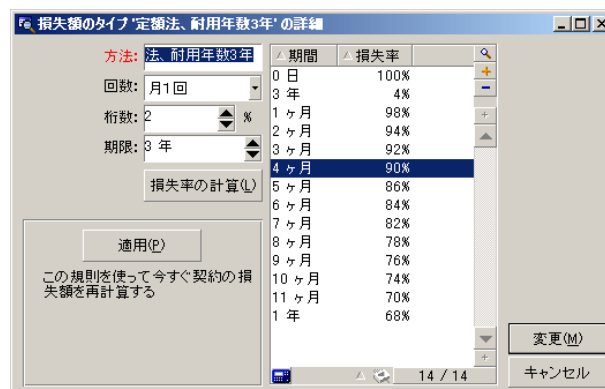
資産の損失額を計算する前に、計算規則を定義する必要があります。

計算規則を定義するには、次の手順に従います。

- 1 リース契約の詳細画面を表示し、[リース] タブに移動します。
- 2 [規則]（SQL名：LossValRule）フィールドに移動します。
- 3 このフィールドに新しい損失額の計算規則名を入力して別のフィールドに移動すると、損失額の計算規則が作成されます（[仮作成]と[詳細設定]のどちらかのオプションを選択できるダイアログボックスが表示されます。ここでは[詳細設定]を選択します）。

資産の損失額を評価するための計算規則例は以下の通りです。

図 4.1. 損失額のタイプ - '定額法' の例



【回数】（SQL名：sePeriodicity）

期間中に行う計算の回数（頻度）を指定します。

【桁数】（SQL名：fPrecision）

計算結果の桁数を指定します。

例：「0.1」と指定すると、計算された損失率が、小数点以下第1位まで表示されます。

【期限】（SQL名：tsDuration）

損失額の計算規則の有効期間を、契約の開始日から数えた日数で指定します。

適用

損失額の計算規則を変更したときに、リンクしている契約にすぐにその変更結果を反映させたい場合は、このボタンを使います。

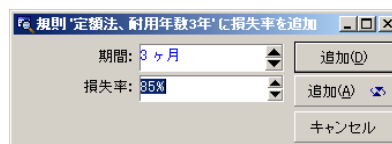
☑ ボタンと ☐ ボタン

☑ または ☐ をクリックすると、損失率を追加または削除できます。

損失額を求める計算規則では、契約の開始以降の経過時間によって資産の参照値にかける損失率が決まります。

定額法で2つの期間の損失額間の損失率を計算する場合は、**損失率の計算(L)** [損失率の計算] ボタンで自動的に計算できます。2値間の損失率を計算するには、次の操作を行います。

- 1 計算の [回数] と [桁数] を定義します。
- 2 計算する期間の最初と最後の損失率を入力します。
- 3 両方の損失率を選択します。
- 4 **損失率の計算(L)** をクリックします。2つの期間の間の損失率が計算されます。
損失率の変化が直線的でない場合は、**+** ボタンをクリックして、直接それぞれの損失率を入力する必要があります。



この例では、リース期間の開始後3ヶ月間の損失額は、資産の参考値（計算基準値）の85%になります。

損失額を計算する

損失額の計算規則を選択すると、AssetCenterはこの損失額計算規則を使って損失額を計算します。損失額の計算には、次のいずれかの方法を使います。

- すべての期間について計算する
- 指定した日付について計算する

+ ボタンをクリックすると、計算が開始されます。

注意:

損失額の計算を始める前に、契約の詳細画面の **変更(M)** をクリックし、選択した計算方法を確定してください。

[全期間で計算]

この方法を選択すると、AssetCenterは契約の開始日（【全般】タブページ内）以降の規則の有効期間に属するすべての期間について損失額を計算します。計算したリース契約専用の損失額のテーブルが作成されます。

日付	損失率	値
2001/01/01	100%	40,000
2001/02/01	98%	39,200
2001/03/01	94%	37,600
2001/04/01	92%	36,800

[日付]（SQL名：dLossVal）と **[損失率]**（SQL名：pRate）

選択した明細の日付と損失率が表示されます。この2つの値は、選択した損失額の計算規則によって決まります。この情報は、契約の損失額のリスト内で更新または保存できます。

[市場価格]（SQL名：mValue）

選択した明細の損失額が表示されます。1件の資産または複数の資産の合計額を入力できます。

[指定した日付で計算]

この方法を選択すると、AssetCenterはその契約に指定された計算規則を使って、特定の日付の時点における損失額を計算します。

計算基準

デフォルトでは、AssetCenterは【資産総額】（SQL名：mMarketVal）フィールド（契約の【リース】タブページ内）の値が入力されます。

1件の資産または複数の資産の合計額を入力できます。

契約の開始


損失額の計算規則の適用開始日を設定します。この日付は、デフォルトでは契約の開始日（**[全般]**タブページ内）になります。この日付を変更すれば、例えば契約の開始後に追加した資産の損失額を計算できます。

計算ボタン


次の場合はこのボタンをクリックします。

- 計算基準値にかける損失率を表示する。この損失率は、選択した計算規則と資産の紛失日によって決まります。
- 計算基準値を基に損失額を計算する。

損失額を更新する

契約の詳細画面の**[リース]**タブページでは、損失額の計算規則と計算の方法（**[全期間で計算]**または**[指定した日付で計算]**）を定義できます。をクリックすると、損失額の計算を開始できます。

損失額の計算規則の詳細は、次の方法で変更できます。

- **[管理/画面一覧]**メニューを使って**[損失額]**のテーブル（SQL名：amLossValLine）を表示します（このメニューにアクセスできるのは、AssetCenter管理者のみです）。
- 契約の詳細画面の**[リース]**タブページで、**[規則]**（SQL名：LossValRule）フィールドの右のボタンをクリックして、計算規則の編集画面を表示します。

この場合、この損失額を使うすべての契約を更新する必要があります。


損失額の変更直後の更新

変更した損失額の計算規則を使うすべての契約を更新するには、計算規則の詳細画面の**[適用]**ボタンをクリックします。

AssetCenter Serverによる更新

AssetCenter Serverは、計算方法が**[全期間で計算]**（リース契約の詳細画面の**[リース]**タブページの**[計算]**（SQL名：seLossValCalcMode）フィールド）に設定されているリース契約の損失額を定期的に再計算します。このように、AssetCenter Serverがデータベースにアクセスした後に損失額の計算規則を変更すると、AssetCenter Serverによって損失額が更新されます。

損失額を再計算する頻度を定義する場合は、次の手順に従います。

- 1 AssetCenter Serverの [**ツール/モジュールの設定**] メニューを選択します。
- 2 [**モジュール**] タブを選択します。
- 3 [**規定の損失額の計算**] オプションをオンにします。
- 4 ウィンドウの下部で頻度を指定します。
- 5  をクリックして設定を確定します。

5 | リース - 賃貸料

本章では、契約の賃貸料を計算する方法について説明します。

契約単位の賃貸料の支払については、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページで詳細情報を入力します。契約に関連する各賃貸料の金額（保険、メンテナンスなど）は、サブタブページに入力します。

資産ごとの賃貸料については、資産の詳細画面の【取得】タブページの各サブタブページで詳細情報を入力します。

本章の前半では、次の5つの方法で契約賃貸料を計算する手順を紹介します。

- 契約全体の賃貸料を計算し、その契約に含まれるすべての資産に配分します。この方法を使用するには、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで【すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦】オプションを選択します。
- 契約全体の賃貸料を計算し、契約に含まれる一部の資産に配分します。この方法を使用するには、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで【選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦】オプションを選択します。
- 契約上で1件当りの賃貸料を定義し、その賃貸料を契約に含まれるすべての資産に配賦します。この方法を使用するには、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで【すべての資産に1件当りの賃貸料を配賦】オプションを選択します。

- 契約上で1件あたりの賃貸料を定義し、その賃貸料を契約上の一部の資産に配賦します。この方法を使用するには、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで【選択した資産に1件当たりの賃貸料を配賦】オプションを選択します。
- 契約全体の賃貸料を計算しますが、資産への配賦は行いません。この方法を使用するには、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで【資産に賃貸料を配分または配賦しない】オプションを選択します。

方法1：契約賃貸料を計算し、契約上のすべての資産に配分する

ここでは、賃貸料の支払を契約上のすべての資産に配分する手順を説明します。この方法を適用するには、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの各サブページで【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドを【すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦】に設定する必要があります。

手順の中で処理する賃貸料を仮に「賃貸料x」とし、この賃貸料については契約の詳細画面（【賃貸料】タブページ）の【賃貸料x】サブページに詳細情報が入力されているものとします。

【賃貸料x】サブページについて

- 契約に伴う資産ごとに【賃貸料x】サブページ（資産の【取得】タブページ内）があります。
- 次に示す【賃貸料x】サブページのフィールドはすべての資産に共通であり、契約本体でしか変更できません。
 - 【回数】（SQL名：sePeriodicity）
 - 「主賃貸料」属性の有無
 - 賃貸料xの開始日
 - 賃貸料xの終了日
 - 【支払】
 - 【支払期日】
 - 【猶予】
 - 【受領承認日】（SQL名：bFromAcceptDate）
- 【賃貸料x】サブページの次のフィールドは、契約では使いません。
【経費明細の計算開始日】（SQL名：dRecalcul）

- 契約の [賃貸料x] サブタブページで、契約に関連する資産用のコストカテゴリ (SQL名: CostCategory) とコストセンタ (SQL名: CostCenter) を定義します。

 **警告:**

資産の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページの [全般] サブタブページにある [コストカテゴリ] (SQL名: CostCategory) リンクと [コストセンタ] (SQL名: CostCenter) リンクが入力されている場合、資産の [賃貸料x] サブタブページに入力されるのは、これらの2リンクの値です。

これら2リンクの値は、資産の [賃貸料x] サブタブページにも表示されます。

- 賃貸料の支払に対応する経費明細は、資産の [賃貸料x] サブタブページで定義する予算とコストセンタに配賦されます。これらの経費明細の作成に使うパラメータは、 [賃貸料x] サブタブページで指定します。

賃貸料の計算を実行する前に

AssetCenterで自動的に正しく計算を実行するために、次の手順に従って契約と資産を作成してください。

- 1 契約を作成します。 [賃貸料] タブページには情報を入力しません。
- 2 契約に資産を追加します。この場合、 [取得] タブページで「賃貸料x」のサブタブページを追加しないでください。資産の詳細画面の [取得] タブページ / [調達] サブタブページ / [市場価格] (SQL名: mMarketVal) フィールドに値が入っていることを確認します。
- 3 契約の詳細画面の [賃貸料] タブページに作成されたサブタブページに情報を入力します。他にも賃貸料がある場合は、対応するサブタブページを追加し、どの賃貸料が [主賃貸料] (SQL名: bMainRent) かを指定します
- 4 AssetCenter Serverが起動しており、経費明細を計算できることを検証します。

 **重要項目:**

賃貸料のサブタブページで [受領承認日] (SQL名: bFromAcceptDate) オプションを選択すると、契約上の資産の受領が承認されるまでその賃貸料の支払の経費明細は計算されません。

契約の「賃貸料x」を計算する

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページで、契約賃貸料の計算条件を指定します。各賃貸料については、個々のサブタブページに値が表示されます。

賃貸料ごとに、次の計算が実行されます。

- デフォルトでは、賃貸料の計算基準値となる【市場価格】(SQL名: mValue)は、契約上の資産の市場価格の合計になります。この計算は、契約に資産を追加してから【賃貸料x】サブタブページを定義する場合にのみ機能します。

注意:

賃貸料を資産に配分する方法(【賃貸料x】サブタブページの【賃貸料の比例配分】(SQL名: seProrateRule)フィールド)を変更しても、契約自体の賃貸料の【市場価格】は変更されません。その場合は、契約上の資産の比例配分値の合計を直接手動で入力してください。

- 一般に、料率はリース対象の資産のタイプによって変わります。これは、契約上で定義します。
- 契約上の【支払】(SQL名: mPayments)額は、賃貸料の【市場価格】に【料率】(SQL名: pLRF)をかけて計算します。

資産の賃貸料を計算する

契約上の資産ごとの賃貸料は、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ/【賃貸料】サブタブページにある【支払】(SQL名: mPayments)、【比例配分方法】(SQL名: ProrateField)、【四捨五入】(SQL名: fPrecision)、および【受領承認日】(SQL名: bFromAcceptDate)のフィールドを使って計算されます。

賃貸料を各資産に配分する方法

賃貸料を資産に配分するには、次の値を使うことができます。

- 賃貸料：資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[賃貸料]** サブタブページ / **[支払]** (SQL名：mPayments) フィールドに指定します。
- 資産の市場価格：資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[調達]** サブタブページ / **[市場価格]** フィールドに指定します。
- 資産の購入価格：資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[価格と条件]** サブタブページ / **[購入価格]** フィールドに指定します。このフィールドは、資産を購入する場合 (資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[取得方法]** (SQL名：seAcquMethod) フィールドが **[購入]** に設定されている場合) にのみ有効です。
- 買取額 (買い取り価格)：資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[価格と条件]** サブタブページ / **[買取額]** フィールドに指定します。このフィールドは、資産がリース対象の場合 (資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[取得方法]** (SQL名：seAcquMethod) フィールドが **[リース]** に設定されている場合) にのみ有効です。
- 資産の一時金：資産の取得方法が **[レンタル]** または **[リース]** の場合に、資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[価格と条件]** サブタブページ / **[初回金]** (SQL名：mIntPay) フィールドに指定します。
- 資産の減価償却：資産の詳細画面の **[固定資産]** タブページ / **[減価償却]** (SQL名：mDeprVal) フィールドに指定します。このタブは、資産の詳細画面の **[取得]** タブページ / **[取得方法]** フィールドが **[購入]** に設定されている場合のみ表示されます。
- 資産の残存価額：資産の詳細画面の **[固定資産]** タブページ / **[残存価額]** (SQL名：mNetValue) フィールドに指定します。

上記のすべての計算方法では、資産の詳細画面内の値 (**[購入価格]**、**[支払]**、**[市場価格]** など) を使います。これらの値は、「比例配分値」と呼ばれます。

契約の **[支払]** と比例配分値が既に指定されている場合に、資産の **[支払]** (SQL名：mPayments) を計算する式は次の通りです。

$$\text{資産賃貸料} = \text{契約賃貸料} \times \frac{\text{資産1件の比例配分値}}{\sum \text{契約上の資産の比例配分値}}$$

 **注意:**

【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドには、賃貸料を資産に配分するすべての方法が表示されます。

リース賃貸料の計算では、市場価格、買取額による比例配分などの特定の方法を使用します。

その他の方法は、賃貸またはリース以外で取得した資産の賃貸料を計算するのに使われます。例えば、保険料は契約賃貸料と見なされるので、購入価格を比例配分して購入した資産に配賦されます。

丸め誤差

丸め誤差は、最初の賃貸料で相殺されます。AssetCenter Serverは、最初の資産以外の資産の賃貸料を先に計算し、その結果派生した誤差を最初の資産の賃貸料に繰り越して、資産賃貸料の合計が契約賃貸料に等しくなるように調整します（どれを最初の資産と見なすかは、データベース管理システムとそのインデックスの設定方法によって決まります）。

四捨五入の桁数が「0」に設定されている場合は、各資産の賃貸料をデフォルトの桁数で計算します。例えば、価格が「100」の契約賃貸料を3つの資産に分割する場合は、指定した四捨五入の桁数によって次のように各資産の賃貸料が算出されます。

- 四捨五入の桁数が0.01の場合
 - 1 33.34
 - 2 33.33
 - 3 33.33
- 四捨五入の桁数が0の場合
 - 1 33.333333333333433
 - 2 33.333333333333254
 - 3 33.333333333333254

 **注意:**

四捨五入の桁数は、税金の値を配分する場合にも使われます。

賃貸料をすべての資産に比例配分する場合の計算規則

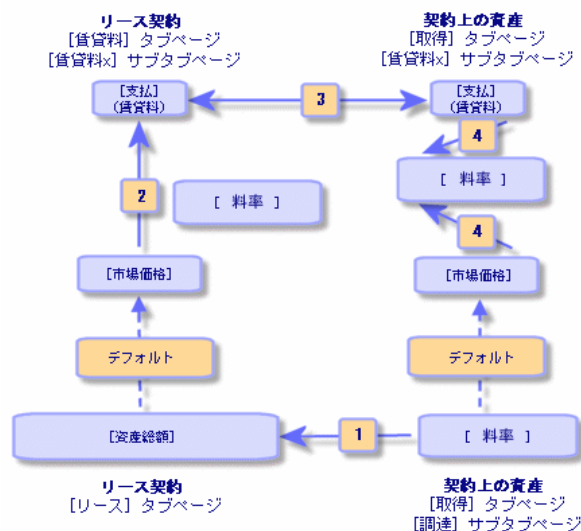
「リース明細」タイプの契約の場合

「賃貸料x」の詳細情報は、次のサブタブページで指定します。

- 契約の詳細画面の [賃貸料] タブページ / [賃貸料x] サブタブページ
- 契約の資産の詳細画面の [取得] タブページ / [賃貸料x] サブタブページ

下の図に、契約の詳細画面のフィールドと資産の詳細画面のフィールドとのリンク関係、および [賃貸料x] サブタブページを初めて作成した場合に [市場価格] (SQL名: mValue)、[支払] (SQL名: mPayments)、[料率] (SQL名: pLRF) フィールドを使って賃貸料を計算する規則を示します。この計算規則は、資産を契約に追加してから [賃貸料] サブタブページを追加した場合にのみ適用されます。

図 5.1. 賃貸料を契約上の資産に配分する - 図



- 契約上の [資産総額] (SQL名: mMarketVal) は、契約上のすべての資産の市場価格の合計に等しくなります。このデータは、情報の提供のみを目的としています。
- 契約の賃貸料xの計算の基準値となる [市場価格] は、デフォルトでは資産総額に等しくなります。

- 「賃貸料x」の契約賃貸料（[支払]フィールド）は、賃貸料xの[市場価格]に定義済の[料率]をかけた値になります。
- 「賃貸料x」の契約賃貸料（[支払]フィールド）は、指定した方法で資産に比例配分され、配賦されます。
- 資産の[料率]は、[賃貸料x]の資産賃貸料の計算の基準値となる[市場価格]と前の手順で計算した資産の[支払]フィールドによって計算されます。資産賃貸料xの計算に使う[市場価格]は、デフォルトではその資産の市場価格になります。

その他のタイプの契約の場合

「賃貸料x」の詳細情報は、次のサブタブページで指定します。

- 契約の詳細画面の[賃貸料]タブページ / [賃貸料x]サブタブページ
 - 契約の資産の詳細画面の[取得]タブページ / [賃貸料x]サブタブページ
- 契約の[市場価格]、契約賃貸料、資産の[支払]、資産に適用する[料率]を決定する規則は次の通りです。
- 契約の[市場価格]は、デフォルトでは契約上の資産の市場価格の合計になります。
 - 契約の[支払]は、契約の[市場価格]に、その契約に定義した[料率]をかけた値になります。
 - 契約の[支払]は、指定した方法によって資産に分割されます。
 - 資産の[料率]は、資産の[市場価格]と前の手順で算出した資産の[支払]フィールドによって計算されます。資産の[市場価格]は、デフォルトでは資産の市場価格になります。

賃貸料の計算例

ある企業が次に示す3つの資産をリースすると仮定します。

- 2台のPC（XとY）（市場価格はそれぞれ150000円）
- 1台のPC（Z）（市場価格は200000円）

契約の初期料率は3%です。

契約の[支払]（SQL名：mPayments）を計算する

契約の[支払] = 契約賃貸料の[市場価格] × [料率]

契約賃貸料の[市場価格] = “契約上の資産の市場価格”

= ¥500000

契約の[支払] = 500000 × 3% = ¥15000

資産の賃貸料を計算する

$$\begin{aligned}
 Y \text{の} [\text{支払}] &= \text{契約の} [\text{支払}] \times Y \text{の} " \text{比例配分値} " / (" X、Y、Z \text{の} \text{比例配分値} ") \\
 &= \text{契約の} [\text{支払}] \times Y \text{の} \text{市場価格} / (" X、Y、Z \text{の} \text{市場価格} ") \\
 &= 15000 \times 150000 / (150000 + 150000 + 200000) \\
 &= ¥ 4500 \\
 Z \text{の} [\text{支払}] &= 150000 \times 200000 / 500000 = ¥ 6000 \\
 X \text{の} [\text{支払}] &= \text{契約の} [\text{支払}] - (" X \text{以外} \text{の} \text{資産} \text{の} \text{賃貸料} ") \\
 &= 15000 - 4500 - 6000 \\
 &= ¥ 4500
 \end{aligned}$$

契約に資産を追加した場合

「リース明細」タイプの契約の場合

次の方法で使用中の資産を選択し、リース契約に追加します。

- 資産のテーブルから追加
- 契約の詳細画面の [資産 (リース)] タブページから追加

注意:

契約の詳細画面の [資産 (リース)] タブページから資産を契約に追加すると、契約と資産の両方の詳細画面に賃貸料サブページが自動的に作成または変更されるので、この方法をお奨めします。資産のテーブルから資産を契約に追加する場合は、契約と資産の両方の画面で賃貸料サブページを手動で作成または変更する必要があります。

ここでは、契約の詳細画面の [資産] タブページを使って資産を追加した場合に、契約賃貸料がどう変わるかを説明します。

契約の [資産総額] (SQL名: mMarketVal) への影響

リース契約に資産を追加すると、契約の [資産総額] ([リース] タブページ内) が自動的に再計算されます。

[資産総額] には、追加した資産分の市場価格が加算されます

契約賃貸料の [市場価格] と [支払] フィールドへの影響

契約に資産を追加すると、資産とその賃貸料の支払期間の開始日と終了日を指定する中間ウィンドウが表示されます。この例では、契約賃貸料をすべての資

産に配分してあるので、賃貸料の支払を追加する資産に関連付ける必要はありません。資産は配分した時点で自動的に賃貸料にリンクされます。

これで、中間ウィンドウで定義した資産の支払期間の開始日と終了日が、既存の「賃貸料x」の開始日および終了日と異なる場合でも、新しい資産が比例配分の対象資産に加えられ、新しい「賃貸料x」が作成されます。

- 契約に追加した資産の【支払】xを計算しても、同じ契約に含まれる既存の資産の賃貸料支払額は変わらないものと仮定します。

$$\text{追加資産の賃貸料} = \text{契約上の他の資産の賃貸料} \times \frac{\text{追加資産の比例配分値}}{\text{他の資産の比例配分値}}$$

- 契約の【支払】xには、追加した資産の【支払】xが加算されます。
- 契約賃貸料xの【料率】は変更されません。
- 契約賃貸料xを計算する基準値となる【市場価格】は次のように変更されません。

$$\text{新しい市場価格} = \frac{\text{新しい契約賃貸料}}{\text{料率}}$$

重要項目:

契約賃貸料をすべての資産に配分した後新しい資産を追加して、その新しい資産の「賃貸料x」に既存の「賃貸料x」の有効期間と異なるリース期間を定義すると、AssetCenterはこの資産を新しい「賃貸料x」にリンクしますが、新しく指定した期間は無視し、既存の「賃貸料x」に定義されているリース期間を適用します。この規則は、契約賃貸料をすべての資産に配分した賃貸料の場合にのみ当てはまります。契約賃貸料を一部の資産に配分した場合は、新しく追加した資産に既存の「賃貸料x」のリース期間と異なる有効期間を割り当てても、指定した新しい有効期間が適用されます。そのため、すべての資産に賃貸料を配分済みの契約に新しい資産を追加し、既存の賃貸料と異なるリース期間を適用する場合は、まず選択した資産に賃貸料を配分するように計算方法を変更してから、新しい資産を契約に追加してください。

例

前の例を使って、市場価格180000円の資産「A」を契約に追加すると仮定します。

資産「A」の【支払】フィールドの値を計算します。資産Aを契約に追加しても、X、Y、Zの賃貸料は変わらないものとします。

$$\begin{aligned}
 \text{賃貸料A} &= Y \text{の賃貸料} \times A \text{の比例配分値} / Y \text{の比例配分値} = Y \text{の賃貸料} \times A \text{の市場価格} / Y \text{の市場価格} \\
 &= Y \text{の賃貸料} \times A \text{の市場価格} / Y \text{の市場価格} \\
 &= 4500 \times 180000 / 150000 \\
 &= ¥ 5400 \\
 \text{契約の新しい【支払】} &= \text{契約の前の【支払】} + A \text{の【支払】} \\
 &= 15000 + 5400 \\
 &= ¥ 20400 \\
 \text{契約賃貸料の新しい【市場価格】} &= \text{契約の新しい【支払】} / \text{【料率】} \\
 &= 20400 / 3\% \\
 &= ¥ 612
 \end{aligned}$$

その他のタイプの契約の場合

次の方法で、使用中の資産を選択して契約に追加できます。

- 資産の詳細画面の【契約】タブページで追加
- 契約の詳細画面の【資産（リース）】タブページから追加

ここでは、契約賃貸料をすべての資産に配分した後に、別の資産を契約に追加するものとします。

資産を契約に追加すると、中間ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、追加日と取り外し予定日を指定できます。

これで、中間ウィンドウで定義した資産のリース期間の開始日および終了日が既存の「賃貸料x」の開始日および終了日と異なる場合でも、新しい資産が比例配分の対象資産に加えられます。

- 契約に追加した資産の【支払】xを計算しても、同じ契約に含まれる既存の資産の賃貸料支払額は変わらないものと仮定します。

$$\text{追加資産の賃貸料} = \text{契約上の他の資産の賃貸料} \times \frac{\text{追加資産の比例配分値}}{\text{他の資産の比例配分値}}$$




- 契約の【支払】xには、追加した資産の【支払】xが加算されます。
- 契約賃貸料xの【料率】は変更されません。
- 契約賃貸料xの計算の基準値となる【市場価格】は次のように変更されます。

$$\text{新しい市場価格} = \frac{\text{新しい契約賃貸料}}{\text{料率}}$$

契約から資産を削除した場合

「リース明細」タイプの契約の場合

次の方法で、リース契約から資産を削除することができます。

-  ボタンを使って資産を返却します。
- 契約の詳細画面の [資産 (リース)] タブページで次の操作を行います。
 - 1 削除する資産を選択します。
 - 2  をクリックします。
 - 3  をクリックし、変更を確定します。
- 資産の詳細画面の [取得] タブページ / [調達] サブタブページ / [リース明細] (SQL名: AcquContract) フィールドを変更して、契約から資産を切り離します。

契約の [資産総額] (SQL名: mMarketVal) への影響

契約から資産を削除すると、契約の詳細画面 ([リース] タブ) の [資産総額] が自動的に減額されます。

[資産総額] から、削除した資産の市場価格が差し引かれます。

契約賃貸料の [市場価格] と [支払] フィールドの値への影響



契約の [支払] (SQL名: mPayments) フィールドの値 (契約上の資産の賃貸料の合計) から、取り外した全資産の [支払] フィールドの合計金額が差し引かれます。

契約の [市場価格] も変更されます。この値は、変更されない [料率] と、 [支払] フィールドの新しい値を使って再計算されます。

AssetCenter Serverによって賃貸料の見積が自動的に再計算されるため、削除した資産の賃貸料は計算されなくなります。

その他のタイプの契約の場合

次の方法で資産を契約から削除することができます。

- 契約の詳細画面の [資産 (リース)] タブページで次の操作を行います。
 - 1 削除する資産を選択します。
 - 2  をクリックします。
 - 3  をクリックし、変更を確定します。

- 資産の詳細画面の [契約] タブページで追加
AssetCenter Serverによって賃貸料の見積が自動的に再計算されるため、削除した資産の賃貸料は計算されなくなります。
その結果、次のようになります。
- 契約の [支払] フィールドの値は、契約上の資産の賃貸料の合計から、削除された全資産の [支払] フィールドの合計金額が差し引かれたものです。
- 契約の [市場価格] が変更されます。

$$\text{新しい市場価格} = \frac{\text{新しい契約賃貸料}}{\text{料率}}$$

方法2：契約賃貸料を計算し、契約上の一部の資産に配分する



ここでは、契約賃貸料を計算する手順とこれを資産に配分する手順について説明します。

内容は次の通りです。

- 契約賃貸料を計算する
- 資産の賃貸料を計算する
- 一部の資産に賃貸料を配分する計算規則
- 契約に資産を追加した場合
- 契約から資産を削除した場合

この方法は、契約の詳細画面の [賃貸料] タブページ / [賃貸料の比例配分] (SQL名: seProrateRule) フィールドで [選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦] オプションが選択されている場合にのみ適用されます。

このオプションを選択してから、次の作業を行います。

- 1 [賃貸料の比例配分] (SQL名: seProrateRule) フィールドの右の  アイコンをクリックします。契約に含まれている資産のリストが表示されます。
- 2 このリストから賃貸料を配賦する資産を選択します。
- 3  をクリックし、資産の選択を確定します。

契約賃貸料を計算する

「リース明細」タイプの契約の場合

契約賃貸料は、次に示すように賃貸料の計算基準値となる【市場価格】（SQL名：mValue）に料率をかけて計算します。

- 一般に、【料率】は契約上の資産のタイプによって変わります。料率は契約上で定義されている値です。
- 賃貸料の【市場価格】は、デフォルトでは【資産総額】（SQL名：mMarketVal）（リース契約の詳細画面の【リース】タブページ内）、つまり契約上の資産の市場価格（資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【調達】サブタブページ）の合計になります。

その他のタイプの契約の場合

契約賃貸料は、次に示すように賃貸料の計算基準値となる【市場価格】（SQL名：mValue）に料率をかけて計算します。

- 一般に、【料率】はリース資産のタイプによって変わります。料率は契約上で定義されている値です。
- 賃貸料の市場価格は、デフォルトでは契約上の資産の市場価格（資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【調達】サブタブページ内）の合計になります。

資産の賃貸料を計算する

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料x】サブタブページ / 【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで【選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦】オプションを選択すると、選択した全資産の「賃貸料x」の合計が契約賃貸料の金額に等しくなります。

選択した各資産の賃貸料xは、【比例配分方法】（SQL名：ProrateField）フィールドと【四捨五入】（SQL名：fPrecision）フィールドで定義した条件によって計算されます。

選択した一部の資産の賃貸料を計算する方法は、契約賃貸料を契約上のすべての資産に配分する場合の方法と同様です。選択しなかった資産の賃貸料はゼロになります。

一部の資産に賃貸料を配分する計算規則

「リース明細」タイプの契約の場合

比例配分の計算で使われるフィールドは、次のようにリンクしています。

- 契約の【資産総額】（SQL名：mMarketVal）フィールド（契約の詳細画面の【リース】タブページ内）、契約賃貸料のデフォルトの市場価格（契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料】サブタブ / 【市場価格】（SQL名：mValue）フィールド）、および選択した資産の市場価格（資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【調達】サブタブページ内）
- 契約賃貸料（契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ / 【支払】（SQL名：mPayments）フィールド）と選択した資産の賃貸料（資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ / 【支払】（SQL名：mPayments）フィールド）

上記のリンクは、契約賃貸料をすべての資産に配分する場合の契約と契約上のすべての資産間のリンクと同様です。

- 契約の【資産総額】は、契約上のすべての資産の市場価格の合計になります。
- 契約賃貸料を計算する場合に基準とする【市場価格】は、デフォルトでは【資産総額】に等しくなります。
- 契約の【支払】額は、選択した資産の【支払】の合計になります。

その他のタイプの契約の場合

「賃貸料x」の詳細情報は、次のサブタブページで指定します。

- 契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料x】サブタブページ
 - 資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【賃貸料x】サブタブページ
- 【賃貸料x】の計算に使われる契約の【市場価格】、契約の【支払】、資産ごとの【支払】、資産に対応する【料率】は、次のようになります。
- 契約の【市場価格】は、デフォルトでは契約上の資産の市場価格の合計になります。
 - 契約の【支払】フィールドは、契約の【市場価格】に、契約に定義されている料率をかけた値になります。
 - 契約の【支払】は、指定した方法によって資産に配分されます。
 - 資産の【料率】は、前の手順で計算した資産の【市場価格】と資産の【支払】によって計算されます。資産の【市場価格】は、デフォルトでは資産の市場価格になります。

契約に資産を追加した場合

「リース明細」タイプの契約の場合

次の方法で使用中の資産を選択し、リース契約に追加します。

- 資産のテーブルから追加
- 契約の詳細画面の [資産 (リース)] タブページから追加

注意:

契約の詳細画面の [資産 (リース)] タブページを使って資産をリース契約に追加することをお奨めします。

次に、契約の詳細画面の [賃貸料] タブページ / [賃貸料_x] サブタブページ / [賃貸料の比例配分] フィールドで [選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦] オプションを選択した場合に、資産を追加した契約の [資産総額] と契約賃貸料_xに及ぼす影響について説明します。

契約の [資産総額] への影響

リース契約に資産を追加すると、契約の [資産総額] に、追加した資産の市場価格が自動的に加算されます。

契約賃貸料_xの [市場価格] と [支払] への影響

資産を追加すると、表示される中間ウィンドウで次の情報を指定する必要があります。

- 資産のリース期間の開始日と終了日
- 資産の賃貸料

資産を追加した結果は、この中間ウィンドウで指定した内容によって変わります。

選択資産に配賦済みの既存の賃貸料_xを選択しない場合

追加する資産は配賦対象資産に加えられないため、次のようになります。

- 契約賃貸料_xの [市場価格] は変わりません。
- 資産賃貸料_xの [支払] フィールドは計算されません。
- 契約賃貸料_xの [支払] フィールドは変わりません。

選択資産に配賦済みの賃貸料xを選択し、追加する資産のリース期間を賃貸料xの有効期間と同じにした場合

追加する資産は、選択した賃貸料xと同じ選択資産の一部になり、契約賃貸料の配賦対象資産となります。

- 1 契約に追加した資産の【支払】xを計算しても、同じ契約に含まれる既存の資産の賃貸料支払額は変わらないものと仮定します。

$$\text{追加資産の賃貸料} = \text{契約上の他の資産の賃貸料} \times \frac{\text{追加資産の比例配分値}}{\text{他の資産の比例配分値}}$$

- 2 契約の【支払】フィールドの値には、追加した資産の賃貸料（【支払】フィールドの値）の金額が加算されます。
- 3 契約賃貸料xの【料率】は変更されません。
- 4 契約賃貸料xの計算の基準値となる【市場価格】は次のように変更されます。

$$\text{新しい市場価格} = \frac{\text{新しい契約賃貸料}}{\text{料率}}$$

選択資産に配賦済みの賃貸料xを選択し、賃貸料xの有効期間と異なるリース期間を設定する

契約の【賃貸料】タブページに新しい賃貸料のサブタブページが作成されます。次に示す【賃貸料x】のサブタブページのデータが、新しいサブタブページにコピーされます。

- 料率（【料率】フィールドの値）
 - 【税額】（SQL名：mTaxValue）フィールドの値（税金の計算式が指定されている場合）
 - 【回数】（SQL名：sePeriodicity）
 - 「主賃貸料」属性の賃貸料支払
 - 【賃貸料の配賦】セクションの情報
 - 【スケジュール】セクションの情報
 - 【比例配分方法】（SQL名：ProrateField）フィールドと【四捨五入】（SQL名：fPrecision）フィールドの値
 - 【受領承認日】（SQL名：bFromAcceptDate）オプションのオン/オフ
- 新しいサブタブページのその他のフィールドは、次のようになります。
- 新しい賃貸料の【市場価格】は、デフォルトで資産の市場価格になります。

- 新しい賃貸料の【支払】フィールドの金額は、その他の配賦対象資産の賃貸料xの金額と2つのそれぞれの比例配分値を使って計算します。

$$\text{追加資産の賃貸料} = \text{契約上の他の資産の賃貸料} \times \frac{\text{追加資産の比例配分値}}{\text{他の資産の比例配分値}}$$

- 賃貸料xの【税額】（SQL名：mTaxValue）フィールドが固定値の場合は、新しい賃貸料の税金は新しい賃貸料と同じ方法で計算されます。
- 新しい賃貸料の有効日と失効日は、追加する資産のリースの開始日と終了日です。
- 新しい賃貸料は、選択した資産に配分されます。追加した資産は、配賦対象の資産として選択した資産の一部になります。

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページの【賃貸料x】サブタブページは変更されません。

その他のタイプの契約の場合

最初に選択した配賦対象資産でない資産を追加した場合は、次のようになります。

- 契約の【支払】フィールドは変わりません。
- 契約賃貸料の【市場価格】は変わりません。
- 資産に対応する【支払】フィールドは計算されません。

契約から資産を削除した場合

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料x】サブタブページ / 【賃貸料の比例配分】フィールドで【選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦】オプションを選択した場合に、資産を削除した契約の【市場価格】と契約賃貸料xに及ぼす影響は以下の通りです。

「リース明細」タイプの契約の場合

契約の【資産総額】（SQL名：mMarketVal）への影響

資産をリース契約から削除すると、契約の【資産総額】（SQL名：mMarketVal）から、外した資産の市場価格が自動的に差し引かれます。

契約賃貸料の [市場価格] と「賃貸料x」の [支払] への影響

削除した資産が賃貸料の配賦対象資産の一部の場合

削除した資産の賃貸料xの金額（ [支払] フィールド ）が計算されなくなります。

その結果、契約賃貸料の金額は、契約に含まれる全資産の賃貸料の合計から、削除した資産の賃貸料の合計金額が差し引かれたものです。

契約賃貸料の [市場価格] は、次のように再計算されます。

$$\text{新しい市場価格} = \frac{\text{新しい契約賃貸料}}{\text{料率}}$$

削除した資産が賃貸料の配賦対象資産でない場合

契約賃貸料の [市場価格] も賃貸料の金額も変わりません。

その他のタイプの契約

削除した資産が賃貸料の配賦対象資産の一部の場合

AssetCenter Serverが賃貸料の見積を自動的に再計算するので、削除した資産の賃貸料は計算されなくなります。

その結果、次のようになります。

- 契約賃貸料の [支払] フィールドの値は、契約に含まれる全資産の賃貸料の合計から、削除した資産の賃貸料の合計金額を差し引いたものです。
- 契約賃貸料xの [市場価格] が再計算されます。

$$\text{新しい市場価格} = \frac{\text{新しい契約賃貸料}}{\text{料率}}$$

削除した資産が賃貸料の配賦対象資産でない場合

契約賃貸料の [市場価格] も賃貸料の金額も変わりません。

方法3：契約賃貸料を計算し、契約上のすべての資産に1件当りの賃貸料を配賦する

ここでは、契約賃貸料を計算し、契約上のすべての資産に1件当りの賃貸料を配賦する手順を説明します。契約で定義した1件当りの賃貸料が自動的に配賦されることを除けば、この方法は【すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦】の方法と同様に機能します。

内容は次の通りです。

- 計算される値
- 契約に資産を追加した場合
- 契約から資産を削除した場合

この方法は、【賃貸料の比例配分】フィールド（契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ内）で【すべての資産に1件当りの賃貸料を配賦】オプションが選択されている場合にのみ適用されます。

計算される値

この方法では、1件当りの賃貸料を定義しておく必要があります（契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【1件当りの賃貸料】フィールドで指定）。

次の計算が行われます。

- 契約賃貸料

$$\text{契約賃貸料} = \text{1件当りの賃貸料} \times \text{契約上の資産数}$$

- 資産ごとの賃貸料
資産ごとの賃貸料 = 1件当りの賃貸料
- 契約上の資産の料率

$$\text{料率} = \frac{\text{資産ごとの賃貸料}}{\text{契約賃貸料の計算基準値}}$$

または

$$\text{料率} = \frac{\text{1件当りの賃貸料}}{\text{契約賃貸料の計算基準値}}$$

契約に資産を追加した場合

契約に資産を追加した場合の結果は、**[すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦]**の方法と同様です。その節を参照してください。

契約から資産を削除した場合

契約から資産を削除した場合の結果は、**[すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦]**の方法と同様です。その節を参照してください。

方法4：契約賃貸料を計算し、契約上の一部の資産に1件当りの賃貸料を配賦する

ここでは、契約賃貸料を計算し、契約上の一部の資産を選択し、その資産に1件当りの賃貸料を配賦する手順を説明します。契約で定義した1件当りの賃貸料が自動的に配賦されることを除けば、この方法は**[選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦]**の方法と同様に機能します。

内容は次の通りです。

- 計算される値
- 契約に資産を追加した場合
- 契約から資産を削除した場合

この方法は、**[賃貸料の比例配分]**フィールド（契約の詳細画面の**[賃貸料]**タブページ/**[賃貸料]**サブタブページ）で**[選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦]**オプションが選択されている場合にのみ適用されます。

計算される値

この方法では、1件当りの賃貸料を定義しておく必要があります（契約の詳細画面の**[賃貸料]**タブページ/**[1件当りの賃貸料]**フィールドで指定）。

次の計算が行われます。

- 契約賃貸料

$$\text{契約賃貸料} = 1\text{件当りの賃貸料} \times \text{契約上の選択した資産数}$$

- 資産ごとの賃貸料

- 資産ごとの賃貸料= 1件当りの賃貸料
- 選択した資産の料率

$$\text{料率} = \frac{\text{資産ごとの賃貸料}}{\text{契約賃貸料の計算基準値}}$$

または

$$\text{料率} = \frac{\text{1件当りの賃貸料}}{\text{契約賃貸料の計算基準値}}$$

重要項目:

選択した資産以外の賃貸料はゼロになります。

契約に資産を追加した場合

契約に資産を追加した場合の結果は、[**選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦**]の方法と同様です。その節を参照してください。

契約から資産を削除した場合

契約から資産を削除した場合の結果は、[**選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦**]の方法と同様です。その節を参照してください。

方法5：契約賃貸料を計算し、契約上の資産に配賦も配分もしない

ここでは、契約賃貸料を計算し、資産に配分しない場合の手順について説明します。

内容は次の通りです。

- 契約賃貸料を計算する
- 契約に資産を追加した場合
- 契約から資産を削除した場合

この方法は、**【賃貸料の比例配分】**フィールド（契約の詳細画面の**【賃貸料】**タブページ/**【賃貸料】**サブタブページ）で**【資産に賃貸料を配分または配賦しない】**オプションが選択されている場合にのみ適用されます。

契約賃貸料を計算する

契約賃貸料は、次に示すように賃貸料の計算基準値となる**【市場価格】**（SQL名：mValue）に**料率**をかけて計算します。

- 一般に、**【料率】**（SQL名：pLRF）は契約上の資産のタイプによって変わります。
- 賃貸料の**【市場価格】**は、デフォルトでは契約上の資産の市場価格（資産の詳細画面の**【取得】**タブページ/**【調達】**サブタブページ/**【市場価格】**（SQL名：mMarketVal）フィールド）の合計になります。



注意:

【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで**【資産に賃貸料を配分または配賦しない】**オプションを選択すると、契約上の資産ごとの賃貸料については計算されません。

契約に資産を追加した場合

「リース明細」タイプの契約の場合

次の方法で使用中の資産を選択し、リース契約に追加します。

- 資産のテーブルから追加
- 契約の詳細画面の**【資産（リース）】**タブページから追加

契約の詳細画面の**【賃貸料】**タブページ/**【賃貸料x】**サブタブページ/**【賃貸料の比例配分】**（SQL名：seProrateRule）フィールドで**【資産に賃貸料を配分または配賦しない】**オプションを選択した場合に、資産を追加したときの契約の**【資産総額】**（SQL名：mMarketVal）と契約の賃貸料xの**【支払】**フィールドに及ぼす影響は以下の通りです。

契約の**【資産総額】**への影響

リース契約に資産を追加すると、契約の**【資産総額】**に、追加した資産の市場価格が自動的に加算されます。

契約賃貸料xの [市場価格] と [支払] への影響

賃貸料xを資産に配分しないので、次のようになります。

- 契約賃貸料xの [市場価格] は変わりません。
- 資産賃貸料xの [支払] フィールドは計算されません。
- 契約賃貸料xの [支払] フィールドは変わりません。

その他のタイプの契約の場合

賃貸料xを資産に配分しないので、次のようになります。

- 契約の [支払] フィールドは変わりません。
- 契約賃貸料の [市場価格] は変わりません。
- 資産に対応する [支払] フィールドは計算されません。

契約から資産を削除した場合

「リース明細」タイプの契約の場合

契約の詳細画面の [賃貸料] タブページ / [賃貸料x] サブタブページ / [賃貸料の比例配分] (SQL名: seProrateRule) フィールドで [資産に賃貸料を配分または配賦しない] オプションを選択した場合に、資産を契約から削除したときの契約の [資産総額] (SQL名: mMarketVal) と契約賃貸料xの [支払] フィールドに及ぼす影響は以下の通りです。

契約の [資産総額] (SQL名: mMarketVal) への影響

資産をリース契約から削除すると、契約の [資産総額] (SQL名: mMarketVal) から、外した資産の市場価格が自動的に差し引かれます。

契約賃貸料xの [市場価格] と賃貸料xの [支払] フィールドへの影響

「賃貸料x」を資産に配分しないので、次のようになります。

- 契約賃貸料xの [市場価格] から、削除した資産の価格が差し引かれることはありません。
- 契約賃貸料xの [支払] フィールドは変わりません。

その他のタイプの契約

賃貸料を資産に配分しないので、次のようになります。

- 契約の [支払] フィールドは変わりません。
- 契約賃貸料の [市場価格] は変わりません。
- 資産に対応する [支払] フィールドは計算されません。

計算方法を選択する

賃貸料を契約上のすべての資産に配分するオプション

資産賃貸料を計算すると、次の結果が得られます。

- AssetCenter Serverは、資産ごとに賃貸料と経費明細を作成します。
- 資産を契約に追加するたびに、契約賃貸料の [市場価格] (SQL名:mValue) と [支払] フィールドの値が増えます。

この比例配分のオプションは、基本的に契約よりも資産を重視しています。このオプションを選択すると、コストを正確に分析したり、資産に関する変更（追加、取り外し、返却など）を契約に反映させることができるため、契約の厳密な財務管理が可能になります。

このオプションは、通常、リースで取得したIT資産を処理する場合に適しています。

賃貸料を契約上の一部の資産に配分するオプション

- このオプションでは、選択した資産ごとに異なる料率を適用できます。
リース契約の場合、借主はこの方法を使って複数のリース賃貸料を作成し、それぞれを選択した資産ごとに配分できます。このオプションを使うと、特定のメーカーの資産には特定の料率で計算する賃貸料を設定し、料率の異なる別のメーカーの資産には別の賃貸料を設定することができます。
- さらに、契約賃貸料を契約上の主資産と見なされる資産だけに配分し、その他の資産には配分しないことを選択できます。
例えば、PCの保守に関連する賃貸料をハードドライブだけに配分し、ディスプレイには配分しないようにすることができます。

賃貸料を資産に配分しないオプション

この方法を選択すると、次のようになります。

- 資産を契約に追加しても、契約賃貸料の [市場価格] も [支払] フィールドも変更されません。
- 資産の返却の場合も同様です。

資産に関する変更によってそれほど大きく影響されない契約（定額の保険料など）を処理する場合は、資産ごとの賃貸料の計算は不要になります

次のような場合にも、賃貸料を資産に配分しないオプションを選択します。

- 時間とディスク容量を節約する場合。
- 資産の詳細を考慮せずに、契約内容を検討する場合。

このオプションを選択した場合は、資産を取り外したり除却したりしたときに契約賃貸料の **[市場価格]** を変更する必要があります。

6 | リース - 経費

次のように、契約に関連するすべてのコストについて、経費明細が作成されます。

- 定期的な賃貸料
- リース契約の初回金と一時金
- ローン
- 諸経費
- その他

AssetCenter Serverによる定期的な経費の作成

ここでは、AssetCenter Serverが契約に関連する経費明細をどのように作成するかについて説明します。

内容は次の通りです。

- AssetCenter Serverを起動する
- AssetCenter Serverの設定
- 定期的な賃貸料にリンクした経費明細の作成

契約の定期的な賃貸料の支払とローンに関連するコスト（経費）は、モニタプログラムであるAssetCenter Serverによって自動的に作成されます。その他のコス

ト（一時金、手数料など）はAssetCenter Serverではなく、AssetCenterが変更に応じて自動的に計算します

AssetCenter Serverを起動する

AssetCenter Serverは、次の方法で起動します。

【ファイル/接続】メニューを使ってデータベースに接続します。

AssetCenter Serverの設定

AssetCenter Serverの【ツール/モジュールの設定】メニューを選択し、「賃貸料の計算」モジュールで次のオプションを定義します。

- 契約賃貸料と資産賃貸料の経費明細の作成に関連する特定のパラメータ
- 更新頻度

概要

AssetCenter Serverは、経費明細の作成が必要かどうかを定期的に検証します。必要な場合は経費明細を作成します。

定期的な賃貸料に関連する経費明細のチェックと作成が終了すると、AssetCenter Serverは最新の経費明細（過去または現在）の日付を【計算開始日】（SQL名：dRecalcul）フィールドに入力します。

- 契約賃貸料を資産に配分する場合は、資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ / 【計算開始日】フィールドを変更します。
- 契約賃貸料を資産に配分しない場合は、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ / 【計算開始日】フィールドを変更します。

ただし、1つ1つの経費明細を作成するたびに再計算を行うわけではありません。

- 定期的な賃貸料に関連する経費明細の見積は、必ず再計算されます。
- 各賃貸料に固有の【計算開始日】フィールドは、定期的に支払う賃貸料の経費明細が最後に再計算された日付を表します。

借主は、【計算開始日】フィールドを直接編集し、見積られた経費明細以外の再計算日を直接変更できます。これにより、税率が変更された場合などに不適切な経費明細を再計算することができます。

作成パラメータ

AssetCenter Serverの [モジュール] タブページの [ユーザデータ項目] フィールドでは、賃貸料の作成パラメータを設定します。このフィールドのシンタックスは次の通りです。

```
<Duration>d
```

Durationには、賃貸料の見積を計算する日数を設定します。例えば、90日間の賃貸料を計算するには、次のように入力します。

```
90d
```

注意:

トランザクションごとの賃貸料の最大計算回数は、Amsrv.ini設定ファイルのmaxRentPerTransエントリで指定します。

賃貸料の見積

AssetCenter Serverの [モジュール] タブページの [ユーザデータ項目] フィールドには、支払う賃貸料の見積を計算する日数を指定できます。

AssetCenter Serverは、指定した期間内で賃貸料を見積り、経費明細を作成します。作成しない場合は、単にこのフィールドを「0」に設定してください。

例

次の内容を設定することにします。

- 契約は、2001年7月1日から2003年7月1日まで有効です。
- 賃貸料は、月1回、月初めに支払います。
- AssetCenter Serverでは、賃貸料の支払を2ヶ月ごとに検証し、向こう12ヶ月に支払う見積賃貸料を作成します。

AssetCenter Serverを2002年7月1日に初めて起動した場合、次のデータが作成されます。

- 2001年7月1日から2002年6月1日までの過去の賃貸料
- 2002年7月1日現在の賃貸料
- 2002年8月1日から2003年7月1日までの賃貸料の見積

計算が終ると、[計算開始日] フィールドには見積った経費明細の日付ではなく現在の経費明細の日付、つまり2002年7月1日が表示されます。

AssetCenter Serverはバックグラウンドで動作します。AssetCenter Serverは、2ヶ月後の2002年9月1日に次のデータを作成します。

- 2002年10月1日から2003年9月1日までの賃貸料の見積
- 支払日が【計算開始日】フィールドの日付より前または現在の賃貸料、つまり、2002年8月1日から2002年9月1日までの賃貸料

定期的な賃貸料にリンクした経費明細の作成

資産に配分しない契約賃貸料

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ / 【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで賃貸料を資産に配分しないオプションが設定されている場合、AssetCenter Serverは、AssetCenter Serverで指定されている特定の期間について、賃貸期間中の契約上のすべての資産につき、1件の経費明細を作成します。

この経費明細は、契約賃貸料（税抜き）と、その契約にかかる税金の合計です。経費明細の日付は、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページにある【賃貸料】（SQL名：CntrRntExpLins）フィールドと【支払期日】（SQL名：tsBillCycDay）フィールドに指定した賃貸料支払日によって決まります。作成された経費明細はその契約にリンクされます。

契約賃貸料の経費明細は、資産ごとの詳細画面には表示されません。

【賃貸料】タブページ / 【賃貸料】サブタブページでは、コストカテゴリがコストセンタに割り当てる経費明細を分類します。

すべての資産または選択した資産に配分する契約賃貸料

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ / 【賃貸料の比例配分】（SQL名：seProrateRule）フィールドで、賃貸料をすべての資産（または選択した資産）に配分するオプションを指定すると、AssetCenter Serverは、AssetCenter Serverで設定した特定の期間について、賃貸期間内の契約上の資産ごと（または選択した資産ごと）に1件の経費明細を作成します。

各経費明細は、資産の賃貸料（税抜き）（資産の詳細画面の【取得】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ / 【支払】（SQL名：mPayments）フィールドの値）と税金の合計です。

作成された経費明細は、資産（【取得】タブページ / 【賃貸料】サブタブページ）のコストカテゴリとコストセンタにより分類されます。デフォルトでは、これらのフィールドの値は、資産の詳細画面の【取得】タブページ上部に表示される【コストカテゴリ】（SQL名：CostCategory）フィールドと【コストセンタ】（SQL名：CostCenter）フィールドからコピーされます。

経費明細は、資産と契約の両方（**【コスト】**タブページ）で参照できます。これらは、もちろんAssetCenterデータベース内に重複して存在するわけではありません。

コストセンタを変更する

資産ごとの賃貸料または契約賃貸料を割り当てるコストセンタを変更しても、過去の賃貸料のコストセンタは変わりません。

過去の賃貸料に新しい予算とコストセンタを割り当てるには、単に**【賃貸料】**サブタブページの**【計算開始日】**（SQL名：dRecalcul）フィールドに適切な日付を入力するだけです。

例

現在の日付は2002年12月25日です。資産の「RRR」賃貸料が2002年11月1日からコストセンタ「CCC」に切り替わるので、資産の「RRR賃貸料」サブタブページの**【コストセンタ】**（SQL名：CostCenter）フィールドを変更する必要があります。AssetCenter Serverで2002年11月と2002年12月の「RRR」賃貸料をコストセンタ「CCC」に割り当てるには、単に資産の詳細画面の「RRR賃貸料」サブタブページの**【計算開始日】**（SQL名：dRecalcul）フィールドに2002年11月1日と入力します。

契約に関連する経費を表示する

契約の詳細画面の**【コスト】**タブページには、契約に関連する次の経費明細が表示されます。

- AssetCenter Serverに設定した期間について作成された定期的な賃貸料にリンクする経費明細。賃貸期間中の契約上の各資産の経費明細または契約上の一部の資産の経費明細、または契約上のすべての資産に対して作成された1件の経費明細の場合があります。初めの2つの経費明細には、資産の賃貸料サブタブページで定義したコストセンタが割り当てられます。3番目の経費明細には、契約の賃貸料サブタブページで定義したコストセンタが割り当てられます。
- 初回金にリンクする経費明細。リース契約の場合は次のように表示されません。
 - 初回金は、一時金の支払に相当します。
 - 契約上の各資産の経費明細（資産の詳細画面の**【取得】**タブページ/**【価格と条件】**サブタブページ/**【初回金】**（SQL名：mIntPay）フィールドの値）または契約上の一部の資産ごとの経費明細、または契約上のすべての資産に対して作成された1件の経費明細（契約の詳細画面の**【全般】**タブページ/**【初回金】**フィールドの値）の場合があります。初めの2つの経費明細には、資産の詳細画面の**【取得】**タブページ上部で定義した

コストセンタが割り当てられます。3番目の経費明細には、契約の【全般】タブページで定義したコストセンタが割り当てられます。

- ローンの支払にリンクした経費明細。契約上の各資産の支払明細または契約上の一部の各資産の支払明細、または契約上のすべての資産に対して作成された1件の支払明細の場合があります。初めの2つの経費明細には、資産の詳細画面の【取得】タブページ上部で定義したコストセンタが割り当てられます。3番目の経費明細には、契約の詳細画面の【ローン】タブページ/ローンサブタブページで定義したコストセンタが割り当てられます。
- 各種手数料の経費明細（法的な手数料など）。この種類の経費明細は手動で作成します。作成した経費明細には、契約の詳細画面の【全般】タブページで定義したコストセンタが割り当てられます。

期間を指定するフィルタ

経費明細のリストで【開始】フィールドと【終了】フィールドを使って期間のフィルタを適用し、特定の期間の経費明細だけを表示することができます。例えば、現在の会計期間だけの経費明細だけを選択できます。このフィルタは、AssetCenterを終了して再起動した場合も有効です。

7 | アプリケーションサービス

アプリケーションサービスとは、外部事業者（アプリケーションサービスプロバイダ、ASP）が企業にITアプリケーションの使用を提供するサービスです。ASPIは定期利用契約を結んで、ユーザ企業にアプリケーション利用のサービスを提供します。企業の従業員は、通信プロトコル（インターネット、X-25など）を使ってアプリケーションにアクセスします。例：従業員は、各自のコンピュータにインストールされたWebインタフェースを使って、InternetまたはIntranet経由で個人のアカウトを使用してアプリケーションにアクセスします。

企業内でローカルでインストールすると、アプリケーションのメンテナンスやアップグレードが必要ですが、アプリケーションサービスではその必要がなくなります。

アプリケーションサービスの例

企業内コミュニケーションの促進や情報の共有化を図る企業Aを例に挙げてみましょう。ASPIは、即時にA社のニーズに応えることができます。また、ASPIはA社のデータをセキュリティで保護するサービスも提供することができます。A社は契約内容を検討した後、アプリケーションサービスの定期利用契約を結びます。二社は、サービス料金、支払方法、ユーザカウトの管理方法などの関連情報を交換します。

AssetCenterへのアプリケーションサービスの導入

AssetCenterは、企業が使用するアプリケーションサービスに関するデータを保存、トラッキングすることができます。

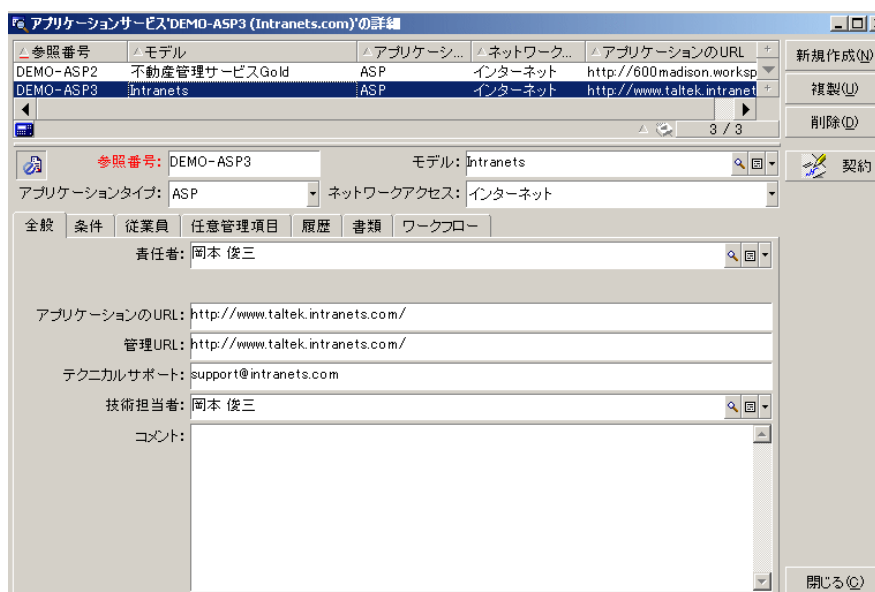
アプリケーションサービスの各レコードは、ライセンスタイプの契約に当たります。各契約はユーザアカウントと関連付けられており、ユーザはアカウント情報にアクセスできます。ASP契約は、[契約]のテーブルに含まれます。ASP契約を管理するには、[契約/アプリケーションサービス]メニューを選択します。

従業員は、ユーザアカウントの管理の核心情報なので、従業員の詳細画面に、[アプリケーションサービス]タブページが統合されています。これにより、アプリケーションサービスの画面を表示せずに、契約の使用状況の画面にアクセスできます。また、アプリケーションサービスに関するアクションが実行されたり、データベースのフィールド値が直接変更されたりすると、関連データも自動的に変更されます。

アプリケーションサービスの詳細画面

アプリケーションサービスの画面には、アプリケーションサービスに関する情報が含まれています。[契約/アプリケーションサービス]メニューでこの画面を表示します。

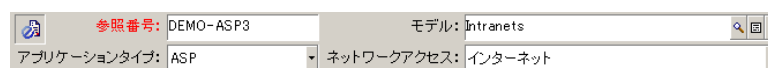
関連する情報を追加、参照、変更あるいは削除する場合には、この画面を使用します。



本節では、レコードリストおよび詳細画面について説明します。

基本情報

詳細画面の上部には、選択されたアプリケーションサービスのアイコンと4つのフィールドが常時表示されます。



- **【参照番号】** (SQL名: Ref) フィールドは、契約番号を指します。このフィールドは必須フィールドです。
- **【アプリケーションタイプ】** (SQL名: seASPTYPE) フィールドは、アプリケーションのタイプを示します。ドロップダウンリストから [ASP]、[イントラネット]、[その他] の内1つを選択します。
- **【モデル】** (SQL名: MModel) リンクは、提供されるアプリケーションの名前に当たります。このリンクはモデルのテーブルのレコードへ関連付けられています。

- **【ネットワークアクセス】**（SQL名：seASPAccessType）フィールドは、アプリケーションサービスで使用するアクセスのタイプを指します。ドロップダウンリストから**【インターネット】**、**【セキュリティで保護されたインターネット】**、**【その他】**の内1つを選択します。

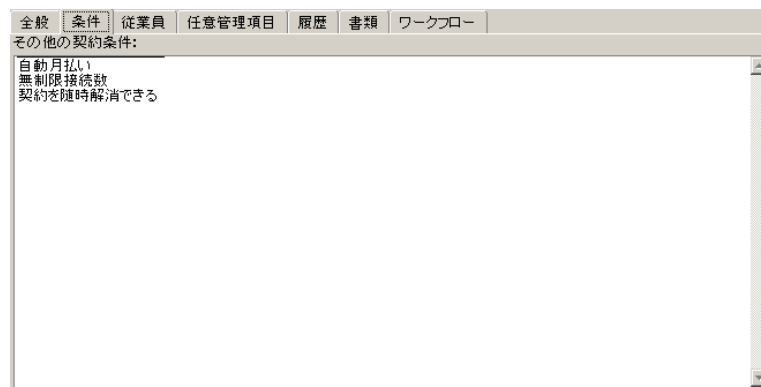
[全般] タブページ

このタブページには、選択したアプリケーションサービスに関する基本情報が表示されます。

- **【責任者】**（SQL名：Supervisor）は契約を担当している部署または従業員に当たります。このフィールドはリンクフィールドです。
- **【会社】**（SQL名：Company）はアプリケーションサービスプロバイダを指します。このフィールドはリンクフィールドです。
- **【アプリケーションのURL】**（SQL名：ASPConnectionURL）フィールドは、アプリケーションへの接続アドレスを指します。
- **【管理URL】**（SQL名：ASPUserRegURL）フィールドでは、ユーザアカウントの管理アドレスを指定します。アプリケーションのURLと管理URLが同一である場合もあります。
- **【テクニカルサポート】**（SQL名：ASPEmail）フィールドでは、アプリケーションのテクニカルサポートの連絡先（電子メール、URL等）を指定します。
- **【技術担当者】**（SQL名：TechCnct）はアプリケーションサービスの社内での技術担当者をに当たります。このフィールドはリンクフィールドです。
- **【コメント】**（SQL名：Comment）フィールドには、アプリケーションサービスに関するコメントを入力します。

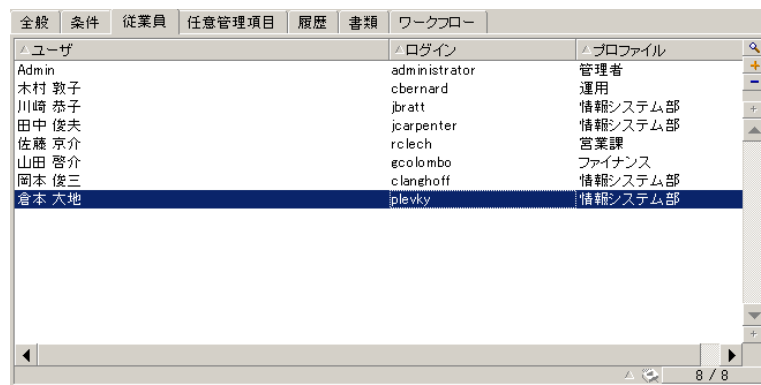
[条件] タブページ

このタブには、契約に含まれるその他の契約条件を入力します。



[従業員] タブページ

このタブページには、選択したアプリケーションサービスのユーザのリストが含まれています。



リストの列見出しは次の通りです。

- **[ユーザ]** : アプリケーションサービスの使用を許可されている従業員
- **[ログイン]** : アプリケーションサービスへの接続の際にユーザを識別するための名前

- **【プロフィール】**：アプリケーションサービスの使用時にユーザが所有する権限を識別する情報
- ☒ をクリックすると、従業員に関連付けられている契約の使用状況の詳細が表示されます。

契約の使用状況の詳細画面

大多数の詳細画面と同様に、下記の情報が画面上部に表示されます。

- **【ユーザ】**（SQL名：User）リンクは、アプリケーションサービスの使用を許可されている従業員を指します。
- **【契約】**（SQL名：Contract）リンクは、契約の参照番号および目的を指します。このリンクは読み取り専用です。
- **【タイプ】**（SQL名：seType）フィールドには、契約のタイプを入力します。

【全般】 タブページには、選択した従業員のライセンス使用状況に関する基本情報が含まれています。

【フィールド1】（SQL名：Field1）フィールドは、カスタマイズ可能なユーザ定義フィールドです。ライセンスの使用状況に関する全情報を入力できます。情報のタイプに応じてフィールド名を変更します。

【開始】（SQL名：dStart）フィールドと**【満了予定日】**（SQL名：dPlannedEnd）フィールドで、アプリケーションサービスのユーザアカウントの有効期限を指定します。

以下の2つのフィールドで、ライセンスの対象となるソフトウェアの使用権利を制限します。**【権限】**（SQL名：seAuthorization）フィールドでは、契約上でユーザに権限が与えられているかどうかを指定します。ドロップダウンリストの3つのシステムリストデータ値（**【権限あり】**、**【権限なし】**、**【不明】**）が


ら値を選択できます。ユーザ権利が指定されていない場合は、**【不明】**がデフォルトで選択されます。**【利用数】**（SQL名：IUseCount）フィールドでは、ユーザに割り当てられた契約利用数を入力します。

タブページの下半分の**【ユーザアカウント】**枠内には、ユーザアカウントの管理に必要な情報が含まれています。

- **【ログイン】**（SQL名：ASPLogin）フィールドでは、アプリケーションサービスへの接続時にユーザを識別するためのログインを指定します。
- **【プロフィール】**（SQL名：Profile）フィールドでは、ユーザに与えられたプロフィール名を指定します。ドロップダウンリストから値を選択できます。
- **【ステータス】**（SQL名：seStatus）フィールドには、ASPアカウントにオンラインで変更を加えるごとに通知されるユーザアカウントのステータスが入力されます。**【更新済】**、**【未更新】**、**【未作成】**の3つの値がドロップダウンリストにあります。このフィールドはAssetCenterにより自動管理されているため、読み取り専用です。

【契約】ボタン

アプリケーションサービスの詳細画面が表示されている時に画面右に現れる

 ボタンで、契約の画面へショートカットできます。クリックすると、選択したアプリケーションサービスの詳細画面が表示されます。このボタンで契約管理の機能にアクセスできます。

アプリケーションサービス管理用のワークフローのアクション

アプリケーションサービスの詳細画面を用いると、ユーザアカウントを効率良く管理できます。各アプリケーションサービスの関連情報を、画面を使ってAssetCenterデータベースに追加していきます。状況に応じて（新しいサービス、新規ユーザ等）情報量は変化します。アプリケーションサービスの画面、契約の画面、従業員の画面、契約の使用状況の画面は、それぞれリンクされたテーブルです。これらのテーブルに変更があった場合は、アプリケーションサービスの管理用Webサイトにも変更を加える必要があります。

以下に説明されているアクションを使用すると、アプリケーションサービスの管理上頻繁に行われる業務を簡単に実行することができます。また、ウィザードを使って業務を段階的に処理することで、データベースのデータの一貫性を確保できます。

デモ用データベースの例の1つである「Intranets.com」は、社内コミュニケーションを管理するアプリケーションサービスです。以下の例では、「Intranets.com」に複数のアクションおよび「ユーザアカウントの管理」ワークフローが関連付けられます。

 **注意:**

本章で定義されているワークフローまたはアクションを使用するには、AssetCenterの**専門分野データ**をインポートする必要があります。

このアプリケーションサービスの管理アクション

この状況依存アクションを使うと、アプリケーションサービスの管理サイトにアクセスし、ユーザアカウントを管理することができます（アカウントの作成、権利の変更、プロフィール、削除等）。アドレスは、**[全般]**タブページの**[管理URL]**（SQL名：ASPUserRegURL）フィールドで指定されています。接続するには、従業員のテーブル（例：アプリケーションサービスの画面の**[従業員]**タブページ）で**[アクション/このアプリケーションサービスの管理]**ポップアップメニューを選択します。Webブラウザはアプリケーションサービスの管理ページを表示します。

アプリケーションサービスに接続アクション

契約の使用状況のテーブル（画面自体またはアプリケーションサービスの**[従業員]**タブページ）で、**[アクション/アプリケーションサービスに接続]**ポップアップメニューを選択します。**[全般]**タブページの**[アプリケーションサービスのURL]**（SQL名：ASPConnectionURL）フィールドに入力されている値に応じて、AssetCenterはWebブラウザを起動し、アプリケーションサービス「Intranets.com」の接続ページを表示します。この画面でID情報を入力してからログオンします。

テクニカルサポートに電子メールを送信アクション

[従業員]タブページが選択されていない場合は、**[アクション/テクニカルサポートに電子メールを送信]**ポップアップメニューを選択します。**[全般]**タブページの**[テクニカルサポート]**（SQL名：ASPEMail）フィールドの値に応じて、AssetCenterは電子メールクライアントを起動します。新しいメッセージには既にアドレスが入力されているため、メッセージを書けばすぐに送信できます。

ユーザアカウントの管理ワークフロー

契約の使用状況の画面（アプリケーションサービス）を使うと、各ユーザはアカウントを作成または削除できます。

ユーザは、契約の使用状況の画面内の【ユーザアカウント】の枠内で、【ログイン】（SQL名: ASPLogin）フィールドと【プロフィール】（SQL名: Profile）フィールドの値を変更することもできます。

例えば、ユーザ「岡本 俊三」のユーザアカウントを変更するとします。

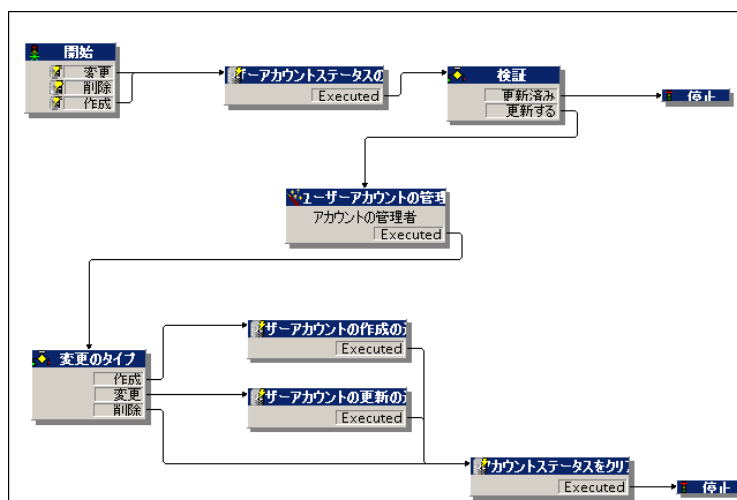
- 1 契約の使用状況の詳細画面で、【ログイン】（SQL名: ASPLogin）フィールドおよび/または【プロフィール】（SQL名: Profile）フィールドの値を変更します。
- 2 【変更】ボタンでこの変更を確定します。

AssetCenterが「ユーザアカウントの管理」ワークフローを開始します。

注意:

この標準ワークフローは、ユーザの各企業のニーズに合わせて変更することができます（ワークフローに関するマニュアルの説明を参照）。

図 7.1. ユーザアカウントの管理ワークフロー - 図

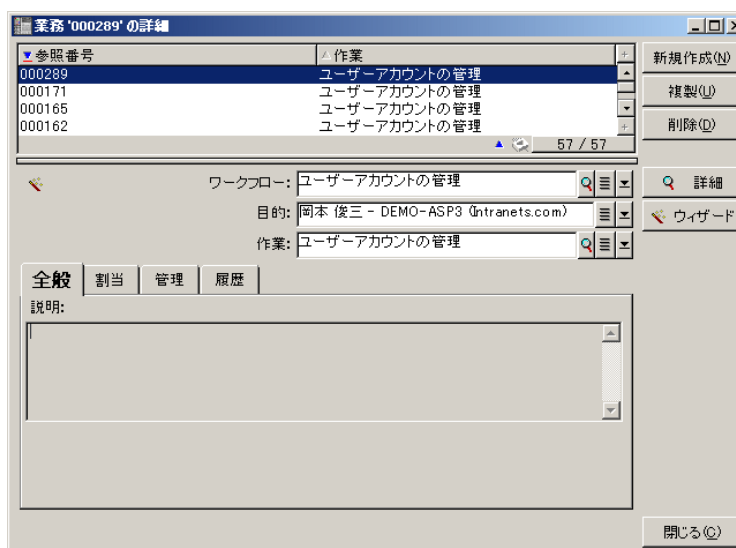


このワークフローにより、アプリケーションサービスで実際に管理されている設定とAssetCenterの情報との一貫性を保つことができます。

責任者による管理

アプリケーションサービスの責任者は、[ツール / 進行中のタスク] メニューを定期的にチェックする義務があります。更新の必要があるものは、リストに表示されます。これにより、AssetCenterのユーザアカウントの設定とアプリケーションサービスの設定を同一に保つことができます。まずワークフローにより、アプリケーションサービスの責任者に更新タスクが割り当てられます。次に、アプリケーションサービスの責任者は、アプリケーションサービスに接続してタスクを実行します。

[ツール / 進行中のタスク] メニューを選択します。

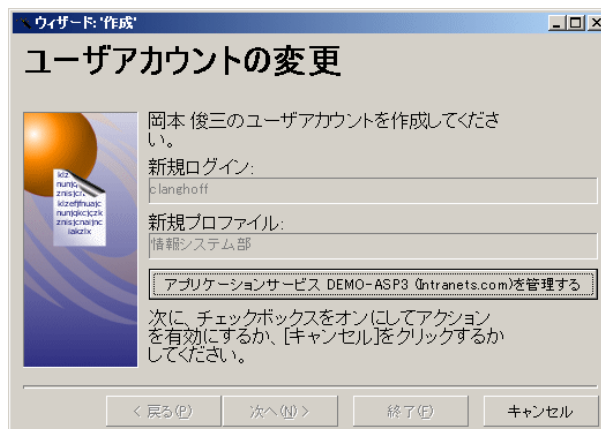


[ウィザード] ボタンをクリックして、選択されたタスクを実行します。これにより、ユーザ「岡本俊三」のユーザアカウント情報を「Intranets.com」で変更できます。

注意:

ウィザードが、アプリケーションサービスの管理サイトで実行する必要のあるタスクを表示します（例：ユーザアカウントの作成、変更、削除）。

[アプリケーションサービスを管理する] ボタンを選択します。



ウィザード:作成

ユーザアカウントの変更

岡本 俊三のユーザアカウントを作成してください。

新規ログイン:
clanghoff

新規プロファイル:
情報システム部

アプリケーションサービス DEMO-ASP3 (Intranets.com)を管理する

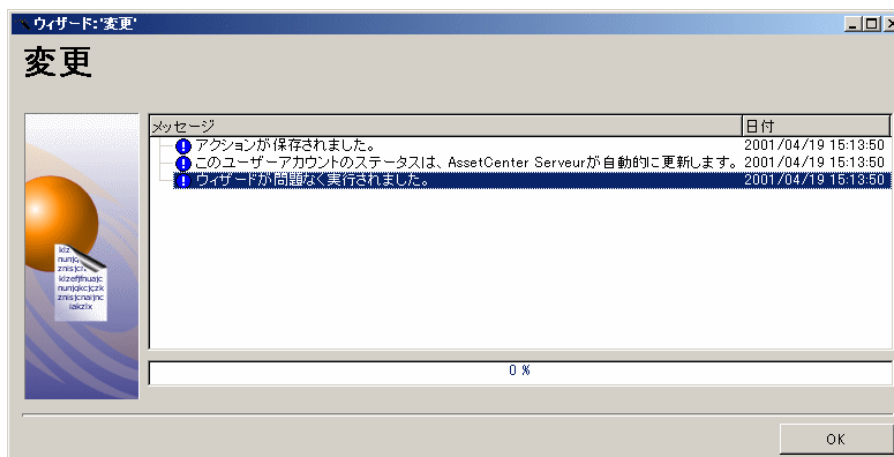
次に、チェックボックスをオンにしてアクションを有効にするか、[キャンセル]をクリックするかしてください。

< 戻る(B) 次へ(F) > 終了(F) キャンセル

Webブラウザが起動してアプリケーションサービスの管理サイトに接続します。このサイトでユーザアカウントを作成、変更または削除できます。

更新を実行したら管理サイトへの接続を解除し、更新内容を確定するために、ウィザードの画面の指示に従ってチェックボックスをオンにします。この例では、[ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドの値は [未作成] だったので、「アカウントが作成されました」と表示されます。

最後に、[終了] ボタンをクリックします。



ウィザード:変更

変更

メッセージ	日付
アクションが保存されました。	2001/04/19 15:13:50
このユーザアカウントのステータスは、AssetCenter Serveurが自動的に更新します。	2001/04/19 15:13:50
ウィザードが問題なく実行されました。	2001/04/19 15:13:50

0 %

OK

【ステータス】（SQL名：seStatus）フィールドの値が【未作成】から【更新済】に変わります。【詳細】ボタンをクリックして確認します。

【詳細】ボタンを使うと、契約の使用状況の画面へショートカットできます。この画面へは、アプリケーションサービスの画面の【従業員】タブページからもアクセスできます。ここでAssetCenter上でのユーザアカウントのステータスを確認します。

ワークフローが責任者により実行された更新をユーザに通知する

次に、アプリケーションサービスの管理サイトで行われた変更を通知する電子メールが送信されます。これにより、ユーザの接続に関する新情報が通知されます。

各ユーザは、自分の電子メールアドレスでこの種のメッセージを読むことができます。

ユーザアカウントのステータス

ワークフローの最終段階では、責任者は全てのタスクを完了しています。【ステータス】（SQL名：seStatus）フィールドの値が【更新済】になっている場合、このフィールド値は、AssetCenter上のユーザアカウントのステータスがアプリケーションサービス上のステータスと一致していることを意味します。

重要項目:

【更新済】が表示されず、【ログイン】（SQL名：ASPLogin）が空白でない場合は、アプリケーションサービスの【従業員】タブページまたは契約の使用状況の詳細画面で、直接ユーザを削除することはできません。

アカウントをトラッキングし、AssetCenterとアプリケーションサービスのデータが一致することを確認するためには、次の更新作業を行います。

- 1 【ユーザアカウント】枠内の【ログイン】（SQL名：ASPLogin）フィールドの値をクリアし、【変更】ボタンをクリックします。
- 2 タスクリスト（【ツール/進行中のタスク】メニュー）に更新タスクが表示されます。上記の通り、責任者はウィザードを使ってこのタスクを実行します。
- 3 チェックボックスをオンにして削除を確認し、ウィザードを終了します。これにより、AssetCenterのユーザアカウントとプロバイダの実際のアカウントのデータが一致していることを確認できます。

アプリケーションサービスの賃貸料計算ワークフロー

このワークフローは、各アプリケーションサービスの賃貸料を計算し、一定期間内の経費明細を編集します。アプリケーションサービスは「ライセンス」タイプの契約のため、契約の画面の【賃貸料】タブページにはワークフローの必須情報が含まれます。

アプリケーションサービスに適用される計算方法を選択するには、【賃貸料】タブページの【賃貸料の比例配分】（SQL名: seProrateRule）フィールドで、【すべての資産に1件あたりの賃貸料を配賦する】を選択します。賃貸料を計算する際、【1件あたりの賃貸料】（SQL名: mUnitPayments）フィールド値に、【詳細】（SQL名: Description）フィールドのAQLの値が掛けられます。

【契約賃貸料に応じて割当】チェックボックスをオンにすると、賃貸料は特定の【コストセンタ】（SQL名: CostCenter）に割り当てられ、【コストカテゴリ】（SQL名: CostCategory）に分類されます。チェックボックスがオフの場合、経費明細は自動的に配分されます。賃貸料の計算時と同様に、再計算、【主賃貸料】と【受領承認日】以外の【スケジュール】枠内のフィールドは、必ず計算に入れられます。このタブページの詳細については、依存状況ヘルプまたはマニュアルを参照して下さい。

The screenshot shows the 'Contract Users User' tab with the following fields and values:

- スケジュール**
 - 回数: 月1回
 - 契約期間: 2001/06/09
 - 支払: 先払い
 - 支払期日: 0日
 - 経費明細の計算開始日: 2001/10/09
- 税金**
 - 税金の計算:
 - 税区分: [検索]
 - 税率: 0%
 - 税額: 0
- 主賃貸料**
 - 主賃貸料
 - 受領承認日
 - 猶予: 0日
- 契約賃貸料に応じて割当**
 - 契約賃貸料に応じて割当
 - コストカテゴリ: 一般業務(2000年)
 - コストセンタ: IT
- 賃貸料の比例配分**
 - すべての資産に賃貸料を比例配分
 - 比例配分方法: 市場価格 (mMz)
 - 四捨五入: 0.01

【詳細】（SQL名: Description）は特別な機能を持つ必須フィールドです。このフィールドはアプリケーションサービスの賃貸料を識別し、必要な計算の基礎を固めます。

このフィールドの値はピリオドで区切られたリンク名のセットです（下記参照）。1つのリンクは2つのテーブル間の方向性を指定するため、このリンクのセットはAQLパスを構成します。このAQLパスでは、リンクの順序により、あるテーブルから別のテーブルへのパスが決定されます。契約の賃貸料を計算する場合、このパスは常に、【amContractRent】テーブルから始まり、この例では、【amContract】テーブルに向けられている【契約】リンクの一つを含みます。パスが数値フィールドで終わる場合は、その値に1件当りの賃貸料が掛けら

れ、賃貸料が計算されます。パスが数値フィールドで終わらない場合は、ユーザ数などの端末値が計算の基礎となります。

賃貸料の計算に必要な値へのパスを定義するには、テーブル間にどのようなリンクが構成されているかを知る必要があります。詳しくは、AssetCenter Database Administratorを参照してください。

また特別なシンタックスを用いると、「リンク」タイプの任意管理項目の逆リンクを使用できます。このリンクがパスで用いられると、原点となるテーブル名の前に、ピリオドの代わりに「-」がにつきます。よって「fv_test」という名前の任意管理項目は次のように表すことができます。

- [...]fv_test.[...] は、テーブルAからテーブルBへの「リンク」タイプの任意管理項目です。
- [...]fv_test.A.[...] は、テーブルAからテーブルBへの逆リンクです。

下記の図は、パスが逆任意管理項目リンクを示す【詳細】（SQL名:Description）の例です。最後の「fv_surface」リンクはこのリンクの値を指します。

8 | 用語解説（契約）

承認（Acceptance）

借主による資産受領の承認は、リース手続きの中できわめて重要な処理手続きであり、借主と貸主との間で契約書類（受領証書、英語でCertificate of Acceptanceと呼ばれます）が交換されます。

承認により、賃貸料の支払い義務が発生します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産（SQL名：amAsset）

料率

料率は、契約の賃貸料計算の計算式で使用されます。

契約賃貸料 = 契約賃貸料の値 × 料率

料率はリースする資産のタイプに応じて異なります。これは契約上で定義されます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (SQL名 : amAssetRent)

契約賃貸料 (SQL名 : amCntrRent)

一括発注

[一括発注]タイプの契約では、購入者は指定された期間内に指定された最小の金額分の製品を購入しなければなりません。

期限までに最小の金額に達しない場合は、購入者に罰則が課されます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約 (SQL名 : amContract)

契約

AssetCenterでは、取引先との間で締結された契約を管理できます。
1つの契約に複数の契約を関連付けることができます。

例

AssetCenterでは以下の種類の契約を管理できます。

- マスターリース
- リース明細
- メンテナンス
- 保険
- ライセンス
- 一括発注
- その他

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約 (SQL名 : amContract)

マスターリース (SQL名 : Master lease)

マスターリースでは、リースする資産に関する一般的な条項と条件、および貸主と借主の関係を定義します。

リース明細タイプの契約の作成の基準 (テンプレート) になります。

資産と賃貸料は、マスターリースでは定義しません。これらの情報については、個々のリース明細で詳しく定義します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約 (SQL名 : amContract)

リース明細 (Lease schedule)

リース明細は、マスターリースの内容を実際にリース物件に適用した明細です。

リース明細にはマスターリースの多くの情報が継承されるほか、物件のリスト、賃貸料および重要期日などが指定されます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約 (SQL名 : amContract)

ローン (Loan)

リース契約で資産を調達すると、資金のローンが必要な場合もあります。

AssetCenterではローンの詳細情報を入力し、返済 (元金、利子、手数料) を管理することができます。

関連用語

貸付業者 (Assignee)

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

ローン (SQL名 : amLoan)

支払期日

賃貸料の支払期日。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (SQL名 : amAssetRent)

契約賃貸料 (SQL名 : amCntrRent)

期間満了 (End of term)

期間満了時には、借主は通常、リース物件の購入、返却、更新などのオプションを選択することができます。

購入 (買い取り) (Purchase)

大多数の契約書には、借主が公正な市場価格でリース物件を購入できること、またはしなければならないことが明記されています。この価格は、この種のリース物件の通常市場価格に基づいて貸主と借主の間で決定します。

通知 (Notification)

大多数の契約書には、リース物件のリース終了時に選択するオプション (更新、返却、購入) を借主が貸主に前もって明白に通知することが義務付けられています。一般的に、貸主に事前の通知がない場合は、借主が追加の賃貸料を支払わなければなりません。

AssetCenterには、資産のリース期間が満了間近であることをユーザに知らせるアラーム機能があります。

借主は、契約満了日、返却の通知日、購入の通知日、更新の通知日などの、特定の日付に近づくとトリガされるアラームを作成できます。

中途解約 (Early termination)

リース期間中に、資産を他の業者に転売したり、資産の紛失、盗難、破損などの事故が発生したりすることがあります。この場合は、貸主に通知すると直ちに賃貸料の金額に修正が加えられます (損失価額の定義を参照してください)。

契約によっては、満了時より前にリース物件を返却できる場合もあります。これは、借主が貸主に通知した場合、または契約で定義されている日付に実行さ

れます。この場合、借主は中途解約手数料という違約金を支払う必要があります。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約 (SQL名 : amContract)

配賦

配賦は契約上資産の賃貸料の計算方法の1つです。

配賦を使用する場合、各資産の賃貸料用に同じ固定額を定義する必要があります。

反意語

比例配分

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (SQL名 : amAssetRent)

契約賃貸料 (SQL名 : amCntrRent)

利子

利子は、ローンの返済時に元金と手数料と共に返済額の一部を成します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

ローン (SQL名 : amLoan)

リース

リースには、長期レンタルや分割払い購入契約との類似点および相違点があります。

いずれの場合でも賃貸料を支払いますが、以下の相違点があります。

- リース：リース契約では賃貸料支払いと違約金を計算するために、支払期日を指定します。リース契約には色々な種類がありますが、いずれの場合でも企業が備品を所有することによって生じるコストを回避できます。リースは特に、新型製品発売のサイクルが短いIT関係の資産を管理する際に、解決策として使用されます。
- 長期レンタル：契約終了時に物件の買取オプションがないリース契約を指します。後述の分割払い購入契約にはこの買取オプションがあります。
- 分割払い購入：分割払いで物件を購入する契約で、借主は支払い中に物件を使用できます。

賃貸料 (Rent)

賃貸料は、支払額と支払期限や周期によって決まります。

複数の賃貸料が存在する場合、主賃貸料と副賃貸料を区別します。

AssetCenterでは、契約に関する賃貸料の総額、契約に関連する資産の賃貸料、および一時金を計算できます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (SQL名: amAssetRent)

契約賃貸料 (SQL名: amCntrRent)

一時金 (Interim rent)

一時金は、資産を受領して承認した日から、賃貸契約期間の第1回目の主賃貸料支払日までの期間を対象とします。

1つの契約が複数の賃貸料 (保険、レンタル、メンテナンスなど) に関連する場合もありますが、一時金は主賃貸料用에만存在します。

一時金の支払額は資産の受領承認日から計算します。

主賃貸料

複数の賃貸料が存在する場合、主賃貸料と副賃貸料を区別します。

リースタイプの契約に固有の一時金は、主賃貸料支払いにのみ適用されるため、リースでは主賃貸料の概念が重要になります。

ある賃貸料が契約上の主賃貸料である場合、この賃貸料は、この契約に関連する全資産の主賃貸料になります。

資産1件につき、主賃貸料の支払は1件だけです。

一方、契約単位では主賃貸料の支払が複数存在する場合があります。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (SQL名 : amAssetRent)

契約賃貸料 (SQL名 : amCntrRent)

通知

大多数の契約書には、リース物件のリース終了時に選択するオプション（更新、返却、購入）を、借主が貸主に前もって明白に通知することが条件付けられています。

一般的に、貸主に事前の通知がない場合、借主は追加の賃貸料を支払わなければなりません。

AssetCenterには、資産のリース期間が満了間近であることをユーザに知らせるアラーム機能があります。

借主は、契約満了日、返却の通知日、購入の通知日、更新の通知日などの、特定の日付に近づくとトリガされるアラームを作成できます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約 (SQL名 : amContract)

支払回数

賃貸料は、定期的な支払額と支払回数（周期）によって決まります。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (SQL名 : amAssetRent)

契約賃貸料 (SQL名 : amCntrRent)

貸付業者 (Assignee)

リース物件の貸主は、設備資金を調達する目的で、借主の金銭債務に対する権利を専門業者に譲渡することができます。

この業者は、通常貸付業者と呼ばれる金融業者です。

一般に借主は貸付業者にリース料を支払い、貸主は自分の契約義務を遂行します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約 (SQL名 : amContract)

比例配分

比例配分は契約上資産の賃貸料の計算方法の1つです。

比例配分モードを使用すると、**比例配分値**と呼ばれる参考値 (購入価格、賃貸料、市場価格など) に比例配分して賃貸料を計算できます。

例

比例配分による資産の賃貸料の計算式は以下の通りです。

$$\text{資産賃貸料} = \text{契約賃貸料} \times \frac{\text{資産1件の比例配分値}}{\sum \text{契約上の資産の比例配分値}}$$

反意語

配賦

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (SQL名 : amAssetRent)

契約賃貸料 (SQL名 : amCntrRent)

アプリケーションサービス

アプリケーションサービスとは、アプリケーションをローカルでインストールせずに企業内で使用できるようにするサービスです。

アプリケーションは、アプリケーションサービスプロバイダ（ASP、Application Service Provider）と呼ばれる外部の会社にホストされます。

ASPはソフトウェア会社とユーザ間の仲介役をなし、定期利用契約を結んでユーザにアプリケーション利用のサービスを提供します。

オンラインでアプリケーションを使用することにより、アプリケーションのメンテナンスとアップグレードを自動化できます。

ユーザはインターネットまたはイントラネット経由でアプリケーションにアクセスします。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

契約（SQL名：amContract）

ローン返済明細

ローン返済明細はローン返済の期日を定義します。

返済期日は以下の要素から構成されています。

- 日付
- 元金
- 利率
- 手数料額

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

ローン返済明細（SQL名：amLoanPayment）

損失額（Loss value）

借主は、資産を紛失または破損した場合に、通常、補償金を支払う義務があります。

補償金の額は、紛失または破損した資産の価値によって決まります。一般に、この損失価額は契約上で定義されます。

AssetCenterでは、リース期間の開始日から経過した時間と、破損または紛失した資産のタイプに基づき、様々な方法で損失価額を計算できます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

損失額 (SQL名: amLossValLine)

損失額の損失率 (SQL名: amLossValRate)

損失率 (SQL名: amLossValRule)

買取額

大多数の契約書には、借主が公正な市場価格でリース物件を購入できること、またはしなければならないことが明記されています。

この価格は、この種のリース物件の通常の市場価格に基づいて貸主と借主の間で決定します。

同意語

期間満了 (End of term)

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産 (SQL名: amAsset)

市場価格

資産の市場価格は、資産が資産のテーブル内に追加された時の市場価格を指します。

新品の場合は購入価格、中古の場合は買い取り価格などになります。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産 (SQL名: amAsset)

初回金

どの種類の契約にも初回金が存在します。
リース契約の場合、初回金は一時金に相当します。
一般的に、一時金の支払額は資産の受領承認日から計算します。

同意語

一時金 (Interim rent)

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

資産 (SQL名 : amAsset)

9 | 参考情報（契約）

メニューとタブページ（契約）

契約モジュールのデータには、以下のメニュー、タブ、リンク、およびフィールドからアクセスできます。

表 9.1. メニューとタブページ（契約） - 一覧

サブメニュー	アクセスするテーブル（テーブル名とSQL名）	専用のタブ、フィールドまたはリンク	関連するマニュアルの章
[ファイル]メニュー			
モジュールの起動	ライセンスファイルで許可されていれば契約モジュールを選択 / 非選択できます。 以下のモジュールが非表示の場合に、このメニューを使用します。	N/A	マニュアル『はじめに』の「ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする」の章、「モジュールを起動する」の節を参照してください。

サブメニュー	アクセスするテーブル (テーブル名と SQL名)	専用のタブ、フィールドまたはリンク	関連するマニュアルの章
[契約] メニュー			
契約	契約 (amContract)	すべて	本マニュアル全体
アプリケーションサービス	契約 (amContract)	すべて	「アプリケーションサービス」の章
一括発注(複数)	契約 (amContract)	すべて	「契約」の章、「契約のタイプ」の節
マスターリース	契約 (amContract)	すべて	「リース - 概要」の章、「[オプション] タブページ: コメント以外のすべての情報。」の節
「リース明細」タイプの契約	契約 (amContract)	すべて	「リース - 概要」の章、「[オプション] タブページ: コメント以外のすべての情報。」の節
返却 - 期間満了	返却 (amReturnEnv)	すべて	「リース - リース資産」の章、「資産を返却する」の節
[ポートフォリオ] メニュー			
属性	属性 (amNature)	<ul style="list-style-type: none"> • [作成] (seBasis) • [契約のタイプ] フィールド (seCtrType) 	マニュアル『ポートフォリオ』の「ポートフォリオ品目」の章、「属性」の節を参照してください。
モデル	モデル (amModel)	[全般] タブページ内のフィールドの一部	マニュアル『ポートフォリオ』の「ポートフォリオ品目」の章、「モデル」の節を参照してください。
資産とロット	資産 (amAsset)	<ul style="list-style-type: none"> • [取得] タブページ内の大部分 • [支払] タブページ • [契約] タブページ 	「リース - リース資産」の章

サブメニュー	アクセスするテーブル(テーブル名とSQL名)	専用のタブ、フィールドまたはリンク	関連するマニュアルの章
部署と従業員	従業員 (amEmplDept)	<ul style="list-style-type: none"> • [アプリケーションサービス] タブページ • [契約] タブページ 	「契約」の章、「契約に関する連絡先」の節
グループ	従業員グループ (amEmplGroup)	[契約] タブページ	
サプライヤ	サプライヤ (amCompany)	[契約] タブページ	「契約」の章、「契約に関する連絡先」の節
[ツール]メニュー			
レポート機能 / レポート	レポート (amReport)	N/A	「参考情報(契約)」の章、「レポートと書式(契約)」の節
レポート機能 / 書式	内部用書式 (amForm)	N/A	「参考情報(契約)」の章、「レポートと書式(契約)」の節
アクション / 編集	アクション (amAction)	N/A	「参考情報(契約)」の章、「アクションとウィザード(契約)」の節
アクション / <アクションの名前>	コンテキストアクションまたはコンテキスト外アクションにアクセスできません。 選択されたアクションをトリガします。	N/A	「参考情報(契約)」の章、「アクションとウィザード(契約)」の節
ツールバーのカスタマイズ	ツールバーのアイコンを表示 / 非表示にします。	リースカテゴリ	「参考情報(契約)」の章、「ツールバーのアイコン(契約)」の節
[管理]メニュー			

サブメニュー	アクセスするテーブル (テーブル名と SQL名)	専用のタブ、フィールドまたはリンク	関連するマニュアルの章
画面一覧	メニューからアクセスできないテーブルを表示します。 このようなテーブルは直接変更してはならないため、管理者のみが同メニューにアクセスできます。	N/A	マニュアル『はじめに』の「レコードリスト」の章、「リストを使う」の節を参照してください。
リストデータ	リストデータ (amItemizedList)	N/A	「参考情報 (契約)」の章、「リストデータ (契約)」の節
カウンタ	カウンタ (amCounter)	N/A	「参考情報 (契約)」の章、「カウンタ (契約)」の節

ツールバーのアイコン (契約)

ツールバーに表示されるアイコンの中には、契約モジュールに固有のものがあります。

アイコンのリストを表示して、ツールバーに追加するには、次の手順に従います。

- 1 [ツール/ツールバーのカスタマイズ] メニューを選択します。
- 2 [ツール] タブを選択します。
- 3 [カテゴリ] のリストから [リース] を選択します。

ツールバーのカスタマイズに関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする」の章、「ツールバーをカスタマイズする」の節を参照してください。

インタフェースのオプション (契約)

契約モジュール用の一般的なオプションはありません。

テーブル (契約)

契約モジュールでは、以下のテーブルを使用します。

表 9.2. テーブル (契約) - 一覧

テーブル名とSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
契約モジュールに直接関連するテーブル		
資産の賃貸料 (amAssetRent)	[ポートフォリオ/資産と ロット]の[支払]タブ [管理/画面一覧]	「契約」の章、「契約賃貸 料の計算」の節 「リース-賃貸料」の章
契約上の資産 (amAstCntrDesc)	[ポートフォリオ/資産と ロット]の[契約]タブ [管理/画面一覧]	「契約」の章、「契約が伴 う資産の管理」の節 「リース-リース資産」の 章
返却 (amReturnEnv)	[契約/返却-期間満了]	「リース-リース資産」の 章、「資産を返却する」の 節
資産賃貸料の支払 (amAstRntExpLin)	なし	「リース-賃貸料」の章、 「資産の賃貸料を計算す る」の節
契約に含まれる従業員 (amCntrEmpl)	[契約/契約]の[従業 員]タブ [契約/アプリケーション サービス]の[従業員]タ ブ [契約/一括発注]の[従 業員]タブ [契約/マスターリース] の[従業員]タブ [契約/リース明細]の [従業員]タブ [管理/画面一覧]	「アプリケーションサービ ス」の章、「アプリケー ションサービス管理用の ワークフローのアクセシ ョン」の節/「このアプリ ケーションサービスの管理 アクション」
プロジェクトに割り当てら れた契約 (amCntrProjDesc)	[ポートフォリオ/プロ ジェクト]の[契約]タブ [管理/画面一覧]	マニュアル『ポートフォリ オ』の「作業指示とプロ ジェクト」の章、「プロ ジェクト」の節を参照して ください。

テーブル名とSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
契約賃貸料 (amCntrRent)	[契約 / 契約] の [賃貸料] タブ [契約 / 一括発注] の [賃貸料] タブ [契約 / リース明細] の [賃貸料] タブ [管理 / 画面一覧]	「契約」の章、「契約賃貸料の計算」の節 「リース - 賃貸料」の章
契約賃貸料の支払 (amCntrRntExpLin)	[管理 / 画面一覧]	「リース - 経費」の章、「定期的な賃貸料にリンクした経費明細の作成」の節
契約 (amContract)	[契約 / 契約] [契約 / アプリケーションサービス] [契約 / 一括発注] [契約 / マスターリース] [契約 / リース明細]	「契約」の章 「リース - 概要」の章 「リース - 実用例」の章
ローン (amLoan)	[契約 / 契約] の [ローン] タブ [契約 / 一括発注] の [ローン] タブ [契約 / リース明細] の [ローン] タブ [管理 / 画面一覧]	「契約」の章、「契約に関連するローン」の節
ローン返済明細 (amLoanPayment)	[契約 / 契約] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule) [契約 / マスターリース] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule) [契約 / リース明細] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule) [管理 / 画面一覧]	「契約」の章、「契約に関連するローン」の節
損失額 (amLossValLine)	[管理 / 画面一覧]	「リース - リース資産」の章、「損失額の計算規則を定義する」の節、「損失額を計算する」

テーブル名とSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
損失額の損失率 (amLossValRate)	<p>[契約 / 契約] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule)、規則の詳細画面</p> <p>[契約 / マスターリース] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule)、規則の詳細画面</p> <p>[契約 / リース明細] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule)、規則の詳細画面</p>	「リース-リース資産」の章、「損失額の計算規則を定義する」の節、「損失額を計算する」
損失率 (amLossValRule)	<p>[管理 / 画面一覧]</p> <p>[契約 / 契約] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule)</p> <p>[契約 / マスターリース] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule)</p> <p>[契約 / リース明細] の [リース] タブの [規則] フィールド (LossValRule)</p>	「リース-リース資産」の章、「損失額の計算規則を定義する」の節、「損失額を計算する」
業者 (amThirdParty)	<p>[契約 / 契約] の [連絡先] タブ</p> <p>[契約 / 一括発注] の [連絡先] タブ</p> <p>[契約 / マスターリース] の [連絡先] タブ</p> <p>[契約 / リース明細] の [連絡先] タブ</p> <p>[管理 / 画面一覧]</p>	「契約」の章、「契約に関する連絡先」の節 / 「業者の連絡先」
契約モジュールに間接的に関連するテーブル		

テーブル名とSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
資産 (amAsset)	[ポートフォリオ / 資産とロット]	「契約」の章、「契約に伴う資産の管理」の節 「リース-リース資産」の章
カタログ (amCatalog)	[調達 / カタログ]	マニュアル『カタログ』を参照してください。
発注 (amOrder)	[調達 / 発注と見積]	「リース-リース資産」の章、「リース明細に資産を追加する」の節
依頼 (amRequest)	[調達 / 購入依頼]	「リース-リース資産」の章、「リース明細に資産を追加する」の節
請求明細 (amInvoiceLine)	[調達 / サプライヤの請求書] の [明細] タブ	「リース-リース資産」の章、「リース明細に資産を追加する」の節
場所 (amLocation)	[ポートフォリオ / 場所]	マニュアル『ポートフォリオ』の「概要」の章、「ポートフォリオ品目の主要テーブル」の節を参照してください。
モデル (amModel)	[ポートフォリオ / モデル]	「アプリケーションサービス」の章、「アプリケーションサービスの詳細画面」の節 / 「基本情報」
属性 (amNature)	[ポートフォリオ / 属性]	マニュアル『ポートフォリオ』の「ポートフォリオ品目」の章、「属性」の節を参照してください。
従業員 (amEmplDept)	[ポートフォリオ / 部署と従業員]	マニュアル『ポートフォリオ』の「概要」の章、「ポートフォリオ品目の主要テーブル」の節を参照してください。
サプライヤ (amCompany)	[ポートフォリオ / サプライヤ]	マニュアル『主要テーブル』の「サプライヤ」の章を参照してください。

テーブル間の依存関係（契約）

契約モジュールでは、AssetCenterデータベースの数多くのテーブルを使用します。これらのテーブル間には多数のリンクが存在するため、テーブルの入力順を最適化することをお奨めします。

以下で記述する入力順に必ずしも従う必要はありません。AssetCenterでは、リンクするテーブルで欠けているレコードを必要に応じて作成することができます。

例

コストカテゴリを契約の前に作成しておくことをお奨めします。しかし契約の詳細画面に入力する際に、コストカテゴリを仮作成することも可能です。この場合多数のリンクするウィンドウに入力する必要があるため、操作は困難になります。

以下の表にリンクされているテーブルの一覧とレコードの能率的な入力順を示します。

契約モジュールに直接リンクしている二次的なテーブルはここでは省略します。主テーブルでレコードが作成されると、これらのテーブルに自動的に値が入力されます。

表 9.3. テーブル間の依存関係（契約） - 表

テーブル（テーブル名とSQL名）	前もって入力する必要があるテーブル（テーブル名とSQL名）	コメント
1 リストデータ (amItemizedList)	なし	どのリストデータに入力するべきかを確認するには、「参考情報（契約）」の章、「リストデータ（契約）」の節を参照してください。
1 コストカテゴリ (amCostCategory)	マニュアル『ファイナンス』を参照してください。	
2 コストセンタ (amCostCenter)		
1 属性 (amNature)	マニュアル『ポートフォリオ』を参照してください。	[作成]フィールド (seBasis) に「契約」を入力し、[契約のタイプ]フィールド (seCntrType) に値を入力します。
1 モデル (amModel)	マニュアル『ポートフォリオ』を参照してください。	

テーブル(テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要があるテーブル(テーブル名とSQL名)	コメント
1 国 (amCountry) 2 場所 (amLocation) 3 従業員 (amEmplDept) 4 従業員グループ (amEmplGroup)	マニュアル『 主要テーブル 』を参照してください。	
1 サプライヤ (amCompany) 2 契約 (amContact)	マニュアル『 主要テーブル 』を参照してください。	
1 税区分 (amTaxJuris) 2 税金の計算式 (amTaxFormula)	マニュアル『 ファイナンス 』を参照してください。	
1 発注 (amOrder)	マニュアル『 調達 』を参照してください。	これは一括発注タイプの契約の前提条件になります。この種の契約は 発注 のテーブル (amPOrder) のレコードを参照します。
1 資産 (amAsset)	マニュアル『 ポートフォリオ 』を参照してください。	

テーブル(テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要があるテーブル(テーブル名とSQL名)	コメント
1 契約 (amContract)	<ul style="list-style-type: none"> • コストカテゴリ (amCostCategory) • コストセンタ (amCostCenter) • モデル (amModel) • 場所 (amLocation) • 従業員 (amEmplDept) • 従業員グループ (amEmplGroup) • サプライヤ (amCompany) • 契約 (amContract) • 発注 (amOrder) • 資産 (amAsset) 	
1 業者 (amThirdParty)	<ul style="list-style-type: none"> • サプライヤ (amCompany) • 契約 (amContract) • 契約 (amContract) 	
1 契約上の資産 (amAstCntrDesc)	<ul style="list-style-type: none"> • 資産 (amAsset) • 契約 (amContract) 	
1 契約賃貸料 (amCntrRent)	<ul style="list-style-type: none"> • コストカテゴリ (amCostCategory) • コストセンタ (amCostCenter) • 税区分 (amTaxJuris) • 税金の計算式 (amTaxFormula) 	

テーブル(テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要があるテーブル(テーブル名とSQL名)	コメント
1 ローン (amLoan)	<ul style="list-style-type: none"> コストカテゴリ (amCostCategory) 	
2 ローン返済明細 (amLoanPayment)	<ul style="list-style-type: none"> コストセンタ (amCostCenter) サプライヤ (amCompany) 資産 (amAsset) 契約 (amContract) 	
1 損失率 (amLossValRule)	<ul style="list-style-type: none"> 契約 (amContract) 	
2 損失額の損失率 (amLossValRate)		
3 損失額 (amLossValLine)		
1 資産の賃貸料 (amAssetRent)	<ul style="list-style-type: none"> コストカテゴリ (amCostCategory) コストセンタ (amCostCenter) 税区分 (amTaxJuris) 税金の計算式 (amTaxFormula) 資産 (amAsset) 契約賃貸料 (amCntrRent) 	
1 契約に含まれる従業員 (amCntrEmpl)	<ul style="list-style-type: none"> 契約 (amContract) 従業員 (amEmplDept) 	

テーブル(テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要があるテーブル(テーブル名とSQL名)	コメント
1 返却 (amReturnEnv)	<ul style="list-style-type: none"> • 場所 (amLocation) • サプライヤ (amCompany) • 契約 (amContact) • 資産 (amAsset) • 国 (amCountry) • 契約 (amContract) 	
1 依頼 (amRequest)	マニュアル『調達』を参照してください。	リース契約で取得された資産の依頼、発注、受領に関連します。
2 依頼明細 (amReqLine)		
3 発注 (amOrder)		
4 発注明細 (amPOrdLine)		
5 受領 (amReceipt)		
6 受領明細 (amReqLine)		

リストデータ (契約)

フィールドに値を入力する際に、リストから値を選択する場合があります (リストデータ)。

[管理/リストデータ]メニューを選択して[リストデータ] (SQL名: amItemizedList) テーブルを表示します。

契約モジュール専用のリストデータは以下の表の通りです。

表 9.4. リストデータ（契約） - 一覧

リストデータの識別子	リストデータを使って入力するフィールド（フィールド名とSQL名）	フィールドが属するテーブル（テーブル名とSQL名）
amAspCntrProfile	プロファイル（Profile）	契約に含まれる従業員（amCntrEmpl）
amAssignCond	条件（AssignCond）	契約（amContract）
amCntrNature	属性（Nature）	契約（amContract）
amCntrStatus	ステータス（Status）	契約（amContract）
amFloatingRate	変動為替（FloatingRate）	ローン（amLoan）
amLossCond	条件（LossCond）	契約（amContract）
amPurchOptType	購入オプションのタイプ（PurchOptType）	契約（amContract）
amRenOptType	更新オプションのタイプ（RenOptType）	契約（amContract）
amRetOptType	返却オプションのタイプ（RetOptType）	契約（amContract）
amUpgOptType	アップグレードオプションのタイプ（UpgOptType）	契約（amContract）

リストデータの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「リストデータ」の章を参照してください。

特殊フィールド（契約）

契約モジュールでは、特殊フィールドを使用しません。

【管理 / 特殊フィールド】メニューを選択して【特殊フィールド】（SQL名：amCalcField）テーブルを表示します。

リストデータの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「特殊フィールド」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

カウンタ（契約）

契約モジュールでは、以下のカウンタを使用します。

これらのカウンタは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

[管理/カウンタ]メニューを選択して[カウンタ]（SQL名：amCounter）テーブルを表示します。

契約モジュールに直接関連するカウンタは以下の通りです。

表 9.5. カウンタ（契約）- 一覧

カウンタのSQL名	カウンタを使用するテーブル（テーブル名とSQL名）	カウンタを使用するフィールド（フィールド名とSQL名）
amLoan_Code	ローン（amLoan）	コード（Code）
amContract_Ref	契約（amContract）	参照番号（Ref）

カウンタの詳細については、マニュアル『データベース管理』の「データベースのカスタマイズ」の章、「フィールドのデフォルト値のカウンタ」の節を参照してください。

アクションとウィザード（契約）

専門分野データには契約モジュール用アクションが含まれています。

実際のデータベース内にアクションをインポートした後、以下の手順に従って契約モジュールを識別します。

- 1 アクションのリストを表示します（[ツール/アクション/編集]メニュー）。
- 2 リスト画面で右クリックします。
- 3 [リストの設定]メニューを選択します。
- 4 リンク[属性]（Nature）をリストの列見出しに追加します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 リストを[属性]列で並べ替えます。
- 7 契約モジュールのレポートは、BST_ASPとBST_CONTRACT属性で識別されます。

一部のアクションは本マニュアル内で説明されています。

表 9.6. アクションとウィザード（契約） - 一覧

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト（テーブルのSQL名）	関連するマニュアルの章
アプリケーションサービスの管理	ConnectToAdminAcct	実行可能ファイル	契約に含まれる従業員（amCntrEmpl）	「アプリケーションサービス」の章、 「アプリケーションサービス管理用のワークフローのアクション」の節 / 「このアプリケーションサービスの管理アクション」
アプリケーションサービスに接続	ConnectToASPService	実行可能ファイル	契約に含まれる従業員（amCntrEmpl）	「アプリケーションサービス」の章、 「アプリケーションサービス管理用のワークフローのアクション」の節 / 「アプリケーションサービスに接続アクション」
テクニカルサポートに電子メールを送信	MailToSupport	実行可能ファイル	契約（amContract）	「アプリケーションサービス」の章、 「アプリケーションサービス管理用のワークフローのアクション」の節 / 「テクニカルサポートに電子メールを送信アクション」

[ツール / アクション / 編集] メニューを選択して [アクション]（SQL名：amAction）テーブルを表示します。

リストデータの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「アクション」の章を参照してください。

新規のアクションを作成することもできます。

AssetCenter Serverモジュール（契約）

AssetCenter Serverの以下のモジュールは、契約モジュールで使用されます。

- 規定の損失額の計算
- 賃貸料の計算

これらのモジュールの詳細については、『データベース管理』マニュアルの「AssetCenter Server」の章の、「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

システムデータと専門分野データ（契約）

AssetCenterは、以下の標準データパッケージと共に提供されています。

これらのデータパッケージは、以下の2グループに分類できます。

- **システムデータ**：AssetCenterの使用に必須のデータ
- **専門分野データ**：必要に応じて、実際のデータベースに挿入するデータ
このデータは、機能別に分類されています。
- **サンプルデータ**：AssetCenterの使用に慣れるために便利なデータ

契約モジュールに関連するシステムデータ

システムデータには、契約モジュール専用のデータは含まれていません。

契約モジュールに関連するサンプルデータ

サンプルデータは、契約モジュールに関連するデータをレポートのテーブル（amReport）内に含んでいます。

契約モジュールに関連する**サンプルデータ**は、AssetCenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

契約モジュールに関連する**サンプルデータ**を実際のデータベースでも使用するには、AssetCenter Database Administratorでこれを指定する必要があります。

契約モジュールに関連する専門分野データ

専門分野データは、契約モジュール用に以下のテーブルのデータを含んでいます。

- リストデータ（SQL名：amItemizedList）
- 任意管理項目（SQL名：amFeature）
- アクション（SQL名：amAction）

- ワークフローに関するテーブル
- アプリケーションのオプション（SQL名：amOption）

契約モジュールに関連する**専門分野データ**は、AssetCenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

契約モジュールに関連する**専門分野データ**を実際のデータベースでも使用するには、AssetCenter Database Administratorでこれを指定する必要があります。

レポートと書式（契約）

AssetCenterには書式とレポートが付属しています。一部の書式とレポートは契約モジュールに関連しています。

レポートと書式をデータベースで使用できるようにするには、AssetCenter Database Administratorでレポートと書式をインポートする必要があります。

契約モジュールに関連するレポートのインポートと識別

レポートのインポートの詳細については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章「レポート作成プログラムの操作とインストール」の「既製のCrystal Reportsレポートを実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

契約モジュールに関連するレポートを識別する方法については、『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章、「モジュールに関連するCrystal Reportsの識別」の節を参照してください。

契約モジュールに関連する書式のインポートと識別

書式のインポートの詳細については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「既製の書式を実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

契約モジュールに関連する書式を識別する方法については、『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「モジュールに関連する書式の識別」の節を参照してください。

自動アクション（契約）

AssetCenterがバックグラウンドで実行する自動プロセスに関する情報については、マニュアル『データベース構造』を参照してください。同マニュアルで記述されている各テーブルの章ごとに、「自動プロセス」という節があります。

API（契約）

契約モジュールに関連するAssetCenter APIはありません。

APIの一覧および説明については、『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

ビュー（契約）

契約モジュール用のデフォルトのビューはありません。

ビューの詳細に関しては、マニュアル『はじめに』の「ビューの使用方法」の章を参照してください。

その他のマニュアル（契約）

本マニュアルには、契約モジュールに直接関連する情報のみが記載されていません。

本マニュアルに加えて、以下のマニュアルを参照することをお奨めします。

表 9.7. その他のマニュアル（契約） - 一覧

マニュアル名	内容	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
インストール	<ul style="list-style-type: none"> AssetCenterのインストール 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/installbook*.pdf</code> <code>/doc/chm/installbook*.chm</code>
主要テーブル	<ul style="list-style-type: none"> 部署と従業員 従業員グループ 場所 サプライヤ 連絡先 国 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/core*.pdf</code> <code>/doc/chm/core*.chm</code>
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの一般的なUI情報 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/intro*.pdf</code> <code>/doc/chm/intro*.chm</code>

マニュアル名	内容	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> 属性 モデル 資産 	印刷版 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> /doc/pdf/asset*.pdf /doc/chm/asset*.chm
データベース管理	<ul style="list-style-type: none"> リストデータ フィールドのカスタマイズ 	印刷版 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> /doc/pdf/admin*.pdf /doc/chm/admin*.chm
フィールドおよびリンクに関する状況依存ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> データベースのフィールドとリンクの説明 	オンライン	<p>特定のフィールドまたはリンクを選択してから、以下の操作のうち1つを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 右クリックして、[フィールドのヘルプ]メニューを選択します。 キーボードで [Shift + F1] キーを押します。 [ヘルプ/フィールドのヘルプ]メニューを選択します。
データベース構造	<ul style="list-style-type: none"> データベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスの一覧 AssetCenterが自動的にトリガするエージェント 	テキストファイル 印刷版 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> /infos/database.txt /infos/tables.txt /doc/pdf/dbstruct*.pdf /doc/chm/dbstruct*.chm
オンラインヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの全機能 	オンライン	<p>特定のフィールドまたはリンクを選択してから、以下の操作のうち1つを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーボードで [F1] キーを押します。 [ヘルプ/インデックス]メニューを選択します。
ファイナンス	<ul style="list-style-type: none"> コストカテゴリ コストセンタ 税区分 税金の計算式 	印刷版 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> /doc/pdf/cost*.pdf /doc/cost*.chm

マニュアル名	内容	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
調達	• 発注	印刷版	/doc/pdf/procur*.pdf
	• 依頼	オンライン	/doc/procur*.chm
	• 受領		

ワークフローチャート（契約）

専門分野データには、契約モジュール用のワークフローチャートが含まれています。

実際のデータベース内にワークフローチャートをインポートした後、以下の手順に従って契約モジュールを識別します。

- 1 ワークフローチャートのリストを表示します（ [ツール/ワークフロー/ワークフローチャート] ）。
- 2 リスト画面で右クリックします。
- 3 [リストの設定] メニューを選択します。
- 4 リンク [実行グループ] （GroupName）をリストの列見出しに追加します。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 リストを [実行グループ] 列で並べ替えます。
- 7 契約モジュールのワークフローチャートは、BST_ASPとBST_CONTRACT実行グループで識別されます。

一部のワークフローチャートは本マニュアル内で説明されています。

表 9.8. ワークフローチャート（契約） - 一覧

ワークフローチャート名	ワークフローチャートの参照番号	開始オブジェクトのコンテキスト	関連するマニュアルの章
ユーザアカウントの管理	ASP002	契約に含まれる従業員 (amCntrEmpl)	「アプリケーションサービス」の章、「アプリケーションサービス管理用のワークフローのアクション」の節 / 「ユーザアカウントの管理ワークフロー」

ワークフロー チャート名	ワークフロー チャートの参照 番号	開始オブジェク トのコンテキス ト	関連するマニュアルの章
アプリケーションサービスの賃貸料の計算	ASP001	契約賃貸料 (amCntrRent)	「アプリケーションサービス」の章、「アプリケーションサービス管理用のワークフローのアクション」の節 / 「アプリケーションサービスの賃貸料計算ワークフロー」

[ツール/ワークフロー/ワークフローチャート]メニューで、[ワークフローチャート] (amWfScheme) テーブルを表示します。

ワークフローチャートの詳細に関しては、『AssetCenterの高度な使い方』の「ワークフロー」の章を参照してください。

